

THE ROTARY-NO-TOMO

ロータリーの友

11

2016
NOVEMBER
VOL.64 NO.11



難民にシェルターを

日本のポリオ

発症から撲滅へ、そして今後の課題

Rotary





Rotary 

THE ROTARY FOUNDATION

YEARS OF DOING GOOD IN THE WORLD

©Alyce Henson / Rotary International

アーチ C. クランフの革新

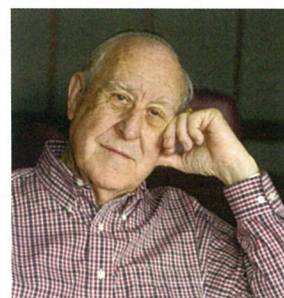
親愛なるロータリアンの皆さん、1917 年にアトランタで開催された記念すべきロータリー年次大会に思いを馳せてみましょう。この大会で、当時の会長アーチ C. クランフが残した「世界でよいことをするための基金をつくるのが、極めて適切であると思われる」という言葉が論争を巻き起こしたなどとは想像もつかないでしょう。しかし、当時、このアイデアは満場一致で支持を得るには程遠いものでした。基金は、価値を生み出すよりも、むしろ、問題が起きる方が多いのではないかと危惧する人たちがいたのです。それでも、このクランフのアイデアは、ミズーリ州カンザスシティ・ロータリークラブから寄せられた 26 ドル 50 セントの寄付というかたちで、最初の支持を得ることとなりました。

100 年近くがたった今、私たちは、このアイデアが単に先見の明があったというだけでなく、革新的でもあったと認識できます。つまり、このアイデアによって、今日、ロータリーが「世界でよいこと」をするための巨大な力となれる仕組みが確立されたのです。

皆さんご存じの通り、多くの点でロータリー財団は、ロータリーの礎です。クラブ同士、また他団体との協力とパートナーシップの枠組みを築いてきました。そのおかげで私たちは、奉仕活動に対する意欲を向上することができ、ポリオ撲滅のような歴史に一ページを刻む目標にたどり着くこともできました。ロータリー財団の成果として、過去 100 年間に成し遂げてきたよいことを数量化することは不可能ですが、アーチ・クランフが今の財団を見たら、誇りに思うであろうことは疑う余地がありません。

財団が誕生した街、アトランタで行われる国際大会で多くの方々にお目にかかることを楽しみにしています。財団 100 周年を祝うため、これまでで最も多いロータリアンが集うことを期待しています。しかしながら 100 周年を祝う方法は、ほかにもたくさんあります。詳細は 100 周年記念ウェブサイト (centennial.rotary.org) でご覧ください。このサイトでは、財団の歴史だけでなく、クラブや地域社会でのイベントやプロジェクトのアイデアも紹介されています。

財団 100 周年の祝賀で最も重要なのは、3 億ドルの寄付目標を達成することです。皆さまからお寄せいただく財団への支援が、ロータリアンが次の 1 世紀も世界でよいことを続け、そして「人類に奉仕するロータリー」のため、最善の方法となります。



ジョン F. ジャーム R I 会長の講演とニュースは www.rotary.org/office-president から。

John F. Germ
2016-17年度 国際ロータリー会長



ロータリーの友
Home Page
www.rotary-no-tomo.jp

原文（英語）はこちらから

11月はロータリー財団月間です
10月31日～11月6日は世界インターアクト週間です

- 3 R I 会長メッセージ
アーチ C. クランフの革新 
R I 会長 ジョン F. ジャーム

ロータリー財団100周年を祝う

- 20 アメリカからの V T T 来訪
千里 R C V T T 委員長 萬年 成泰

- 21 空港にフラワーウォール、
公園におもしろベンチ設置
宇部 R C
さぬき高松まつりチャリティー募金活動
第2670地区ガバナー 前田 直俊

- 22 World Roundup
世界のロータリーニュース
THE ROTARIAN 11月号から

- 24 よねやまだより
“よねやま”から広がる新しい世界 ⑰
出逢いは感動の始まり
大阪東 R C 井上 雅晴
米山学友 バンパット・トゥメンデルゲル

- 7 特集
難民にシェルターを

国連 UNHCR 協会 ファンドレイジンググループ 団体統括
中村 恵
(1983-84年度ロータリー財団国際親善奨学生)
写真: UNHCR
阿阪 奈美
(2005-06年度ロータリー財団国際親善奨学生)

End Polio Now

- 12 日本のポリオ 発症から撲滅へ、そして今後の課題
京都モーニング R C 太田 和夫

- 18 ポリオの会に参加して
東京東江戸川 R C 嶋村 文男
レスリング大会でポリオ撲滅の理解促進活動
柳井 R C 松浦 礼英

- 19 ポリオサバイバーで歌手のドノヴァンが
ポリオ撲滅大使に
THE ROTARIAN 11月号から

- 26 心は共に
熊本地震
豊中南 R C / 東大阪中央 R C 岩橋 竜介 /
熊本東 R C・第2660地区
東日本大震災
東京神田 R C 雑誌会報委員長 木下 照雄 /
名古屋大須 R C 鬼頭 茂成

- 29 ようこそ Rotary
世界に友達の輪を広げましょう

- 30 『ロータリーの友』ウェブサイトをご活用ください

- 6 ■ロータリーとは
31 ■パズルdeロータリー
32 ■投稿規定(ご投稿をお待ちしています!)
33 ■エバンストン便り
34 ■管理委員長の思い 
35 ■「パズルdeロータリー」(8月号)の答えと解説
36 ■お知らせ
『友』誌ご購読部数変更についてのお願い・新 I A C・
地区別クラブ数/会員数一覧表・『友』12月号主要記事予定
37 ■日本ロータリー分布図
37 ■奥付

一般社団法人 ロータリーの友事務所
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル4階
Tel. 03-3436-6651 Fax. 03-3436-5956
編集部メール hensyu@rotary-no-tomo.jp

ロータリーの友 
Home Page 
www.rotary-no-tomo.jp



P12～19 1979年、フィリピンで世界で初めてとなる大規模なポリオワクチン接種活動が展開されました

ロータリーの友 委員会

委員長 清水 良夫 (横浜)
副委員長 片山 主水 (名古屋東南)
R1理事 斎藤 直美 (豊田)
R1理事エレクト 石黒 慶一 (鶴岡西)

特別顧問 神崎 正陳 (茅ヶ崎湘南)
上野 孝 (横浜)
安平 和彦 (姫路)
片岡 信彦 (土浦南)
橋本 長平 (京都東)

顧問 井原 實 (さいたま新都心)
田中 賢三 (茅ヶ崎)
東 良輝 (宇都西)
吉田 雅俊 (東京新都心)
猿渡 昌盛 (東京武蔵府中)

地区 代表委員

2500 福地 博行 (北見)
2510 松原 良次 (札幌南)
2520 熊谷 雅也 (大船渡西)
2530 白岩 良子 (三春)
2540 佐野 公彦 (秋田北)
2550 真尾 進一 (足利わたらせ)
2560 杉本 俊夫 (長岡東)
2570 古屋 一生 (熊谷西)
2770 伊藤 悟 (大宮シティ)
2790 金井 淨 (横浜コスモポリタン)
2800 林 政俊 (山形)
2820 関根 一彦 (古河中央)

2830 米内 安芸 (八戸南)
2840 板垣 忍 (前橋)
2580 林 茂男 (東京ベイ)
2590 小黒 久男 (川崎西)
2600 西堀 恒司 (松本)
2610 川合 声一 (南砺)
2620 西貝 誠一 (清水中央)
2630 清水 幸平 (高山中央)
2750 井上 直行 (東京町田サルビア)
2760 尾本 和弘 (名古屋東南)
2780 井島 誠行 (小田原中)
2640 寺崎 勝彦 (堺)

2650 浅野 一裕 (日本ロータリークラブ2650)
2660 一瓢 秀次 (大阪北)
2670 三浦 聖人 (観音寺)
2680 佐茂 省治 (尼崎中)
2690 岡田 端 (堺港)
2700 坂井 圭子 (甘木)
2710 澁谷 紀子 (広島中央)
2720 赤川 治之 (大分中央)
2730 祝迫 哲哉 (額娃)
2740 阿部 芳男 (長崎北)
編集長 二神 典子 (東京築地)

ロータリーとは

ロータリーの誕生とその成長

20世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道德の欠如が目につくようになっていました。

ちょうどそのころ、ここに事務所を構えていた青年弁護士ポール・ハリスはこの風潮に堪えかね、友人3人と語って、お互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたい、という趣旨でロータリークラブという会合を考えました。ロータリーとは集会を各自の事務所持ち回りで順番に開くことから名付けられたものです。

こうして1905年2月23日にシカゴロータリークラブが誕生しました。

それからは、志を同じくするクラブが、つぎつぎ各地に生まれて、国境を超え、今では200以上の国と地域に広がり、クラブ数35,399、会員総数1,207,913人（2016年7月1日RI公式発表）に達しています。

そして、これら世界中のクラブの連合体を国際ロータリーと称します。

このように、歴史的に見ても、ロータリーとは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりなのです。その組織が地球の隅々にまで拡大するにつれて、ロータリーは世界に眼を開いて、幅広い奉仕活動を求められるようになり、現在は多方面にわたって多大の貢献をしています。

日本のロータリー

わが国最初のロータリークラブは、1920（大正9）年10月20日に創立された東京ロータリークラブで、翌1921年4月1日に、世界で855番目のクラブとして、国際ロータリーに加盟が承認されました。

日本でのロータリークラブ設立については、ポール・ハリスの片腕としてロータリーの組織をつくり、海外拡大に情熱的に取り組んだ初代事務総長チェスリー・ペリーと、創立の準備に奔走した米山梅吉、福島喜三次などの先達の功を忘れることができません。

その後、日本のロータリーは、第2次世界大戦の波に洗われて、1940年に国際ロータリーから脱退します。戦後1949年3月になって、再び復帰加盟しますが、この時、復帰に尽力してくれたのが国際ロータリーの第3代事務総長ジョージ・ミーンズでした。

その後の日本におけるロータリーの拡大発展は目覚ましいものがあります。ロータリー財団への貢献も抜群で、今や国際ロータリーにおける日本の地位は不動のものになりました。現在、日本全体でのクラブ数は2,265、会員数88,951人（2016年8月末現在）となっています。

2016 - 17 RI テーマ



ROTARY SERVING HUMANITY

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

難民にシェルターを



 **UNHCR**
The UN Refugee Agency

© UNHCR / Benjamin Loyseau

国連UNHCR協会
ファンドレイジンググループ団体統括
中村 恵(1983 - 84 年度ロータリー財団国際親善奨学生)

国際社会は現在、第二次世界大戦以降、最大の難民危機に直面しています。しかし、難民保護のための資金は大幅に不足しており、この危機への取り組みに多大な影響が出ています。

2016年5月、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR ユー・エヌ・エイチ・シー・アール）は「グローバル・シェルター・キャンペーン」（英語名“Nobody Left Outside”）を開始し、2018年までに難民200万人のためのシェルター建設または改善のための資金提供を民間セクターに呼びかけています。200万人という数は、UNHCRの援助対象者となる難民数のほぼ8分の1

に当たります。

シェルターには家族用テント、仮設住宅、借家などさまざまな形式がありますが、難民にとって、暴力や迫害による肉体的・精神的ダメージから回復するために必要な基盤となるのです。

UNHCRでは、ロータリー財団の奨学金によって海外に留学した経験を持つ複数の学友が活躍しています。ここでは、そのなかの一人、阿阪奈美さんが撮影した写真を通して、各地のフィールドにおけるUNHCRの援助活動をご紹介します。

阿阪奈美（あさかなみ）

東京中野ロータリークラブ（現・東京セントラルパークRC）推薦、財団国際親善奨学生として2005年にイギリスに留学。2008年以来、UNHCR職員として南スーダンのジュバ、スーダンのダルフル、エチオピア、2度目の南スーダン、ヨルダンのイルビッド県の現地事務所を経て、2016年7月以来、タイのカンチャナブリー現地事務所にて保護官。（写真：UNHCR／N.Asaka）

南スーダンの首都ジュバ郊外にあるロロゴ（Lologo）難民定住地には、エチオピア政府による弾圧や差別を逃れてきたアニュアック（Anyuak）族のエチオピア難民が住んでいます。UNHCRは教育、保健、水衛生、シェルターなどの支援をしています。



南スーダンのエチオピア国境近くのジョングレイ（Jonglei）州（2014年当時）ポチャラ（Pochalla）郡にあるアラリ（Alari）難民定住地にも、エチオピア政府による弾圧や差別を逃れてきたアニュアック族のエチオピア難民が住んでいます。UNHCRは正確な難民人口を把握するために、数年に一回、難民登録を行います。南スーダンでは顔写真や指紋の生体認証技術を導入し登録を行っています。日中最高気温が40度にも達する乾期ですが、何も建物が無いのでUNHCR職員は木陰で作業を行いました。



南スーダンでは 2013 年 12 月に再び内戦が勃発し、多くの人々が国内で安全な場所を求めて避難しました。隣国ウガンダの国境近くのニムレ（Nimule）という町は、戦闘地から遠く比較的安全だったため、国境を越えてウガンダで再び「難民」として生きていくのを嫌った人々が集まってきて、人口密集地となりました。もともと住民の教育、保健、水衛生などの基本的なニーズさえ満たせていなかった町に多数の国内避難民が殺到し、人々の生活状況はますます厳しくなりました。UNHCR はパートナー団体とともに、バケツ、水くみ容器、蚊帳などの援助物資を提供しました。



スーダンのダルフル地方では内戦がいまだ終結しないため、国内避難民の生活も長引いています。南ダルフル州の州都ニャラ（Nyala）郊外には国内避難民キャンプが数か所あり、UNHCR は人道支援が届きにくい母子家庭など、社会的弱者に対して住居支援を行いました。住居建設には建設技術を持つ国内避難民の男性を雇用しました。



シリア南西部の国境に隣接するヨルダンのイルビッド（Irbid）県には、2011 年以降、内戦を逃れてきた多数のシリア難民が暮らしています。イルビッド県のシリア難民は主に都市部に住んでいますが、もともとシリアで季節労働者として農業に従事していた人々の多くは、イルビッド市郊外の農村でヨルダン人農場主のもとテント生活を送っています。テント生活の難民も都市難民と同様に U N H C R による現金の給付支援の対象になるので、基準を満たすかどうか判断するために、生活状況の聞き取り調査を行っています。



ミャンマーとタイ国境沿いの地域には、1990 年代からミャンマーでの政情不安や少数民族への弾圧を逃れてきた人々が暮らす難民定住地が 9 か所あります。1997 年から続くタムヒン（Tham Hin）定住地には、カレン（Karen）族のミャンマー難民が暮らしています。彼らは主に竹と木材を使って住居を建設します。

さらに、U N H C Rで活躍中の財団学友には、現在、スーダン事務所代表の吉田典古さん（京都府・福知山R C推薦）、タンザニア事務所副代表の赤阪陽子さん（大阪府・富田林R C推薦）、スイス・ジュネーブ本部欧州局・上級法務担当官の白戸純さん（埼玉県・越谷R C推薦）、タイ・バンコクのアジア・太平洋地域事務所・民間パートナーシップ担当官の細井麻衣さん（兵庫県・神戸R C推薦）、そして、2016年1月以来、ヨルダンのアンマンで、上級インターエージェンシー調整担当官として、シリア難民の支援に携わっている神山由紀子さん（岐阜県・岐阜北R C推薦）がいます。

世界各地でU N H C Rは大規模なシェルター建設の必要性に絶え間なく直面していますが、資金は限られています。できる限り多くの援助対象者にテントなどの緊急

シェルター提供を優先させるため、より永続的かつ持続的な解決への投資を後回しにせざるを得ない状況が続いています。

シェルターの支援を最も必要としている地域は、サハラ以南のアフリカおよび中東・北アフリカです。アジアや、難民の流入が続くヨーロッパもまた支援を必要としています。

例えば150万円あれば、5人家族用のテント（約6万円／張）を25張届けることができます。

U N H C Rにとって民間セクターの重要性は高まる一方で、2015年度のU N H C Rの財源全体の8%以上を民間セクターが占めています。

ぜひロータリークラブの皆さまに、本キャンペーンにご協力いただきたく、重ねてお願い申し上げます。



© U N H C R / Sebastian Rich

ブルンジからタンザニアに逃れてきた一家。難民キャンプ到着2日後に家族用テントの配給を受けた

『ロータリーの友』バックナンバーに掲載された次の関連記事もご参照ください。

2009年2月号「U N H C Rで活躍する元ロータリー財団親善奨学生 ロータリー世界平和フェロー」

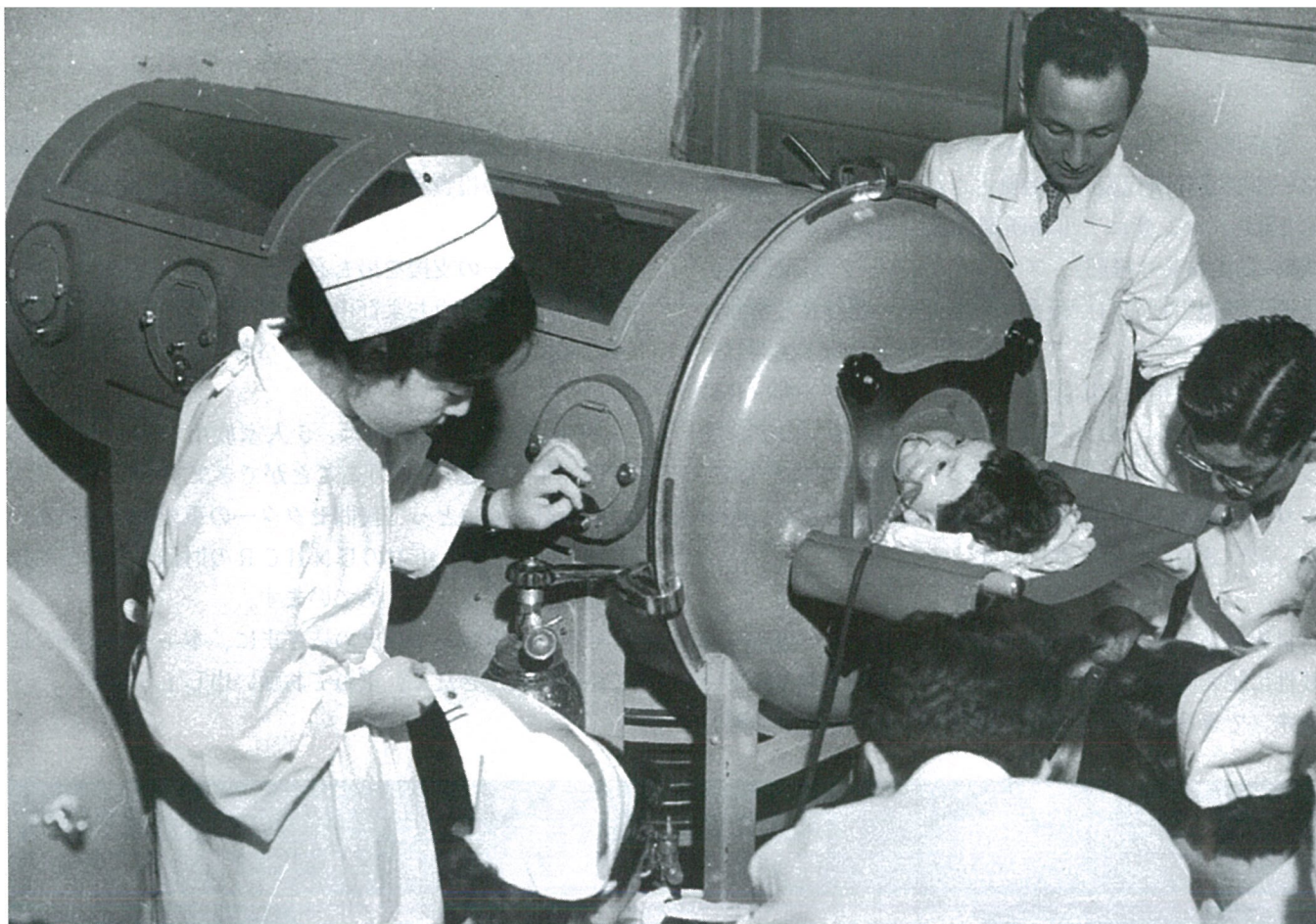
2014年11月号「U N H C Rで今も活躍する元ロータリー財団奨学生・ロータリー平和フェロー」

<お問い合わせ先>

国連U N H C R協会

Tel. 03-3499-2450 Fax. 03-3499-2273

Eメール nakamura@japanforunhcr.org（中村宛）



日本のポリオ

発症から撲滅へ、そして今後の課題

京都モーニングRC 太田 和夫

ポリオの患者は世界で減り続け、根絶は目前となっている。ロータリーのポリオの根絶は1978年の「保健、飢餓追放、人間性尊重（3-H）プログラム」から始まり、1979年にはフィリピンの600万人の子どもにポリオの予防接種のプロジェクトが始まった。そしてロータリーは1985年に「ポリオプラス」プログラムを開始し、1988年のWHO（世界保健機関）で世界ポリオ根絶推進活動が発足し、2000年までに全世界から根絶する宣言を行ったが、この目標は達成されなかった。また、2005年のロータリー100周年でも100%の達成はできなかった。

しかし、1988年当時、ポリオ常在国125か国、35万人いたと推定されたポリオ患者は、10年後の1998年には2万人となり、大幅な減少を示した。1999年に、常在国は30か国になっている。2003年には784人、6か国まで減少した。1994年に南北アメリカで、2000年に日本を含む西太平洋地域で、2002年には旧ソビエト連邦地区を含めたヨーロッパ地区でポリオ根絶宣言が出された。そして2015年には野生ポリオウイルスの常在する国はアフガニスタン、パキスタン^{*}2か国

となり、74人の患者が報告されている。

2000年にポリオの根絶宣言を出した日本では、すでにポリオは忘れかけている存在となり、現在の日本の整形外科の教科書にはポリオの病名の記載はない。世界では、ユニセフやロータリー財団が常にポリオの経過の報告を行っているが、日本のポリオの経過、現状などの報告は、ポリオワクチン接種が現在も行われているにもかかわらずお目にかからない。昭和30年代に日本国内でポリオが流行し、多くのポリオの患者が発生した。京阪神地区でも専門病院が必要となり、1963（昭和38）年、京都に「肢体不自由児施設聖ヨゼフ整肢園」（現・聖ヨゼフ医療福祉センター）がつくられた。私はこの聖ヨゼフ整肢園に1970（昭和45）年から約6年間、ポリオなどの肢体不自由児の治療に携わっていた。ポリオの治療に携わった整形外科医の一人として、日本のポリオの発症から根絶の状況と今後の課題の報告である。

ポリオウイルスとは

ポリオの名称は、英語のPoliomyelitisの前半部分の「Polio、ポリオ」（灰白部）に由来し、正式名称は急性

写真上：1960年、全米対小児マヒ財団から貸与された「鉄の肺」で治療を受ける患者。札幌医大病院で © 読売新聞／アフロ

灰白髄炎のことで、一般名を脊髄性小児麻痺（略して小児麻痺）であり、ポリオウイルスによる感染症である。5歳以下の小児の罹患率が高い（90%以上）ことから小児麻痺の名前がついているが大人にも感染し得る。

ポリオの病原体であるポリオウイルスは、1本のRNAを遺伝子としてもつピコルナウイルス科に属し、コクサッキーウイルス（手足口病のウイルス）と同じく人の腸管で増殖するエンテロウイルスに属し、血清型により1型、2型、3型の3種類に分類されている。各国において3つの型の分布が異なる。ポリオウイルスは地域集団で伝播する際、1年間で1%程度の遺伝子変異を起こすとされている。ポリオウイルスの自然宿主はヒトだけで、ほかの動物への感染はなく、人から人への感染だけである。サルへの感染はない。

ポリオウイルス感染様式は、主に感染者の腸管から排泄された糞便中のウイルスが手や指を介して、また飲み水や食物などから口の中に入り、のどの粘膜や腸管の粘膜で増殖する。増えたポリオウイルスは再び便の中に排泄され、この便を介してさらにウイルスはほかの人に感染する。まれに発病の初期ではウイルスは咽頭粘膜でも増殖し飛沫感染も起こることがある。人間に感染したウイルスはリンパ組織で増殖し、リンパ管を介して血液に入り、中枢神経に到達し、脊髄前角や脳幹の運動神経細胞に感染・増殖して細胞を破壊する。そして手、足の麻痺を起こし、まれに呼吸麻痺を起こす。便からのウイルスの排出は発病の3～6週間まで続く。

ポリオの感染者の90～95%は無症候性の不顕性感染で、約5%は発熱、頭痛、咽頭痛、悪心、嘔吐などの

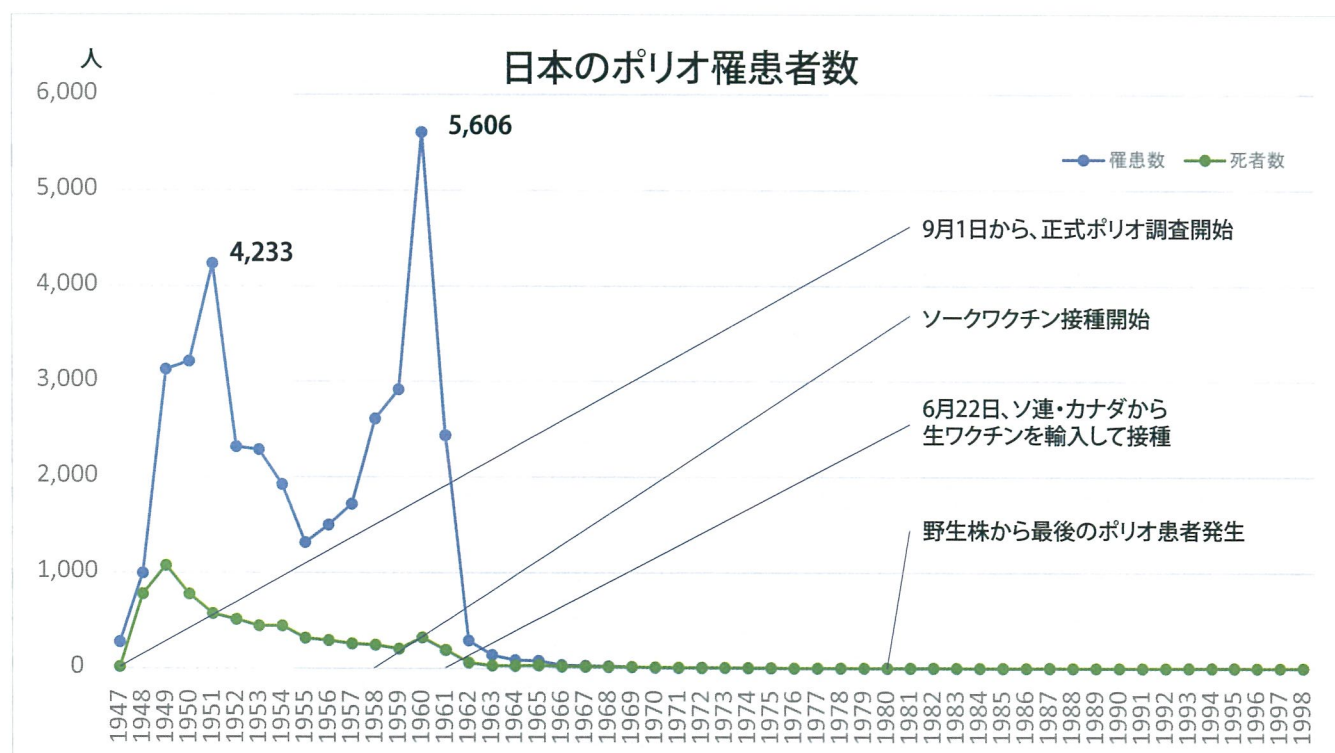
感冒・急性胃腸炎の症状に似たものである。その後、熱が下がるころに、足や腕に弛緩性の麻痺が起こる。風邪の症状のみで軽快する不全型、1～2%が無菌性髄膜炎を併発する非麻痺型で、麻痺性ポリオを発症するのは0.1%程度である。潜伏期は1～2週間で、発熱などの症状が続く麻痺が発症する。死亡率は5～10%程度で、肋間筋や横隔膜が侵されると呼吸困難を来して死亡する例があったが、人工的な呼吸補助の使用によって死亡例が減少した。

ポリオの発生・流行は5月から10月にかけての6か月間に多く、初期は感冒の症状であることから夏季感冒あるいは夏季下痢とも言われていた。

発症からワクチン接種まで

古代エジプト第18王朝（B.C.1403～1365年）の石碑に片足が萎縮麻痺しつえを突いた人物が描かれており、ポリオだろうと言われている。日本では北海道洞爺湖町の入江貝塚から発掘された約4000年前の縄文時代後期の女性の人骨に見られる特徴がポリオの可能性があるとされている。しかし科学的には確定されていない。

本症の歴史は、1784年にアンダーウッドがロンドンにおける状況を報告したことに始まる。ポリオは元来温暖地方に散発的に散布し、風土病的に発生していたものであるが、1840年のジャイコブ・ハイネが本症を独立した脊髄性疾患と報告、1841年にアメリカ・ルイジアナ州で大流行した。1874年にクシュマルがこれを急性脊髄前角炎と命名した。1887年ストックホルムでの流行をメディンが報告したことから、1890年にハイ



ネ-メディン病と呼ばれ、19世紀後半から20世紀前半にかけてヨーロッパやアメリカで大流行を起こした。1909年に本疾患がウイルス性疾患であることが証明された。第2次世界大戦後には世界中に広がり流行した。

日本では1910（明治43）年代、1920年代に流行し、1923（大正12）年に独立の疾患として認められた。1930年代にも散発的に流行した。1938～1940年には阪神地方に流行した。そして1940年代の終わりころから、1960年代初頭にかけて全国的なポリオの流行があり、1947年にはポリオは届出伝染病に指定されて、同年9月から正式のポリオ調査が始まった。

日本国内のポリオの患者数は1947年には275人、1948年には993人（死亡775人）、1949年には青森で流行があり患者は3,127人（死亡1,074人）、と増加、1950年には3,212人（死亡775人）と増加し、全国的に広がった。

1949年の東京都のデータでは、192人中154人は5歳以下で2～3歳が多く、11歳以上は15人との報告がある。外国でもポリオの80～90%が5歳以下で11歳以上は極めて少ない。5歳未満の患者が9割を占めており、身体障害の予防と治療のために肢体不自由施設が必要となった。

1960年になり集団発生が顕著に起こり、4月には高知県、愛媛県に、6月には夕張市を中心に北海道全域にポリオが流行し、その後、全国に流行、岩手、愛知、山口、愛媛、宮崎などの各県に、そして北九州に集団発生した。患者数は5,606人に及ぶ史上最大の患者数を数えた。

北海道の夕張での流行で延髄までウイルスが達して呼吸麻痺を起こし、死亡例が発生したことから、アイゼンハワー大統領から鉄の肺（鉄製で円筒形の気密室になっ

た人工呼吸器）が輸送され、多くの患者が救われた。

1959年6月15日小児麻痺は伝染病として指定され、指定伝染病となり、以後コレラ、赤痢、日本脳炎などと同じような取り扱いとなった。

1961年に不活化ワクチンの定期接種を開始するも、日本で製造したワクチンだけではポリオ流行期の集団接種に対応できず、緊急に生ワクチンをソ連、カナダから輸入した。以上が日本でのポリオワクチンの接種が始まるまでの経過である。

ポリオワクチンとは

ワクチンはウイルス感染に対して抗体を作り免疫力を高めて抵抗力を人為的に高める。日本ではポリオワクチン以外にも多くのワクチンがあり、代表的なものは3種混合ワクチン（ジフテリア、破傷風、百日咳^{ぜき}）、麻疹ワクチン、インフルエンザワクチン、BCGワクチンなどがある。しかし、ワクチンの投与にはごくまれであるが副作用や健康被害が不可避に生じることを考慮しておく必要がある。また生ワクチンは高温、日光に弱く、不活化ワクチンは凍結に弱いなど、温度管理も必要である。

1932年、アメリカでポリオの流行があり、コルマーがウイルスを殺すことなく病原性を弱めた弱毒ポリオワクチンを考え、ポリオワクチンの開発を始めた。

1936年にブローディーがポリオを感染させたサルから不活化したワクチンをつくり出した。1948年にアメリカのジョン・エンダースらが組織培養法を完成し、大量のワクチンづくりがスタートした。エンダースはこの業績で1954年ノーベル賞を受賞している。

ポリオワクチンには1953年にアメリカのピッツバーグ大学のジョナス・ソーク教授が開発した不活化ワクチン（ソークワクチン）

と1955年にアルバート・セービン博士が開発した弱毒生ワクチン（セービンワクチン）の2種類がある。

不活化ワクチンは、ポリオウイルスを不活化（殺し）して、免疫をつくるのに必要な成分を取り出して感染力を失わせたウイルスであるので体内では増殖することなくワクチン関連麻痺の危険性のない安全なワクチンである。しかし、経口で



©Alyce Henson / Rotary International

ないため腸管での免疫産生がなく、腸管での免疫能が弱い。発病予防効果はあるが流行時の感染防御能は弱い。1回の投与では十分な抗体ができず、日本では3回に加えて1回以上の追加が必要とされている。注射であることから痛みがあり、機材の消毒、廃棄処分などに考慮が必要で、価格が高い。

この不活化ワクチンはサルの腎臓の細胞で増殖させたポリオウイルスをホルマリンで不活化して製造される。現在、日本で開発されている不活化ワクチンは海外の野生型ポリオウイルスから作製された不活化ワクチンではなく、日本で新しく開発されたワクチン株ポリオウイルスからつくられた不活化ワクチンで歴史が浅く、従来と同じ効果が長期間保持されるかの確認の段階である。

弱毒生ワクチンは「生ワクチン」とも呼ばれ、ポリオウイルスの病原性を弱めてつくったもので経口投与である。ウイルスが経口投与のため咽頭粘膜、腸管粘膜で増殖して免疫ができ、約1か月で血液中に抗体ができる。ポリオウイルスに対する抗体が産生されるだけでなく、腸管における局所免疫が獲得されるために、腸管での感染防御能が高くなる。世界的に流行した1970年までには全世界で使用された。

生ポリオワクチンは、弱毒生ポリオワクチンであることから、この接種を受けた小児において、おおよそ440万人投与に1人程度と頻度は高くないが、ワクチン株に由来するポリオ麻痺患者が発生する副作用がある。ワクチンの予防接種には感染症への個人予防と集団予防の2つの目的がある。個人予防はワクチン接種で個人の発症が免れることであり、集団予防は人から人に感染する感染症では多くの人がワクチン接種を受け免疫を獲得するとその集団では流行は起こらない。集団免疫効果には中途半端な接種率でなく高い接種率の持続が必要になる。

ワクチン接種から根絶へ

1958年、ワクチンに対する需要が異常に高まり、1959年に不活化ワクチン（ソークワクチン）の接種が始まった。しかし、日本では不活化ワクチンは研究段階であり、厳密な無菌操作、安全性や有効性などの検査などから製造期間に6か月を要し、有効期間や価格などの面から集団接種に必要な量が確保できなかった。

1960年にアメリカで経口投与の弱毒生ポリオワクチン（セービンワクチン）が製造、使用され、注射する不活化ワクチン（ソークワクチン）に比して優れている点が多いとの報告から、「海外で使用されている予防効果の高い経口ポリオ生ワクチンの緊急輸入」が陳情されて、厚生省で「弱毒ポリオ生ウイルスワクチン研究協議会」が発足している。

そして1960年には日本で5,606人の未曾有の大流行となり、多くの麻痺患者が発生した。1961年に予防接種法にて定期接種が加えられたが不活化ワクチンの量の確保ができず、また同年春先から九州地区で患者の発生があり、夏には大流行となり、大流行を阻止するために不活化ポリオワクチンの防疫体制から弱毒生ポリオ生ワクチン一斉投与方式に切り替わった。そして急速^{きゅうきょ}に連、カナダから1,300万人分の生ワクチンシロップが輸入された。同年7月から8月にかけてわずか1か月に1,300万人分のワクチンが全国の生後3か月から5歳までの小児に緊急全国集団投与、その効果は目覚ましく、流行は阻止され大きな成果が上がった。1961年の不活化ワクチンの予防接種法が、1964年には生ワクチンの予防接種法に変えられた。

1961年には2,436人の患者が、翌年の1962年には289人と前年の10分の1に減少、1963年には139人と激減する。1964年には患者数は84人となり、1966年には33人、死者は13人となり、1967年には患者数は26人、死者は4人と戦後最低となった。1970年以降は発生数が10人以下となり、1980年には2人となった。1960年に最高の5,606人となったポリオ患者が、7月から始めた経口生ポリオワクチンの全国乳幼児への一斉投与で1965年の5年間で劇的な減少効果をおさめてわずか76人となった。この見事な接種方式は世界に大きなインパクトを与えた。このように接種日を決めて全国的に一斉に接種を施行する戦略は全国一斉投与方式（National Immunization Day：N I D 全国免疫接種日）と呼ばれて、ポリオ世界根絶計画の中心戦略としてWHOに採用された。生ポリオワクチン開発者のセービン博士もこの一斉投与の戦略をブラジルで採用し大きな成功を収めた。その後ポリオ流行地域には弱毒生ワクチンの一斉投与が行われて大きな成果を収めることとなった。

日本は1964年、生ポリオワクチンによる定期接種が開始され、1981年以後には野生ポリオウイルスは検出されていない。したがって、日本では1980年代初期に野生ポリオウイルスは根絶されたものと考え、2000年にポリオの根絶をWHOに報告した。

今後の日本のポリオ対策としての課題

ポリオに対しての有効な治療法はワクチン接種による予防以外に現段階ではない。ポリオウイルスに感染してもそのほとんどが不顕性感染、不全型、非麻痺性であり、典型的な麻痺症状を表すのは0.1%にすぎない。しかし世界の15歳以下の子どもの人口は約18億人である。「ポリオのない世界」のために早く地球上から根絶しなければならぬ感染症の一つである。



日本では2000年以後、野生株ポリオウイルスの患者の報告はないが、ワクチン株から大きく変異したワクチン由来ポリオウイルスによるポリオの流行の発生が日本をはじめ世界各地から報告されている。

ポリオウイルスの副作用としてワクチン接種者が罹患するワクチン関連麻痺とワクチン接種者から二次的に感染するワクチン由来ポリオウイルス感染の2つがある。経口生ワクチン使用で罹患するワクチン関連麻痺患者は、400万人に1例、世界で現在年間250～500例の報告がある。このワクチン関連麻痺をなくするには生ワクチンを不活化ワクチンに変更することである。

ワクチン由来ポリオウイルスとは、弱毒生ポリオワクチンの遺伝子が変異して野生株と同じような性質をもつ神経毒力を回復した遺伝子（1%以上の変異したウイルス）となったウイルス株である。おおよそ580万回の投与に1例の割合で、経口生ワクチン接種者から環境に排泄されたワクチン由来ポリオウイルスに感染してポリオを発症する。さらに予防接種率が低下した地域ではヒトからヒトに伝播し、ポリオ麻痺患者の発生となる。永久にポリオを終結させるためには野生型とワクチン由来の両方のポリオを根絶する必要がある。

弱毒生ワクチンの接種日を決めたNID戦略には日本が世界のパイオニアとなり、春、秋の2回の生ワクチンの定期接種は世界的にユニークで、高いワクチン接種率と社会レベルの集団免疫状態の維持に効果を発揮している。しかし、2011年ころから接種率の低下が顕著化してきている。また春、秋のワクチン接種の約3か月後にワクチン由来のポリオウイルスが土壌、地下水、廃

棄物などの環境、海産物、農産物などにも検出されたとの報告があり、野生ポリオウイルスは駆逐されたが、代わって環境に出回っているワクチン由来ポリオウイルスによる患者の発生が問題にされるようになってきた。

このワクチン由来ポリオウイルスが生活環境の中に出回ることにより、衛生環境が悪い地域や貧困地域では人々の接触密度が高く感染を起こしやすく、弱毒生ワクチンを受けた子どもの親、きょうだいが発症した報告もある。

富山県では過去30年間、断続的であるが環境水のウイルス検査を実施しており、1993年以後環境水からポリオウイルスを検出し、その中に神経毒性を回復したワクチン由来ポリオウイルスを検出している。以後2006～2009年の検査でもポリオウイルスが検出され特に春、秋の定期接種後に限られているとしている。2008年末に世界ポリオ根絶行動計画2009～2013年に環境水調査によるウイルス追跡法の導入が盛り込まれた。

2012年に日本の岡山県でのサーベイランス（調査監視）の報告では、1～6歳の園児60人に生ポリオワクチン接種時期から2か月以上経過した時点で便を採取した。1歳児にポリオウイルス3型が検出された。この1歳児は過去に生ポリオワクチンの予防接種を受けておらず、まわりの予防接種受診者の腸管内で増殖したワクチン株から二次感染したと考えられる。生ポリオワクチンは弱毒化されたものであるが、腸管内で再々感染を起こしていると毒性を回復し、変異を起こし感染する危険性があるとの報告がある。集団生活に入る前の乳幼児に対してポリオの予防接種を全員に徹底することが重要とされた報告である。

全国の生ポリオワクチンの接種率が、2010年度は春99.4%、秋90.8%に比べて2011年度は春83.5%、秋76.6%と低下し、2012年春は67.2%と、さらに低下している。集団免疫が感染を阻止し、拡大を防いでいるのであり、この接種率の低下が集団免疫の維持を困難にする。接種率の低下の阻止が今後の重要な課題となり、副作用のない不活化ワクチン導入が喫緊の課題となっている。

日本では1981年以降、野生ポリオウイルスの集団発生もないことから、厚労省は2012年には生ワクチンを中止し、不活化ワクチンの定期接種を計画していた。不活化ワクチンを導入する場合の絶対条件は、有効性、安全性が十分に確保され、現行の弱毒生ポリオワクチンに匹敵する高い接種率を維持することである。2012年9月に弱毒生ワクチンから、ウイルスの病原性をなくした不活化ワクチンに切り替えられた。生ワクチンは任意接種のワクチンとなった。これは絶対安全な不活化ワクチンができたためでなく、生ワクチンの副作用の懸念か

ら社会の信頼をなくして接種率の低下となり、不活化ワクチンへと国民のニーズが変わり、不活化ワクチンを輸入する医師が急増したために承認前倒しに傾いたためである。2013年には接種率が上昇した。現在使用している不活化ワクチンは、欧米各国など世界28か国で承認されているものである。

アメリカは、1955年に不活化ワクチンを導入、1960年のポリオの流行によって弱毒生ワクチンに切り替え、2000年には不活化ワクチンに切り替えている、またオランダやフランス、ドイツ、北欧諸国は不活化ワクチンを採用している。アメリカではこの1～2年にポリオによる麻痺に似た原因不明の急性弛緩性麻痺の症例の報告もあり、欧州地域では難民の問題からポリオウイルスの移動にサーベイランスの質を上げ、疫学的・ウイルス学的検査も行っている。

わが国でも病原体サーベイランスとして健常児糞便に由来するポリオウイルス分離株の解析を実施してきたが、2013年度調査で終わり、ポリオウイルス検出感度の高い環境水検査に変わった。日本でもアメリカと同じように子どもを中心に手足の麻痺が起きる原因不明の急性弛緩性麻痺の患者の発症が昨年から相次いでいるとの報告が医師会から届いている。今のところポリオとの関係は不明である。

不活化ワクチンはポリオウイルスの病原性をなくしたものであるが、初期には不活化が不十分（生きたウイルスが残存）であったために麻痺患者の発生の報告がある。不活化ワクチンの利点は生ワクチンのようなワクチンによるポリオ発症が絶対に起こらないことである。不活化ワクチンの欠点は複数回の注射の接種が必要であり、注射による注射部位の発赤、重い副作用として0.01%と頻度は少ないがアナフィラキシーショックがある。しかし、腸管での免疫能力は低いとため流行を抑える力は弱い個人防衛には優れている。免疫効果は10～20年とか、ほぼ生涯とか意見が分かれている。

日本がポリオ根絶に成功したのは、ワクチンの定期接種と高い接種率による集団免疫状態の保持であり、この高い集団免疫が壊れるとワクチン由来ポリオウイルスの伝播を止めることができなくなり、流行の危険がある。

ワクチン由来ポリオウイルスが土壌、汚水、河川、廃棄物などの環境、農産物などに検出される限り、潜在的感染源となり、土壌、河川の汚染は一つの国だけの問題ではなく拡大の可能性があり、また人の移動に伴い国境を越えてウイルスが運ばれ、感染症には国境はない。野生株が終焉し根絶が視野に入った現在、このワクチン由来ポリオウイルス自身の伝播を止めることが、これからの課題としてポリオ根絶計画には不可欠となっている。

120か国以上の国々が不活化ワクチンを導入するこ

とになり、ポリオ根絶の最終章と言われている。しかし、日本ではまだ不活化ワクチンは国内で承認されていない。たとえ、生ポリオワクチン接種を中止しても中止後3年間くらいはワクチン由来ポリオウイルスの危険性は残るとされている。

ワクチンで予防するということは子どもの領域の話だけと考えられがちであるが、今後は成人領域まで広がるのではと考える。予防接種は接種を受けた本人が感染症から守られるだけでなく、接種率が高くなれば国民全体の罹患率が低下し、素晴らしい効果が出る。そのためには予防接種への正しい教育・啓発が今後必要である。まだまだ地球上からポリオウイルスを一掃するには問題が多く残っており、私たちロータリアンの仕事はまだまだ終わりそうにない。

終わりに

2016－17年度はロータリー財団100周年、昨年はジョナス・ソーク博士がポリオワクチンを開発して60周年、1988年に国際ロータリーがWHO、ユニセフ、アメリカ疾病対策センター、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団、各国政府などとともに「世界ポリオ根絶推進活動」に参加して約四半世紀を経た現在、ポリオ発生数は99.9%減少している。そして120万人以上のロータリアンは、これまでに13億ドル以上の活動費を寄付し、125か国の25億人以上の子どもに予防接種のボランティア活動を通じて支援を行い、地球レベルでの多大な貢献を果たし、素晴らしい功績をあげた。

今までに人類が制圧したウイルス感染症には天然痘がある。古代エジプトのファラオの時代から数千年の間多くの命を奪ってきた天然痘は1801年ジェンナーが天然痘ワクチンの作製に成功し、180年の経過を経て1980年に根絶された。有史以来、人類の最大の脅威である感染症の一つを絶滅させたのである。しかし、そのころすでに次の感染症のエイズが広がり始め、その後にはエボラ出血熱、デング熱、中東呼吸器症候群（MERS）、鳥インフルエンザAの流行、最近ではジカ熱と危険なウイルスの出現が続いている。人類と感染症との対峙は終わることなく続いていくと考える。（第2650地区 京都府）

太田 和夫

1965年 京都大学医学部卒業 医学博士
太田整形外科医院 院長 整形外科専門医
1998年 京都モーニングロータリークラブ創立会員

* 2015年7月、ナイジェリアはポリオ常在国リストから外されましたが、今年8月、ナイジェリア北東部のボルノ州で野生型ポリオウイルスによる3件の症例が報告されました。世界保健機関（WHO）がこれらの症例を確認したことを受け、ナイジェリアは再びポリオ常在国リストに追加されました。現在、同国以外にアフガニスタンとパキスタンがポリオ常在国となっています。

ポリオの会に参加して 東京東江戸川RC 嶋村 文男

現在の国際ロータリーの最優先事項が人類からのポリオの撲滅であることは、全てのロータリアンが知っていると思います。私は2012年4月から3度、インド・ニューデリーでのNID（全国ワクチン一斉投与日）に参加させていただいています。

今回、ご縁があり、7月16日に開催された「ポリオの会」に所属クラブの会員4人と参加してきました。ポリオの会とは、1995年、自身もポリオに罹患している代表の小山万里子氏が、子どものころ一緒に病室にいた人たちの思い出し、全国紙を通じて呼びかけて結成した患者団体です。

ポリオとPPS（ポストポリオ症候群）についての医療情報を求めると同時に、ポリオ体験者が手をつないで、自分たちの体験や症状をまとめて伝えていくことを目的に活動しています。日本ではPPS人口がおよそ5万人と言われる中、2012年9月の不活化ワクチン投与供用までに、生ワクチン接種後にポリオを発症した人がいるのも事実です。

定例会にはポリオの会の最後の会員だと思われる（一番若い会員の一人）4歳の男の子が両親と参加していました。1981年以降、日本では野生株によるポリオ発症がない一方、ポリオの会ではその男の子が50年後にPPSを発症した時のことを考えて活動しています。

「私たちはポリオの最後を見届けたい」と行動してい



るポリオの会は、私たちロータリーと同じ目標に向かって活動しています。全国にはポリオの会と同じようなPPS患者の会があります。私たちはポリオ撲滅の最後の活動に注力するとともに、地域のPPSを罹患されている人々にも目を向けるべきだと思います。

今回ポリオの会に参加して「日本においてもポリオは終わっていない」と痛感しました。（第2580地区 東京都）

*手足に運動まひの後遺症を持ちながらも、元気に日常生活を送っていたポリオ患者が40～50歳代になったところに、新たに筋力の低下や筋肉の痩せ、筋肉・関節の痛み、手足のしびれや冷感、腰痛、異常な疲れやすさなどの症状が出現することがあり、PPS（Post-Polio Syndrome ポストポリオ症候群、ポリオ後遅発性筋萎縮症）と呼ばれています。

レスリング大会でポリオ撲滅の理解促進活動 柳井RC 松浦 礼英

9月18日、FUIBO柳井化学武道館において、「柳井ロータリークラブ杯少年少女レスリング選手権大会」を開催した。4年目となる今回は参加地域が広がり、参加数も増え、京都府から九州全域まで22クラブ、176人の選手で熱戦を繰り広げた。

今回は、当クラブの前会長の勝村靖夫氏がアメリカ・オハイオ州トレドで行われたフリースタイル、フライ級の世界選手権決勝戦で引き分け（計量判定で惜しくも準優勝となった）、その50年の節目にあたる。当時の対戦相手「韓国の英雄」張昌宣氏の子息と韓国レスリング関係者を招いての開催となり併せて勝村氏の愛弟子でリオ五輪で初出場ながらグレコローマンスタイル59キロ級で銀メダルを獲得した太田忍選手が帰国報告も兼ねゲスト出演し花を添えた。

会場で主計龍雄会長は、ポリオ撲滅活動についてパネル展示とともに紹介

し、柳井商工高校インターアクトクラブの生徒たちによる募金活動が行われた。

選手の保護者からは「もうこの病気はなくなったと思っていました。世界の子どもたちが元気でたくましく成長してもらえたら」と多くの善意が寄せられた。

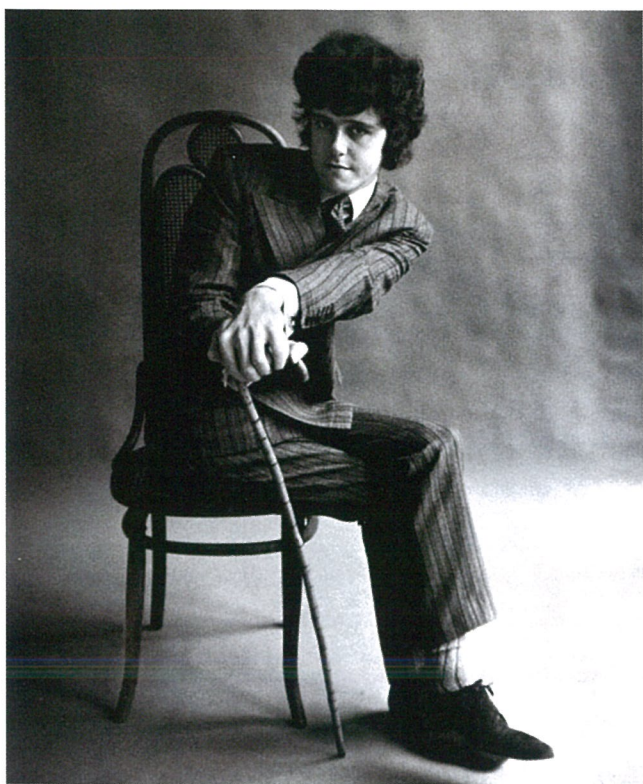
最後に大会競技委員長の勝村氏から一人のけが人もなく終了できたことに謝辞が述べられ、次回での再会を誓い閉会した。（第2710地区 山口県）



ポリオサバイバーで歌手のドノヴァンがポリオ撲滅大使に

THE ROTARIAN 11月号から

COURTESY OF DONOVAN



「ドノヴァン」の名で知られ、ロックの殿堂入りを果たした伝説的シンガーで、ポリオサバイバー（ポリオからの生還者）であるドノヴァン・レイッチ氏が、幼いころに苦しめられたポリオ（小児まひ）と再び闘うため、ロータリーのポリオ撲滅大使となりました。

現在 70 歳のドノヴァンは、3 歳の時にスコットランド・グラスゴーでポリオに感染。この病気のため、右足は弱くなり、左足に比べて細く短くなってしまいました。彼は幼少期のほとんどを病床で過ごしましたが、その時、父親が詩を読んでもくれたと話します。

『Daily Express』の最近のインタビューで、ドノヴァンは、詩を聞くことで創作意欲をかき立てられたと話しています。「あの経験がなかったら、この半世紀、自ら作詞し自分の歌を歌うことはなかったでしょう。一つの領域で障がいを持つことが、ほかの領域の探索へと自身を駆り立てるのだと、僕は強く感じます」とドノヴァンは話しました。

ドノヴァンは、イギリスやアメリカ、そのほかの国々でヒットアルバムを出し、「メロー・イエ

ロー」や「ハーディ・ガーディ・マン」といったおなじみのシングル曲を生み出しました。また、「イエロー・サブマリン」を含む複数曲でのビートルズとのコラボや、ボブ・ディランやジョーン・バエズといった伝説的ミュージシャンとの共演も実現しています。

「ポリオに感染したことが、年齢を重ねる中で妨げになったことはありません。片足がもう片方の足より小さいと、何の問題もなく動き回れるような楽しさは得られませんが、幸い音楽業界では、みんな僕の歌と演奏だけに関心を寄せてくれます。足のサイズじゃなくてね」

ドノヴァンは今後、ポリオ撲滅大使として「Purple-4 Polio campaign」（ポリオのための紫キャンペーン）を支援します。これはグレートブリテンおよびアイルランドのロータリー（R I B I）と王立園芸協会の協力による活動で、紫という色は、ポリオ予防接種活動で、保健員がワクチンを与えた子どもの小指に紫色のインクを付けることに由来しています。

「自分がポリオに感染したことがありますから、このキャンペーンに参加する決断は容易でした。皆さんに、ポリオは世界中からほぼ撲滅間近であるということを伝えたいと思っています。これはとても重要なことです。最後の一押しというのは、いつだって最も大変なことですから、僕は力になりたいんです」 —RYAN HYLAND



MICHAEL COLLOPY

写真上：2012年にリリースされたベストアルバム「The Essential Donovan」のカバー写真。写真下：ポリオ撲滅大使となったシンガーソングライターのドノヴァン・レイッチ氏（70歳）

ロータリー財団 100 周年を祝う

アメリカからの V T T 来訪 千里 R C V T T 委員長 萬年 成泰

千里ロータリークラブ（R C）では以前、国立循環器病研究センターの福田真弓医師を、ロータリー財団国際親善奨学生としてアメリカ・ボストン市のハーバード大学医学部に派遣した。そのホストとなったアメリカ・第 7930 地区から今回、職業研修チーム（V T T）を派遣したいとの申し出があった。適用される重点分野は「基本的教育と識字率の向上」である。

アメリカでは貧困家庭や密入国者の家庭の子どもの多くが不登校になり、読み書きを学ぶ意欲を失っているが、チームでは彼らが好きな音楽や演劇を通じて、自然に学べる方法を開発し成功しているとのこと。日本には義務教育が課されており、そうした問題は少ないと考えて、いったんは断ろうと考えた。

しかし、日本でもいじめなどで不登校となった子どもは多く、近藤雅臣パストガバナー（P G）が代表を務める大阪スクールオブミュージック専門学校（O S M）が、こうした子どもたちを含むクラスで、教育に音楽と演劇を取り入れていると聞き、それならばむしろ面白い組み合わせになると考え、受け入れに踏み切った。

メンバーは、教育省の審議委員をしているロータリアンのアラン・ミシェル氏を団長に、演劇で有名なエマ



ーソン大学の学部長を含む 3 人の教授と、茨木東 R C から同校に財団親善奨学生として派遣した矢野郁氏の 5 人である。

5 月 30 日、新谷秀一 P G が理事長を務める京都伝統工芸大学校を訪問。同校は神社・仏閣、仏像などの伝統工芸に興味を持つ子弟を専門家に育てている極めてユニークな学校である。見学時には仏師で人間国宝の方が学生を教えており、V T T チームは「こういう育て方もあるのか」と感心しきりであった。

翌 31 日～6 月 2 日は O S M へ。31 日は双方の音楽、演劇を通じた教育方法の紹介と施設の見学、日程の打ち合わせ。6 月 1 日は O S M の教官・職員に V T T チームの教育法を実習してもらった。

2 日は V T T メンバーが生徒たちの実習に当たった。

30 人を 2 組に分け、さらに各 5 人の 3 グループに分け、架空の設定を与えてその前後の状況を想像させ、ストーリーを作らせ、パントマイムで演じさせる。終了後、O S M から生徒の生い立ちを含む背景を把握し、個々に適したきめ細かい教育を行う様子が紹介され、双方にとって極めて意義のあるプログラムになった。

3 日は、第 2640 地区（大阪・和歌山）の大澤徳平 P G の堺能楽会館を訪問。日本の伝統芸能である能・狂言の幽冥と現世を分かつた世界、精神などを学び、今後の教育に大変参考になったとの感想をいただいた。（第 2660 地区 大阪府）



空港にフラワーウォール、公園におもしろベンチ設置

宇部ロータリークラブ

ロータリー財団 100 周年記念事業として、宇部市のときわ公園にメガネの形の「おもしろベンチ」を設置しました。ときわ公園は、緑の文明学会と（社）日本公園緑地協会の定める「日本の都市公園 100 選」や、（公財）日本さくらの会による「日本さくら名所 100 選」に選ばれ、今春からは動物の生息地の環境を再現した「生態環境展示」による動物園を同公園内にオープンしました。以来、観光客が大幅に増えています。

また、クラブは創立 60 周年を迎え、記念事業として、今年開港 50 周年を迎え今秋からの国際線の定期便就航に備える山口宇部空港の国際線ターミナルに「ばらフェンス・フラワーウォール」を設置。7 月 10 日の創立 60 周年記念式典で、来賓として出席した山口県知事、宇部市長にそれぞれ目録を贈呈しました。

「ばらフェンス・フラワーウォール」や「お

もしろベンチ」によって、山口県、宇部市を訪れる多くの観光客に楽しんでもらい、さらにはロータリーへの関心と理解が高まるきっかけとなるよう期待しています。

（第 2710 地区 山口県）



さぬき高松まつりチャリティー募金活動

第 2670 地区ガバナー 前田 直俊（坂出東 R C）

8 月 12 ～ 14 日の 3 日間、香川県高松市の高松中央公園で「第 51 回さぬき高松まつり」が開催されました。第 2670 地区（香川・愛媛・徳島・高知）では財団委員会を中心に、ロータリー財団 100 周年を記念し、高松中央公園のメインステージ近くに初めてブースを出展。市民にロータリー活動の認知度を高めるためのチャリティー活動を行いました。

会場では財団 100 周年の歩み、活動、功績などをまとめたパネルをブース内に展示。また、当地区が制作したアニメーション「おしえて!! ロータリー」を上映しました。ちょっとユーモアを含んだ解説で、楽しみながらロータリーのことを学べる内容になっています。

財団 100 周年記念抽選会では毎日、「おしえて!! ロータリー」のナビゲーターとして登場する「ソックモンキー」の手作りキットをプレゼントしました。自分でぬいぐるみ

を作製でき、子どもたちに大変好評でした。

ポリオ撲滅の推進、ロータリー財団年次基金への募金も行いました。当地区ガバナー事務所や地区財団委員会のメンバー、坂出東ロータリークラブの有志、香川大学ローターアクトクラブの協力のもと、チャリティー活動の受付やパネル展示の説明をしてもらい、たくさんの市民や子どもたちと触れ合うことができました。また、募金でも予想以上の成果を得ることができ、3 日間で 7 万 3,345 円が集まりました。



World Roundup

世界のロータリーニュース



イギリス

ロータリアンの中には、知の探究こそ偉大な冒険だと感じる人がいます。モールバレーにある5つのクラブのロータリアンチームが5月、BBC Twoのゲーム番組「Eggheads」に出演しました。「Mole Valley Misfits (モールバレーのはみ出し者)」と名付けられたこのチームは、イギリス版「クイズミリオネア」や「The Weakest Link」といった番組での優勝経験者を集めたオールスターチームに一歩及ばなかったものの、大健闘を見せました。

「チーム名を『モールバレー・ロータリー』にして、ロータリーのロゴ入りの服を着て出場したかったのですが、残念なことにBBCがそれを宣伝行為と判断したため、許されませんでした。それで『Mole Valley Misfits』というチーム名になったわけです。でも、番組内で何度かロータリーという言葉をお口にしました」と話すのは、レザーヘッド・ロータリークラブのサイモン・エドマンズ氏です。

チームメンバーは電話面談とカメラテストのオーディションを経て、1月にスコットランドのグラスゴーで収録に臨みました。30分の番組ですが、2時間以上を要しました。王者チームが一方向的に勝利するいつもの状況とは異なり、この日は終盤までもつれました。最後、レスターの市外局番(0116)を問う難題をロータリアンたちは間違えてしまいましたが、相手チームは、第一次世界大戦で敵の魚雷をかかわすために戦艦に施された塗装は何かという質問に、「ダズル迷彩」と正解し、勝敗が決しました。

—ブラッド・ウェーバー

1981年に発売されたボードゲーム「トリビアル・パスト」は、17の言語版が作られ、26か国で1億セット以上を売り上げました。



ガーナ

交通量の多い首都アクラの大通り沿いにある、よく利用されるバス停を修復する活動は、長い間、地元のロータリアンの「やること」リストに入っていました。しかし、車がこのバス停に衝突したため、この修復プロジェクトを前倒しで実施することになりました。アクラリングロードセントラル・ロータリークラブは、5,000ドル(約50万円)をかけて、4月下旬に新しいバス停を完成させました。2011年に同クラブが建てた木造のバス停を新しくすることで、故意に壊したり傷つけたりする人を思いとどまらせるだけでなく、ロータリーを堂々と推進することにもつながると話すのは、会員のジャネット・アラミシ・ダビレ氏です。「デザインは、ボルタ川に架かる最も有名なつり橋、アティンボクのアドミ橋からアイデアを得ましたが、利用者のために日よけの屋根をつけました」と彼女は言います。プロジェクトの資金は、ウォーキング行事、ダンスパーティー、ガーナ料理の紹介イベントなどで集めました。



アメリカ

退役軍人のための祝日はアメリカでは11月ですが、カリフォルニア州のロスアルトス・ロータリークラブは、2月に退役軍人のためのシーフードと赤ワインをメインにしたパーティーを開催しています。クラブが毎年行っている、海鮮シチューの一種、チョッピーノ（イタリア系アメリカ料理）のディナーとオークションは、1972年から開催され、3万ドル（約300万円）以上を集めました。イベントの収益は、2012年にアフガニスタンで命を落とした地元出身の海兵隊員、マシュー P. マノキアン氏を記念した奨学金に寄付されます。この奨学金は、退役軍人6人に地元の大学へ通う資金を提供するものです。この6人の退役軍人とマノキアン氏の両親も含め、120人がイベントに参加しました。

フィリピン人のきれいな水を利用できる割合は、1990年の84%から向上し、2015年には92%となりました。



フィリピン

フィリピンのザンボアンガシティーイースト・ロータリークラブは2月、「Water Is Life（水は命）」というクラブの取り組みを通じ、近隣の不便な地域に飲料水を供給するプロジェクトを実施しました。この地域は、同クラブが例会を開くホテルから15分ほどの所にある9,000人ほどが住むデビソリアという地区で、それまで住民は安全な飲料水を利用できませんでした。そこで、2基、各200ドル（約2万円）の費用で、手動給水ポンプを寄贈、設置しました。「現地の劣悪な状況、特に子どもたちのためにこのプロジェクトを行いました」と、クラブの前会長であるアーサー・ノガス氏は話します。「おかげでほかの団体も取り組みを継続する意向を示してくれました」



オーストラリア

11月11日、シドニーコープ・ロータリークラブの目玉行事であるチャリティー・レガッタ大会で、何十隻ものヨットが帆を揚げます。22年前に始まったこのイベントでは、これまでに500万豪ドル（約3億9,000万円）を集めています。当日は、スポンサー、ゲスト、ヨットのオーナー、乗組員、ボランティアの総勢約1,000人が集まり、普段はなかなか体験することのできないシドニー湾でのレースを行います。「ゲストの皆さんにも帆を揚げたり、ウィンチ（巻き上げ機）を使ったりして、実際に参加してもらいます」と話すのは、会員でイベントディレクターのビル・リトル氏です。このクラブは、シドニー・オペラハウス付近に係留されたCaptain Cook（クック船長）号で例会を開いています。



“よねやま”から広がる新しい世界 ⑬

出逢いは感動の始まり



大阪東 R C
(第 2660 地区 大阪府)

カウンセラー

井上 雅晴 さん

気づかされた本当の出逢い

「井上さんはカウンセラーでしょう？ このままでは彼がかわいそうです。力になってあげてください」。クラブの事務局員から、突然こう言われたことをきっかけに、米山奨学生バンバット・トゥメンデルゲル（以下、トゥメン）との本当の“出逢い”が生まれました。

聞くと、奨学生になったばかりのトゥメンがクラブの親睦会の席上で、「ウランバートルのゲル地区に、貧しい子どもたちのための図書館を造りたい。力を貸してほしい」と訴えたものの、同席した会員たちに聞き流され、肩を落として帰っていったとのこと。クラブはもともと国際奉仕を積極的に行っていませんでした。やりたくないわけではなく、どう動けばいいのかわからない、英語もできない、どのくらいの予算で何ができるか見当もつかない、と“ないないづくし”だったわけです。

その図書館の話はもともと、モンゴルのフレイ・ローターアクトクラブ（RAC）が単独で実施し、1年で頓挫したプロジェクトでした。幼少期に遊牧生活をしていたトゥメンは、母国にいる時からこのことを残念に思い、再開を願っていたのだそうです。

私は 2014 年 8 月、可能性を探るためにモンゴルへ行きました。出発を前に、会員からは「行くのはいいけど、プロジェクトのことは早まった行動をしないように」とくぎを刺され、妻からも「頼むから波風を立てないで」と言われました。それでも、このままでは彼の気持ちを無視したことになる、せめて検討課題として取り上げてやりたい……。その一心でした。

回り始めたクラブの車輪

モンゴルでは、フレイ RAC を提唱しているフレイ・

ロータリークラブ（RC）の例会に出席。この時、トゥメンらがフレイ RC に図書館プロジェクトへの協力を要請したものの、具体的に進められない……と断られました。しかし、一人の会員が私に日本語でこうしてくれたのです。「私は米山学友です。次年度会長になります。必ず協力しましょう」と。この男性こそ、米山記念奨学会の資料で必ず目にする、ジャンチブ・ガルバドラッハ氏でした。

帰国後、次年度のクラブ国際奉仕委員長が「グローバル補助金に申請してみたら」と助言をくれました。トゥメンは社会勉強のために、と会員の職場見学を願い出るような学生です。みんなから親しまれる彼の人柄が潤滑油となり、重かったクラブの車輪が徐々に回り始めました。

昨年 6 月に帰国したトゥメンは、正式にフレイ RAC に入会し、図書館プロジェクトの中心となって奔走しました。そして今年 5 月、フレイ RC、フレイ RAC、さらにはモンゴル米山学友会の協力を得て、4 つの学校に図書室を完成させることができたのです。

相田みつをの詩に、「感動が人間を動かし、出逢いが人間を変えてゆくんだなあ」という一節があります。私は“米山”を通じて、まさにこのことを実感しました。英語ができないから、現地の事情がわからないからと諦めていた国際奉仕も、米山学友と一緒に実現できます。

ウランバートルには今も、児童数が多く、一日に交替制で授業を行う学校が数多くあります。モンゴルだけでなく、われわれにも新しい風をもたらしてくれる図書館プロジェクトです。今後も継続し、もし賛同してくれるクラブがあれば、一緒に取り組みたいと思っています。



図書室の完成を祝ってテープカット

今年度の「よねやまだより」も前年度に続き「よねやま」から広がる新しい世界」シリーズをお届けします。米山奨学生との出会いから、クラブ・個人として新たな発見や国際交流につながった体験談を、ロータリアンと奨学生の双方の視点から語っていただきます。今月は世話クラブの協力を得て、母国モンゴルでの図書館プロジェクトを実現した米山学友バンバット・トゥメンデルゲルさんと、カウンセラーの井上雅晴さんにお話を伺いました。



米山学友
バンバット・トゥメンデルゲルさん

出身：モンゴル
奨学期間：2014 - 15
学校名：大阪大学大学院

パパと一緒に進んだ道

モンゴルの首都ウランバートルに「ゲル地区」と呼ばれる地区があります。自然に大きく依存する遊牧生活は年々厳しくなり、遊牧生活を捨て、「ゲル」というテント家屋ごと移住する人が急増し、できた地区です。しかし、彼らが新天地を求めてウランバートルに来て、親は低賃金の肉体労働、子どもは30人に1冊しか教科書がないような状況です。

この地区に図書館を造ろうとして中断していた、フレールACのプロジェクトに、大阪東RC、モンゴルのフレールACが力を貸してくれました。グローバル補助金というロータリー財団からの支援もあり、4つの学校に図書室を造ることができました。子どもが勉強熱心になったと親は喜び、地元の園児や大人も利用しています。ハコを造っただけではなく、今後、僕たちフレールACでは留学情報を提供したり、語学レッスンなどを継続して実施していこうとしています。

実現までに、クラブやロータリー財団からの厳しいチェックを受け、何度もダメ出しをされました。自分

の力が及ばなかったと、何度も諦めかけました。でも、そのたびにカウンセラーのパパが、進める道を一緒に探してくれました。パパは本当の親と同じように僕を信じ、時には盾になり、厳しく叱ってくれる存在です。

両国の絆を強めるきっかけに

僕はもともと国費奨学生として来日しました。修士課程2年次に米山奨学生となり、日本を見る目がガラリと変わって、これまでになかった好奇心が湧いてきました。大阪東RCの皆さんからは成功者の哲学や考え方、なぜ人は助け合うのか、などを学びました。米山奨学制度では、ほかの奨学金にはない、社会との接点が生れます。そして卒業後もずっと日本とのつながりが残ります。僕はモンゴルへ帰国しましたが、日本に来るときはいつも「ただいま」と言います。

図書館プロジェクトを機に、思いがけない輪が広がっています。今年9月、図書室を造った学校で「モンゴル・日本文化祭」が開かれ、第2660地区のローターアクターが来て、フレールACと協同で子どもたちと折り紙やお面作りを楽しみました。両国のローターアクター同士の絆も強くなりました。こうした図書室を40の学校に造ること、それが今後の目標です。

ロータリー米山記念奨学会事務局
米山記念奨学事業、または「よねやまだより」について
のご意見を、当奨学会まで、ぜひお寄せください。
Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281
Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



マレーシアに米山学友会が創立されました

9月12日、マレーシア・ペナン州で、米山学友会の創立総会が開かれ、学友21人が出席しました。今年5月のソウル国際大会への参加を機に、急速に結束を強めたマレーシアの学友たちが学友会創立に向けて動きだし、早期に実現しました。創立会長に就任した黄麗容さん（2001-04 / 横浜泉RC）は「日本在住の学友にも声をかけ、マレーシアと日本の両方で、地域の環境保護や教育に貢献できる活動を計画しています。参加する学友や後輩たちの誇りになるよう頑張りたい」と抱負を語りました。今後、12月の当会常務理事会での承認を経て、正式に海外8番目の米山学友会となります。



創立総会に集まった学友会メンバー

太鼓の音色を届ける Be a gift to the KUMAMOTO 豊中南ロータリークラブ

2016年4月、熊本を襲った地震。最も被害が大きいとされた益城町は、震度7を2度も経験。町の約60%の建物には危険を示す赤色の札や黄色の札が貼られ、なすすべのない人たちは、避難所や各小学校へ身を寄せていました。

その中心にある熊本りんどうロータリークラブ（RC）。会員自身の家や会社も被災し、例会場まで失うなか、目の前の町民のため、町の復興のために朝食配布プロジェクトや復興支援無料レンタカープロジェクトなど、日々骨身を削って活動していました。

他クラブの支援も続々と行われており、私たちにも何かできることがないか。水野茂社会奉仕委員長は動いた。熊本りんどうRCの会員から、避難所に住みながら就学する児童たちの希望につながる何かをとの意向を聞き、委員長の発案で阪神・淡路大震災や東日本大震災の折りに、復興支援で活躍した「和太鼓・神戸松村組」の生演奏を届けようと発起。松村組の快諾を得て、益城町の森永好誠教育長や各小学校校長、現地の有志の心を砕いた計らいで、われわれと松村組は5月22日には飯野

小学校、23日には広安西小学校の2か所に太鼓の音色を届けることができたのです。

目の前に広がるのは崩壊した家々、波打つ道路。美しかった風景はなく、毎日続く余震に神経がとがり不眠になる子どもたち、避難した体育館で小さな子どもを抱え疲労困憊（こんぱい）するお母さん、そこから働きに出るお父さん、障がいを持つ人々。避難した皆さんが一堂に集まってくださり、4km先にまで音が飛ぶという大太鼓やマリンバの演奏を、われわれも一緒に聞きました。

それは深い鎮魂であり、また前進する希望の響きでもありました。大きな拍手、歓喜の笑顔や涙を見て、逆にわれわれが生きる勇気をいただいたかのように感じました。これまでの大きな被災経験によって、今回の地震ではインフラ整備対応は早かったと聞きますが、自宅で寝起きができなくなった人々にとっては一日が千年にも思われることでしょう。被災地の皆さんと熊本りんどうRC会員の暮らしが一日も早く整うことを当クラブ一同、心から祈っています。ホームページ（<http://toyonaka-src.com>）で事業動画を配信中です。（第2660地区 大阪府）



心のケアが大切 東大阪中央R C 岩橋 竜介

2016年8月2日、小川高弘会長ほか4人の会員が被災地の熊本を訪問。南阿蘇村、益城町などの被災地で、復興支援に尽力している現地の人たちと懇談し、今後の支援の方法を考える機会となりました。

翌3日は現地で復興支援をし、特に子どもたちの心のサポートの活動をしている「くまもとスマイル」主催の上天草水族館シードーナツへの親子バスツアーに支援し、参加しました。姉妹クラブの台湾・鹿港ロータリークラブが送ってくれた支援金、当クラブの支援金と合わ

せて、ほかの協賛団体とともに実施したものです。

約170人の被災地の子どもとその保護者、総勢約300人の大きなイベントでしたが、テレビでもおなじみの「さかなクン」がボランティアでゲストとして駆けつけてくださり、大盛り上がり。子どもも大人もとても楽しい一日を過ごしました。

被災地の支援を考える時に、目に見えない心のケアも復興の大切な部分であることをあらためて認識しました。
(第2660地区 大阪府)



大阪と熊本のクラブが協同で被災地ボランティア活動

熊本東ロータリークラブ・第2660地区

8月14日、大阪西南ロータリークラブ(RC)を中心とした第2660地区のクラブ、チームライラ、ローター



アクトクラブの皆さんが、熊本東RCの会員と協同でボランティア活動を実施しました。

熊本地震で大きな被害があった熊本県益城町の津森地区仮設住宅でプランターに花を植え、寄贈したものです。ボランティアメンバーも貴重な体験をするともに住民の皆さんにも大変喜んでいただきました。



(第2720地区 熊本県/第2660地区 大阪府)

子どもたちに楽しいひとときを

東京神田 R C 雑誌会報委員長 木下 照雄

私ども東京神田ロータリークラブでは、震災2年目から過去4年度、東北三陸の児童養護施設および保育園に、支援金ならびに野球道具、楽器、園児送迎バス、砂場道具などを寄付してきました。5回目となる今年は、7月18～19日、現地に赴き、各施設に支援金や空調設備の贈呈を行い、浜田章男前会長の提案により、津軽三味線（藤井城社会奉仕委員長）とギター（浜田前会長）のコラボによるミニコンサートを行いました。

初日は、岩手県大船渡市の児童養護施設「大洋学園」、続いて宮城県気仙沼市の児童養護施設「旭が丘学園」を訪問し、支援金の贈呈式とミニコンサートを行いました。



曲目は施設にいる小さな子どもたち向けに「アンパンマンのマーチ」「勇気りんりん」、続けて、となりのトトロの「さんぽ」を、アンパンマンとバイキンマンのお面をつけて熱演しました。子どもたちは初めて聞く三味線の音に初めは驚いたようでしたが、大変喜んでいました。その後、先生方向けに津軽三味線の師匠でもある藤井会員が十八番の「津軽じょんから節」を披露しましたが、子どもたちも熱心に聞き入っていました。

翌日は、宮城県南三陸町にある地域裁量型認定こども園「入谷ひがし幼稚園」を訪問、空調施設の贈呈式とミニコンサートを行いました。近所の方々もたくさん来てくださり、地元メディアの取材も受けました。「さんぽ」では子どもたちが一生懸命練習してきた手話をしながら大きな声で歌ってくれるなど、大変盛り上がりのある楽しいひとときとなりました。この寄付についての費用の一部は、ロータリー財団地区補助金を活用しています。

両日共に、訪問後は気仙沼の復興に尽力している方や南三陸町に東京から派遣されている職員の方を交え、復興の現況について伺いましたが、移動中に見る車窓からの景色は本格的な復興にはまだほど遠い感じを受けました。当クラブとしては少なくとも今後5年間にわたり支援活動を続ける予定です。（第2580地区 東京都）

東日本大震災チャリティコンサート 2016

名古屋大須 R C 鬼頭 茂成

4月21日に「東日本大震災チャリティコンサート2016」を、名古屋地区ロータリークラブ合唱団連合会主催で開催しました。冒頭、盛田和昭連合会会長（1989～90年度・第2760地区ガバナー）が「このチャリティコンサートは東日本大震災が起こった年から行っています。10年を目標に掲げ今年で6回目となりました。しかし、今年は熊本で地震が起こり、被災地では皆さま大変苦勞をされています。このチャリティを一部熊本にも贈ったらどうでしょう」とあいさつし、会場からの賛同の拍手でコンサートが始まりました。

第1部は、名古屋名南ロータリークラブ混声合唱団（名古屋名南 R C）、メール・アカンターレ（名古屋東南 R C）、コール・カメリア（名古屋名駅 R C）、コール・スイーツ（あま R C）、オオスシンガーズ（名古屋大須 R C）、コール・ロータリー名古屋（地区内15 R C）の6合唱団が歌声を披露。第2部はチャリティに賛同していただいた声楽家の演奏で、井原義則さん（テノール）、

小林史子さん（ソプラノ）、夏目久子さん（メゾソプラノ）の素晴らしい歌唱を聴かせていただきました。

その後、あしなが育英会の川本亜実さんに盛田会長から義援金の目録を贈呈。村松美和さんが「東北の復興と熊本の支援に使わせていただきます」とあいさつしました。最後に出演者、来場者全員で「ふるさと」を歌って閉会。あいにくの雨空のため入場者が少なく満席にはなりませんでした。総額70万円の義援金が集まりました。その金額から、35万円を東北に、35万円を熊本のあしなが育英会の募金に送金しました。皆様のご協力に感謝しています。（第2760地区 愛知県）



世界に友達の輪を広げましょう

新会員の皆さま、いろいろなところで「国際ロータリー」とか「R I」という言葉を聞いたり、見たることでしょう。R Iは Rotary International の略で、その日本語訳が国際ロータリーです。国際ロータリーはアメリカ・イリノイ州エバンストンに本部を置く国際的な組織で、皆さまが所属しているロータリークラブが、その会員です。そして、皆さまは、そのロータリークラブの会員ということになります。

少し話がややこしくなりましたが、国際ロータリーとご自分の関係を理解いただけましたでしょうか。入会間もないころは、自分が所属しているクラブの例会に出席したり、奉仕活動に参加したりするだけで精いっぱいかもしれません。

10月号の本欄にも書きましたが、少し余裕ができたなら、ほかのクラブの例会にも出席してみてください。しかし、国内のクラブを訪問しているだけでは、なかなかロータリーの国際性を理解することができないと思います。

200以上の国と地域にロータリークラブがあります。国籍や言語が違って、それらのクラブに属している会員は、すべて皆さまの仲間なのです。

「仲間と言われても……」、実感がわきませんよね。それなら一度、R I国際大会に参加してみてください。いろいろな民族衣装を着た肌の色や言語の違う人たちがたくさん参加しています。そして、手ぶり身ぶりを交えながら親しそうに話している光景を目の当たりにすることでしょう。

「House of Friendship（友愛の家）」には、地区やクラブのブースがあり、自分たちが実施しているプロジェクトを紹介しています。ロータリー親睦活動グループは国際的な組織で、複数の国のメンバーが所属していますが、それらのブースもあります。自分と同じ趣味を持った人たちのグループがあれば、そのブースに立ち寄ってみてください。皆さんも、そのグループに参加することができます。

会場内を歩いていたり、友愛の家で食事をしたりしていると、知らない外国人から声をかけられることがあります。「ダメ、ダメ」なんて言って逃げ出さないでくださいね。英語が苦手でも、「ハロー」とか「ハイ」とにこやかに返しましょう。あとは日本語で大丈夫。言葉は通じなくても心は通じます。

ところで、国際大会というと会長や幹事、またはベテランの会員が参加するもので自分たちには関係ないと思いませんか。決してそんなことはありません。国際大会には20代や30代の若いロータリアンがたくさん参加しています。入会して数か月のロータリアンも参加しています。本会議のほかにテーマ別の分科会が開催されますが、そこにはこれらの若い会員、新会員たちもたくさん参加して、自分の経験や意見を積極的に発表しています。

次の国際大会は、来年6月、アメリカ・ジョージア州アトランタで開催されます。ロータリー財団100周年を祝う大会でもあります。登録は「My Rotary」www.rotary.orgでできます。詳細は、先輩会員にお尋ねください。「せっかくアメリカまで

来たのだから観光も大事」と思われるでしょうが、ちょっと我慢して本会議や分科会に出席してみてください。普通の観光では得られない貴重な経験ができると思います。ホスト組織委員会主催のイベントも予定されていますが、それらに参加すると、アトランタの本当の良さを知ることができると思いますし、新しい友人ができることと思います。ロータリーの国際性を味わい、楽しんでください。

『友』編集長 二神 典子



『ロータリーの友』ウェブサイトをご活用ください www.rotary-no-tomo.jp

『ロータリーの友』電子版をご存じですか

『ロータリーの友』は、印刷版と電子版の両方で発行されています。電子版は、『ロータリーの友』ウェブサイト www.rotary-no-tomo.jp でご覧いただくことができます。電子版にアクセスするには、IDとパスワードが必要ですが、印刷版を購入している全クラブにご連絡していますから、わからない場合は、事務局または担当の会員にお尋ねください。

このウェブサイトには『友』誌の表紙が掲載されていますが、それが電子版の最新号になります。毎月1日にアップしています。2014年1月号以降のバックナンバーもご覧になれます。

この電子版の普及と、読者の皆さまに『ロータリーの友』に関連するさまざまな情報を提供するため、7月1日から、『ロータリーの友』ウェブサイトのリニューアルしました。

新しいウェブサイトは、パソコンだけでなく、タブレット端末やスマートフォンにも対応しています。自宅や勤務先だけでなく、電車などでの移動中や例会などの折に気になる点があった時にも、『友』誌のバックナンバーや資料などで情報を確認することができます。

『友』誌への投稿ができます

「投稿フォーム」を用意しました。原稿や写真はこれまで郵送やメールでお送りいただいていたが、「友愛の広場」「ロータリー・アット・ワーク」「わがまちの味」は、このホームページ上からも投稿いただけるようになりました。「投稿フォーム」のアイコンをクリックして、あとは必要事項を入力、写真などを添付くだされば投稿完了です。



各種のニュース・お知らせを提供

国際ロータリーや日本のロータリーに関する情報をお届けする「ロータリー・ニュース」、記事の募集や

『友』誌に関する資料や出版物の案内などをお知らせする「『友』編集部からのお知らせ」、請求書や部数変更などに関してご案内する「『友』経理部からのお知らせ」、クラブや地区などからのお知らせ「内外よろず案内」を掲載しています。定期的にご確認ください。



資料もあります

「ロータリー資料館」には、毎月の会員数や歴代国際ロータリー（RI）会長、RIテーマ一覧などの資料を掲載しています。ロータリーに関する資料をお探しでしたら、こちらにアクセスしてみてください。



ロータリーの窓口として

地区やクラブのウェブサイト、そのほかロータリーの関連機関のウェブサイトを探す場合は、こちらが便利です。『ロータリーの友』ウェブサイトをお気に入り（ブックマーク）に入れて、ご活用ください。





今月は数独。ロータリーのことにはよくわからない、という人もご心配なく。パズルは一般的な問題で、ご家族の方も楽しめます。

さて、今回の答えは、ロータリーの何の数字になるでしょうか。ロータリーのこと、ちょっとずつ学ぼう。

パズル制作／ニコリ

ルール

- ①まだ数字の入っていないマスに1から9までの数字のどれかを1つずつ入れましょう。
0（ゼロ）は使いません。
- ②タテ列（9列あります）、ヨコ列（9列あります）、太線で囲まれた3×3のブロック（9つあります）のそれぞれに、1から9までの数字が1つずつ入るようにします。

					3	5	7	
	7	3	2		B			6
C	2		4					9
	6	1	7			D		4
5					8	2	3	
3					6		9	A
4					2	6	5	
	8	7	5					

問題

二重枠のマスに入った数字をA～D順に並べてできる4桁の数字をお答えください。

答

毎月10人にロータリーの友名前入り
オリジナルUSB（4GB）をプレゼント



応募方法

郵便はがきに、①「11月号の答え」 ②名前 ③所属クラブ ④今月号で印象に残った記事 をお書き添えの上、〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル4階（一社）ロータリーの友事務所P係までお送りください。ご記入いただいた情報は誌面企画の参考と、賞品発送のためにだけ使用させていただき、印象に残った記事に関する回答は「印象に残った記事ベスト3」の集計に使用します。会員のご家族、クラブの事務局の方、インターアクター、ローターアクター、米山奨学生のご応募も大歓迎です。

締め切り 2016年12月12日（月）必着
正解と当選者発表 本誌2月号

* 8月号の答えと解説を横組みP 35に掲載しています。

来月のパズルは、クロスワード。お楽しみに！

ご投稿をお待ちしています！

——『ロータリーの友』投稿規定——



友愛の広場

- ・エッセーや、海外ロータリークラブ訪問記、時局雑感など。1,000字以内。関連写真があれば添付。

わがまちの味

- ・わが町自慢の郷土料理、変わった例会の食事、個人的な思い出の味などを紹介。食べ方、由来など100字以内の説明文に料理そのものの写真をお送りください。

ロータリー・アット・ワーク写真編

- ・ロータリークラブ、地区、インターアクト・ロータリーアクトクラブなどの奉仕活動を写真で紹介。
- ・写真と150字程度の説明文。必ず活動日を入れてください。活動後1か月以内にご投稿ください。字数を超える場合は編集させていただきます。

ロータリー・アット・ワーク文章編

- ・ロータリークラブ、地区、インターアクト・ロータリーアクトクラブなどの奉仕活動を文章中心に紹介。活動後1か月以内にご投稿ください。600字以内。関連写真があれば添付を。

内外よろず案内

- ・国内外の会員間の趣味の交換、催し物の案内など。原稿は200字以内。

ロータリー俳壇・歌壇・柳壇

- ・1か月に1人はがき1枚に3句（首）まで。作品の横にクラブ名・お名前・電話番号を記入。選者の方のご都合もあり、メール投稿はお受けできません。

お願い

原稿について

- ・Eメールの場合、件名欄に所属クラブ名を、メール本文には原稿についての窓口となる連絡先（電話番号）を必ず明記し、原稿と写真データを添付し送信してください。
- ・郵送の場合、パソコン作成原稿はCD-Rなどに入れてお送りください。手書き原稿は、原稿用紙に。

写真について

- ・記念撮影（集合写真）は原則、掲載しません。
- ・Eメールの場合、JPEGデータ1枚200KB以上の容量で、原稿に貼りつけず送信してください。
- ・郵送の場合、デジタルカメラで撮影した写真は、プリントしたものと一緒に必ずデータ（原則JPEG／容量

200KB以上）をCD-Rなどに入れ、お送りください。送付データのオリジナルはご送付後もしばらくお手元で保存してください。

- ・フィルムカメラで撮影した写真は、プリントを郵送ください。

その他

- ・投稿時、Eメールまたは郵送のいずれも、名前、所属クラブ、連絡先の住所、電話・ファクス番号・Eメールアドレスを必ず記入してください（編集のため連絡することがありますので、昼間に連絡の取れるところをご記入ください）。
- ・「友愛の広場」「ロータリー・アット・ワーク」「わがまちの味」は、『ロータリーの友』ウェブサイト内に「投稿フォーム」が設けてありますので、ここからの投稿もできます。
- ・写真は原則として返却いたしません。要返却写真は、その旨を送付時にお書き添えください。
- ・写真ならびに原稿は、『友』英語版、『友』ウェブサイト、広報誌など、一般社団法人ロータリーの友事務所発行の出版物に掲載させていただく場合があります。
- ・掲載は、一般社団法人ロータリーの友事務所理事会ならびにロータリーの友編集部へ、ご一任ください。誠に勝手ながら、掲載・非掲載の連絡は差し上げておりませんが、投稿後6か月をめどに、ご判断ください。

『クラブ週報』『クラブ会報』について

クラブの『週報』『会報』をご送付ください。メール配信のクラブは、メーリングリストに『友』編集部 hensyu@rotary-no-tomo.jp を加えてください。紙で発行のクラブは毎週、あるいはひと月からふた月まとめて、ご郵送ください。

送り先

一般社団法人ロータリーの友事務所

〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15

黒龍芝公園ビル 4階

Tel. 03-3436-6651 Fax. 03-3436-5956

Eメール hensyu@rotary-no-tomo.jp

『ロータリーの友』ウェブサイト投稿フォーム

www.rotary-no-tomo.jp/form.php

2018 - 19 年度国際ロータリー会長
にサミュエル・オオリ氏



国際ロータリー（R I）会長指名委員会が開かれ、2018 - 19 年度 R I 会長として、ウガンダのカンパ・ロータリークラブ所属のサミュエル・オオリ氏が満場一致で指名され、10 月 1 日をもってオオリ氏が会長ノミニーとなりました。

オオリ氏は、ロータリーには「変化をもたらそうとする驚くべき情熱」があるとし、会長として「この情熱と誇りを生かして、すべてのプロジェクトが平和と繁栄の原動力となるようにしたい」と考えています。

ロータリーのリーダーとしてのオオリ氏の一番の関心は、会員増強とクラブ拡大です。ウガンダでは、自身から 1987 - 88 年度にガバナーを務めて以来、クラブ数がわずか 9 クラブから 90 クラブに拡大しました。もっと多くの女性、青少年プログラムの参加者、学友、地域社会の人々にロータリーに参加してもらい、今後数年間にロータリークラブの会員を増やすために、元リーダー、現リーダー、未来のリーダーの協力が必要だと訴えます。

「ロータリーのない場所、また、入会を誘われたことのない潜在的会員が多く存在する」とオオリ氏。「問題は、

ロータリアンが自分が入会した後で、扉を閉ざしてしまうことです」

オオリ氏は Institute of Corporate Governance of Uganda の C E O（最高経営責任者）。アフリカ開発銀行、ウガンダ商業銀行、ウガンダ開発銀行の取締役を歴任しています。ハーバー

ドビジネススクールを含むアメリカ、イギリス、日本、スイス、タンザニアの教育機関で、法律、雇用関係、経営、企業資源管理、マイクロファイナンス、マーケティングを学びました。

1978 年にロータリー入会。以来、ロータリー財団地域コーディネーター、R I 会員組織地域コーディネーター、国連

環境計画と国連人間居住計画の R I 代表、R I 理事、インターナショナル・ポリオプラス委員会委員、薬物乱用防止タスクフォースメンバー、監査委員会委員、ロータリー財団管理委員、ロータリー財団財務委員長、投資委員会委員を歴任しました。ノラ夫人とともにロータリー財団メジャードナーでもあります。

ナイジェリアが 再びポリオ常在国に

今年 8 月、ナイジェリア北東部のボルノ州で野生型ポリオウイルスによる 3 件の症例が報告されました。世界保健機関（WHO）がこれらの症例を確認したことを受け、ナイジェリアは再びポリオ常在国リストに追加されました。現在、同国以外にアフガニスタンとパキスタンがポリオ常在国となっています。

同国でのポリオ症例は 2014 年 7 月以来であり、すべてのロータリアンにとって非常に残念なニュースとなりました。しかし、ナイジェリアは必ずポリオに打ち勝つことができると私たちは信じています。今回のポリオ発生に迅速に対応するため、ロータリーは

50 万ドルの追加支援を行ったほか、パートナー団体と調整を図りながら緊急対策を進めています。ナイジェリアの北東にあるチャド湖沿岸 5 か国では、ポリオの感染拡大を防ぐために大規模な予防接種キャンペーンが実施されています。

新たな発症が報告されたものの、ナイジェリアとそのほかのアフリカ諸国、そして世界中で、ポリオ撲滅活動は大きな進展を見せています。

わずか 4 年前の 2012 年、世界のポリオ全症例の半数以上が、ナイジェリアから報告されていました。しかし、質の高い予防接種キャンペーンとサーベイランス（監視活動）、および政府の支援により、同国は撲滅に向けて大きく進展してきました。さらに、今回の新たな発症が確認されたのも、サーベイランスの強化に引き続き努めてきたことの証しです。

私たちは、不安定な地域、および南スーダンやシリアといった紛争地域でも、ポリオの突発的発生を迅速に食い止めることに成功してきました。ナイジェリアでも、これと同じ方法で乗り越えていくことができるでしょう。

ロータリーはポリオ撲滅に全力を注いでいます。私たちは今後も引き続き、撲滅活動にあたるロータリアン、特に母国でポリオ撲滅に懸命に取り組んできたナイジェリアのロータリアンをサポートしていきます。皆さまのご支援があれば、野生ポリオウイルスをこの世界からなくすことができます。

インターナショナル・ポリオプラス委員長
マイケル K. マクガバン

ロータリー財団の賞： 日本国内受賞者リスト

2015 - 16 年度ロータリー財団特別功労賞とロータリー財団功労表彰状の受賞者をお知らせします。特別功労賞はロータリー財団最高の賞で、地区レベルを超えた、長年にわたる受賞者の貢献をたたえるものです。この賞は、功労表彰状の受賞後 4 年が経過したロータリアンを対象としています。功

労表彰状は、1年以上にわたりロータリー財団のために積極的な奉仕を行ったロータリアンに贈られる賞です。この賞は、ロータリアンなら誰でも推薦できますが、ガバナーの承認が必要となります。(敬称略)

特別功労賞

第2770地区 森田 武司(大宮北東)

功労表彰状

第2550地区 長嶋 一郎(大田原)

第2580地区 山口 恭弘(東京池袋)

第2620地区 中山 正邦(浜松南)

第2680地区 三木 明(姫路)

第2710地区 伊賀 訓之(徳山東)

第2750地区 鈴木 義明

(東京武蔵国分寺)

第2760地区 鈴木 文勝(小牧)

第2770地区 田中徳兵衛(川口)

第2820地区 藤居 彰一(日立)

ロータリー財団、 満点評価を受ける

ロータリー財団は、アメリカ国内慈善団体の格付けを行う機関「チャリティー・ナビゲーター」から、満点の評価を受けました。

9月1日に公開された今回の評価では、「財務の健全性」と「説明責任&透明性」のいずれの分野でも100ポイントを記録。これは、財団への寄付金が効果的にプログラム・プロジェクトに活用され、健全なガバナンスが保たれ、オープンな運営が行われていると、チャリティー・ナビゲーターが評価したことを意味します。なお、前回の評価は97ポイントでした。

国際大会

古きよきアトランタ



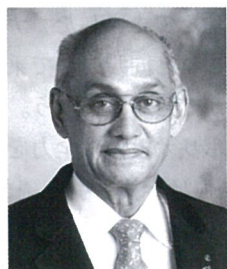
アトランタは、南北戦争中に甚大な被害を受け、建物のほとんどが破壊されてしまいました。しかし、ジョージア州の300年近い歴史を物語る場所は多くあります。そのいくつかをご紹介します。

2017年6月10～14日のロータリー国際大会会場から短時間で移動できる場所に、オークランド墓地があります。ここには、ゴルフの神様ボビー・

ロータリー財団管理委員長の思い

「ロータリー財団月間」を祝う

2016-17年度ロータリー財団管理委員長 カルヤン・バネルジー



1956年、国際ロータリー理事会は、「ロータリー財団のプログラムに貢献する」よう

推進する週間を11月に設定しました。さらに理事会は1982年、この週間を11月全体に拡大し、財団にささげる月間としました。

それ以来、私たちの財団は誰もが想像し得なかったほど大きく成長し、繁栄を遂げました。1985年、ロータリーは世界の子どもたちにポリオの予防接種を行い、ポリオのない世界をつくるという、組織を挙げた初のプロジェクトを開始しました。

財団の人道プログラムは、補助金の申請を効率的に処理することが困難となるほど急速に成長しました。そこで新しい補助金モデルが導

入され、より大規模で長期的な成果をもたらすグローバル補助金と、より短期の小規模な活動を支える地区補助金が始まりました。さらに、ロータリー平和センターの設立を通じ、「平和のための大学」というロータリアンの長年の夢が実現しました。

ロータリアンからの寄付も格段に増加しました。1982-83年度の寄付総額が1,900万ドルほどであったのに対し、2015-16年度では2億6,560万ドルにまで達しています。

今年の11月は、単に財団月間を祝うだけでなく、ロータリー財団100周年を祝う月です。ロータリーのウェブサイトでは、この特別な年度にふさわしい行事のアイデアが紹介されますが、私から特に3つのアイデアをお伝えします。

まずは、世界でよいことをしてきた財団の100年にスポットライトを当ててような、地域社会全体を対象とするイベントを開くことです。2つ目

は、緊要な課題に応えるプロジェクトの計画と実施です。これは、地元での募金活動を通じて資金を調達するか、グローバル補助金に申請して実現できるでしょう。プロジェクトの例として、きれいな水の提供、女子への基本的教育の提供、マラリア、HIV/エイズ、そのほかの予防可能な疾病への取り組みなどが挙げられます。

3つ目にお勧めしたいことは、すべてのロータリアンが100周年を記念した特別寄付を行うことです。ロータリー財団は、私たち一人ひとりのものであることを忘れてはいけません。私たちからの寄付が世界でよいことを行う財団のあらゆる善行を支えているのであり、これは過去100年にわたって継続されてきたことです。この伝統を次の100年にも継承していこうではありませんか。



RI 指定記事

ジョーンズや『風と共に去りぬ』の著者マーガレット・ミッチェルをはじめとする著名人が眠るお墓や、南北戦争の南軍戦没者の碑があります。広大な48エーカー(約5万8,000坪)のこの墓地ではツアーも提供されています。

ミッチェルがピュリツァー賞を受賞した小説『風と共に去りぬ』を書いた家は、今もアトランタの中心部にあります。また、街の反対側にあるアトランタ歴史センターでは、南北戦争時代の農家やアトランタの初期の小屋など、より歴史的な家々を見て回ることもできます。

アトランタから1時間半ほどのメイコンには、ジョージア州の歴史をさらにさかのぼることができるオクマルギ国立記念公園があります。先史時代の先住民の地として知られ、1万7,000年も人類の暮らしが営まれていた場所とされます。

ロータリーの歴史に関心があれば、遠くへ足を延ばす必要はありません。1917年のロータリー年次大会は、Baptist Tabernacle で行われました。センテニアル・オリンピックパークからも近距離のこの場所は今日、Tabernacle というコンサートホールがあることで知られています。

- デブリナ・チャクラボルティー

2017年アトランタ国際大会への登録は、www.riconvention.org/ja から。

今後のR I 国際大会

2017年6月10～14日

アメリカ・ジョージア州アトランタ
(以下、予定)

2018年6月24～27日

カナダ・オンタリオ州トロント

2019年6月1～5日

ドイツ・ハンブルク

2020年6月7～10日

アメリカ・ハワイ州ホノルル

2021年6月13～16日

台湾・台北

統計

全世界ロータリアン総数

1,207,913人

クラブ数 35,399 クラブ

地区数 534 地区

国と地域 200 以上

ローターアクト会員数 216,062 人

クラブ数 9,394 クラブ

国と地域 160 以上

インターアクト会員数 465,474 人

クラブ数 20,238 クラブ

国と地域 150 以上

2016年7月1日現在

* 2016年5月27日現在

** 2016 - 17年度

ロータリーの友

Home Page

www.rotary-no-tomo.jp

「パズル de ロータリー」(8月号) の答えと解説

8月号の答えは

「ハバナ」

当選者(敬称略・順不同)

応募総数 199人 正解者 198人
岡田佳也(相生RC)、福永隆子(鴨島RC)、深川稔成(東京港南マリオンRC)、袖山瑞希(新潟南RC)、大澤光司(栃木RC)、立川記子(つくばシティRC)、岩渕一(長野RC)、齋藤弘行(名取RC)、小泉繁勝(川崎中RC)、齋藤竜政(尼崎北RC)

ヒ	マ	ワ	リ	ハ	ハ
ニ	ボ	シ	パ	イ	ン
ク	ロ	ハ	レ	ド	
シ	ガ	ナ	オ	ヤ	
グ	ク	ビ	マ	キ	
ア	ロ	ハ	ホ	ノ	オ
ハ	ス	ジ	リ	ヒ	ン

ところで「ハバナ」って?

1905年、アメリカ・シカゴで最初のロータリークラブが創立され、

その後、カナダ、イギリス、アイルランドなどにロータリークラブが創立されていきましたが、英語圏以外で最初に創立されたのが、キューバのハバナ・ロータリークラブ(RC)です。創立は1916年4月。1940年にはハバナで国際大会が開催

され、1957年10月までにキューバ国内に60を超えるクラブができました。しかし、1979年の1月31日をもってキューバの全クラブは終結しました。

政治とは一線を画すロータリーですが、政治や国際情勢により影響を受けてしまった例もロータリーの歴史の中にはあります。平和な世界を願わずにはられません。

なお、2005年11月のR I 理事会で、2006年1月30日をもってキュー



1916年4月29日、英語圏外初のロータリークラブとして創立したハバナRC

ーバへのロータリーの門戸を開いています。現在のところ、復帰はまだですが、その日は遠くないかもしれません。

おまけ

『友』8月号
印象に残った記事ベスト3

1位 (31人)

時代に向きあい 人に寄りそう

2位 (26人)

クラブを訪ねて 柏原RC

3位 (18人)

友愛の広場

『友』誌ご購読部数変更 についてのお願い

- ①今年度『友』誌下半期分（2017年1～6月号）減部のご連絡は、2016年12月5日までに直接、友事務所へお願いいたします。ご連絡は、郵便・電話・FAXのいずれの方法でも結構です。
- ②1月号の発行部数決定や発送準備の都合上、12月6日以降は、1月号の減部はご容赦ください。
- ③12月6日以降の会員数変動による減部は、2016年1月10日までにご連絡いただければ、「2月号～6月号」の減部として対応いたします。
- ④1月11日以降にご連絡いただいた減部はすべて、次年度7月号からになりますので、ご了承ください。
- ⑤追加購読のお申し込みは、残部がある限りお受けいたします。随時、ご連絡をお待ちしております。
- ⑥部数変更のご連絡がない場合には、2016年12月号と同じ部数を送付させていただきます。

定価 200 円＋消費税（送料別）

『友』誌の購読をいただいている方は、併せて『友』電子版をご覧くださいいただけます。お問い合わせは、ロータリーの友事務所までお願いいたします。

新インターアクトクラブ

鹿屋女子高等学校

（2730・鹿児島県・鹿屋）

発会 2016年9月1日 会員数 11人
事務所 〒893-0064 鹿屋市西原1-24-35 鹿屋市立鹿屋女子高等学校内
会長 小平寧々 幹事 片野坂奈々星

◆訂正 本誌9月号横組みP35表中、左端・留学生数→奨学生数へ、10月号横組みP32左段上から5行目・重い→軽いへ、おわびとともに訂正します。

地区別クラブ数・会員数一覧表

（2016年8月末現在）

地区	R C 数	会員数	15年8月末 会員数
第2500地区	67	2,318	2,281
第2510地区	69	2,580	2,585
第2520地区	79	2,312	2,298
第2530地区	66	2,417	2,394
第2540地区	42	1,138	1,112
第2550地区	51	1,732	1,743
第2560地区	56	2,134	2,121
第2570地区	51	1,651	1,656
第2770地区	73	2,620	2,591
第2790地区	83	2,797	2,783
第2800地区	50	1,647	1,643
第2820地区	56	1,986	1,984
第2830地区	41	1,193	1,151
第2840地区	46	2,087	2,062
第2580地区	70	3,052	3,033
第2590地区	57	2,077	2,146
第2600地区	55	1,995	2,002
第2610地区	65	2,665	2,626
第2620地区	79	3,031	2,981
第2630地区	77	3,123	3,119
第2750地区	100	4,875	4,822
第2760地区	83	4,838	4,839
第2780地区	65	2,333	2,366
第2640地区	70	1,874	1,806
第2650地区	97	4,651	4,653
第2660地区	81	3,631	3,619
第2670地区	74	3,001	2,992
第2680地区	75	2,856	2,864
第2690地区	66	3,096	3,115
第2700地区	61	3,183	3,186
第2710地区	73	3,348	3,332
第2720地区	74	2,392	2,390
第2730地区	65	2,375	2,363
第2740地区	57	2,235	2,234
34地区合計	2,274	89,243	88,892

日本のロータリー

会員概数 88,951人

クラブ数 2,265

（左の表中34地区合計から、第2750地区のP Bグループを引いた数です）

ガバナー月信より 2750クラブ数・会員数は、P Bグループ9 R C 292人（北マリアナ諸島・グアム・ミクロネシア・パラオ）を含みます。P6「日本のロータリー」数は34地区合計からP Bグループを引いた数。15年8月末P Bグループ9 R C 会員数288人。

修正 本誌10月号横組みP43（7月末）表中、地区会員数：2530・2,408人、2540・1,138人、2570・1,643人、2590・2,068人、2750・4,862人、2640・1,869人、2650・4,634人、2690・3,084人、2730・2,368人、34地区合計会員数：88,838人、表外とP6「日本のロータリー」最終行会員数：88,548人。

*『友』ホームページの「ロータリー関連資料」にデータ修正後の表を掲載。

*第2520地区の数値は震災につき概数。

ロータリーの友

Home Page

www.rotary-no-tomo.jp

ロータリーの友

12月号主要記事予定

横組み わがクラブのプロジェクト……その後

縦組み わが社の震災復興への取り組み

福島ヤクルト販売(株) 代表取締役会長 渡邊 博美

クラブを訪ねて 田辺はまゆう R C

Rotary

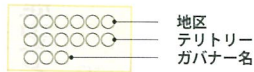


ご投稿・お問い合わせは——

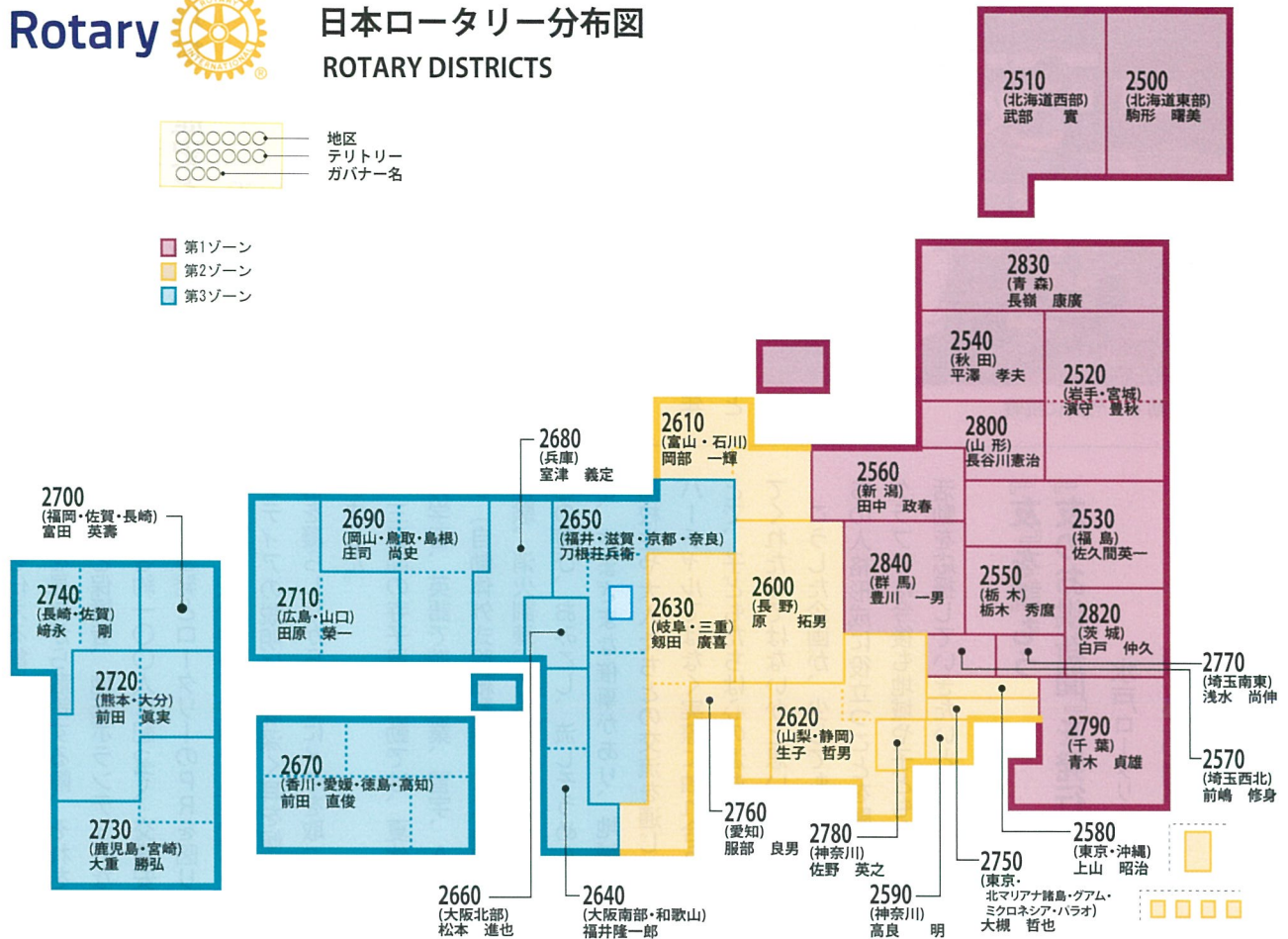
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル4階

一般社団法人ロータリーの友事務所 Tel. 03-3436-6651 Fax. 03-3436-5956

編集部メール hensyu@rotary-no-tomo.jp ロータリーの友HP www.rotary-no-tomo.jp



第1ゾーン
第2ゾーン
第3ゾーン



ロータリーの友ホームページ www.rotary-no-tomo.jp に各地区のホームページをリンクしています。

月刊 ロータリーの友

第64巻 11月号

2016年10月31日印刷 2016年11月1日発行

一般社団法人

ロータリーの友事務所

社員 斎藤 直美 (豊田)
石黒 慶一 (鶴岡西)
上山 昭治 (東京武蔵野中央)
大槻 哲也 (東京中央)
佐野 英之 (秦野)
松本 進也 (大阪北)

■ 理事会

代表理事 清水 良夫 (横浜)
理事 片山 主水 (名古屋東南)
神崎 正陳 (茅ヶ崎湘南)
上野 孝 (横浜)
安平 和彦 (姫路)
片岡 信彦 (土浦南)
橋本 長平 (京都東)
井原 實 (さいたま新都心)
田中 賢三 (茅ヶ崎)
東 良輝 (宇都西)
吉田 雅俊 (東京新都心)
猿渡 昌盛 (東京武蔵府中)
横山 武志 (東京北)
中里 公造 (川口モーニング)
堀口 昇治 (東京西)
野中 茂 (川崎)
津村 政男 (東京臨海東)
渡辺 誠二 (東京みなと)
二神 典子 (東京築地)
監事 船越 豊 (千葉中央)
小川 湧三 (川崎鶴沼)
相談役 板橋 敏雄 (足利東)
中村 昌平 (東京北)
中山 義之 (横浜南)

■ 職員

所長 渡辺 誠二 (東京みなと)
編集長 二神 典子 (東京築地)
副編集長 野崎 恭子
編集 稲川 やよい
黒野 穂二
山名 愛
飯田亜由香
経理 富澤 美子
半田 弥生
福元菜穂子
振込銀行 三井住友銀行浜松町支店
口座番号 (普通) 7450015
郵便振替 口座番号 00180-8-694591
印刷 大日本印刷 (株)
表紙印刷 半七写真印刷工業 (株)

一般社団法人ロータリーの友事務所

〒105-0011
東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル 4 階
電話 03-3436-6651
FAX 03-3436-5956
ホームページ www.rotary-no-tomo.jp
定価 200 円 + 消費税 (送料別)

落丁本・乱丁本は一般社団法人ロータリーの友事務所までお知らせください。本文・写真などの無断転載・複製を禁じます。



寺子屋活動で、竹馬に挑戦

に色づけした、色とりどりの削り華を利用して、親子で楽しくフラワーアート作りを体験してもらいました。

壬生町 親子で学ぶ 地域の歴史と命の大切

壬生ロータリークラブ
第二五〇地区・栃木県

八月一九〜二二日、地元の磐裂根裂神社で小学生三〇人を対象に、「壬生町親子で学ぶ地域の歴史と命の大切」をテーマとした勉強会を開きました。寺子屋実行委員会と磐裂根裂神社子総代会の主催、地元の七自治会の協賛で、当クラブは地区補助金を活用した青少年奉仕事業として支援しました。

今年度はロータリー財団一〇〇周年に当たるため、財団一〇〇周年記念と

しるした交通安全の旗を手作りし、町の歴史を伝える亀塚古墳や戊辰戦役の碑などを見ながら散策する際、それを小学生と保護者、地元ボランティアなど参加者約一〇〇人に配って、交通安全への啓発とロータリーのPRを図りました。炎暑の中、参加者は歴史ボランティアの説明に興味深く耳を傾け、目を凝らしながら熱心にメモを取っていました。

三日間の寺子屋の活動では、夏休みの学習、英語で遊ぶ授業、習字、AED（自動体外式除細動器）による救護体験、消火訓練、竹馬やフラフープなどの遊び、おみこし、流しそうめんなど、さまざまな催事があり、地域の高校生や大人たちとの交流を通じて、バーチャルではなく実際に触れ合うことで、子どもたちは心の温もりを養ってくれたのではないかと思います。こうした企画が、少しでも子どもたちの人格形成に役立つことを願って、クラブでは今後も地域や子どもたちの活動を応援していきたいと思っています。

『友』を読もう

『友のお供新聞』を発行

水戸ロータリークラブ
第二八二〇地区・茨城県

『ロータリーの友』（以下『友』）をもつ

と多くの会員に読んでほしい。そんな思いから、当クラブでは今年七月から、『友』を要約したA4判の『友のお供新聞』を発行しています。

雑誌の購読はロータリアンの三大義務の一つ。『友』は内容も充実しており、読み応えがあり、読まないのはもったいない話です。そこで、クラブ雑誌委員会が主体となり、『友』が配布される第一例会に、当月の『友のお供新聞』を発行、会員に読んでもらっています。

『友のお供新聞』は無料のソフトを使って編集。トップ記事から二番手、三番手の記事をピックアップするほか、軽い話題のトピックスを四本、さらに毎号の編集後記に当たるコラム「ロータリーの友を読もう」を掲載しています。

すべての記事には、本誌の掲載ページが一目でわかるよう、ゴシック文字でページ番号を添えるなど、文字通り「友のお供」としての工夫を凝らして



『友』誌より人気!? 好評の『友のお供新聞』

います。

会員からは「読みやすい」「完成度が高い」と好評価を得ていますが、『友のお供新聞』を読んだだけで、すっかり本誌を読んだ気になってしまわないよう注意を呼びかけています。

（北島重司・記）

Annotation

インターアクトクラブ
(Interact Club)

学校や地域社会での課題に取り組むために結束する一二〜一八歳の青少年のため、ロータリークラブが提唱するクラブです。奉仕活動を行い、リーダーシップを身につけ、新しい友人をつくることなどを目的としています。詳細は『二〇一三年手続要覧』七二ページをご覧ください。

ローターアクトクラブ

(Rotaract Club)

ロータリークラブが提唱する、一八〜三〇歳の大学生および若い成人のためのクラブです。アイデアを広げ、地域社会に貢献し、永永い友情を築くことを目的としています。詳細は、『二〇一三年手続要覧』七二〜七三ページをご覧ください。

AED（自動体外式除細動器
Automated External Defibrillator）

けいれんし、血液を流すポンプ機能を失った状態（心室細動）になった心臓に対して、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器です。



サンポート高松地区で汗を流しながら清掃

ペットボトルも何とかしたい！」と、危険を顧みず(?)着岸周辺のペットボトルを可能な範囲で集めていました。近年、特にサンポート高松地区の周辺環境が整備されてきただけに、岸近くの浮遊物が気になっている人も多いと思います。この地域だけで改善される事業でもありませんし、本格的に実施すると費用もかかるとは思いますが、瀬戸内海の多島美や長汀曲浦(長く美しい海岸線)、豊かな幸がある私たちの海や街を大切にいくため、今後も考えていく必要があると、あらためて感じました。この事業を通して、会員がともに汗を流す中で、クラブ内の結束力も高まったものと思います。

「地域クリーン事業」を通して国内外からの訪問客に「美しい高松」「豊かな高松」という印象を持ってもらえ

るよう、会員全員参加型の社会奉仕活動として、今年度は夏、秋、春と年三回、実施することになっています。

(小原康弘・記)

環境保全

ヤマユリの里を守って七年

秦野中ロータリークラブ

第二七八〇地区・神奈川県

神奈川県の花がヤマユリであることを踏まえ、当クラブが「ヤマユリの里」づくりを始めて、はや七年になる。七月八日には六回目となる鑑賞会を開き、見事に開花した一二〇本近いヤマユリを眺め、その香りを楽しんだ。

ヤマユリは、気温と湿度の微妙なバランスの上で自然体系が正常な時に開花し、個人での栽培に成功するのはなかなか難しいと言われている。しかし、県内の専門家に渋沢丘陵地帯がヤマユリに適した土壌と気候を有しているとの判定を受け、二〇〇九年一月、当時の高橋元治会長が環境保全を目的に、ヤマユリの種二万五〇〇〇個、球根二〇〇個を用意して「ヤマユリの里」づくり挑戦。すると、見事に翌年から開花した。

現在、六〇〇坪近い丘陵地帯で、三〇〇本近いヤマユリを管理しており、今年度もこうして鑑賞会を開き、



今年度も見事に開花したヤマユリ

環境保全に思いをはせたが、森や林など、ふるさとの山河がわれらの命のもとと再認識するばかりである。

丹沢山系を含むこの大事な秦野の山野を後世に託すべく、「ヤマユリの里」づくりを实践、ロータリーの奉仕の精神を発揮し、社会的な貢献を果たしていきたいと、会員一同、鑑賞会を経て気持ちを新たにしている。

(松野賀太・記)

親子で体験教室 削り華でフラワーアート

高山中央ロータリークラブ

第二六三〇地区・岐阜県

当クラブでは三年前から夏休みを利用し、青少年育成事業の一環として「親子体験教室」を実施しています。

岐阜県立高山工業高校の協力を得て、三年前には「マイ箸作り」、昨年は「あんどん作り」、昨年は「千鳥格子作り」、今年度は八月六日に「削り華フラワーアート作り」を実施しました。

この事業は、飛騨伝統の匠の技を親子に体験してもらうことを目的とし、毎回、高山市内の小学四・五年生に呼びかけています。今回は親子四八組(約一〇〇人)の参加がありました。

「削り華フラワーアート」とは、鉋で削った木のクズを「削り華」として利用して作るフラワーアートのことで、削り華には、木を薄く削る職人の技術が必要です。高山でもトップレベルの匠による鉋削りの実演後、実際に親子でも鉋削りを体験してもらいました。その後、高山工業高校の生徒が事前



フラワーアート作りに挑戦する子どもたち

甲子園での勝利とお国自慢大賞受賞

柳井西ロータリークラブ
第二七二〇地区・山口県

五月二十九日、阪神甲子園球場で行われた第三回全国ロータリークラブ野球大会に、私たちのクラブの野球同好会「ノンターズ」が、前回大会での惜敗の雪辱を期して出場しました。

前日二八日の一八時から尼崎市の

今年七月に神奈川県相模原市の障がい者施設で殺傷事件が発生して以来、障がい者施設と地域との開放的な関係づくりが議論になっている折、会員が障がい者の社会参加を考えるよいきっかけになりました。

(竹内巧治・記)



患者と触れ合い、理解を深めた夏祭り



花傘おどりを披露するメンバー

ホテルで、開会式の代わりに参加チームの親睦を兼ねた前夜祭が開催され、「お国自慢大賞」を目指して各チームのお国自慢が披露されました。私たちのチームも野球練習の合間を縫って、柳井まつりで踊られる「花傘おどり」を練習し、応援団を含めた一六八全員で披露したところ、見事「お国自慢大賞」を受賞することができました。

この勢いを駆って翌日一三時四〇分からの第四試合に臨みました。相手は地元の大坂城北ロータリークラブで、試合は両チーム点の取り合いとなり、一点差を争うシーソーゲームとなりました。一時間半の制限時間をフルで戦い抜き、五回七対六のサヨナラで、わがチームが勝利しました。休会となっていた「ノンターズ」を再始動するため、新会員の増強に努め、新旧メン

出雲RC百年歌

出雲ロータリークラブ
第二六九〇地区・島根県

バーの親睦を深め、やっと勝ち取った新チームによる一勝でした。

これを機に、メンバー全員、この野球同好会の充実を目指し、なお一層の会員増強に努め、クラブの活性化を図っていくことを決意した次第です。

当クラブには「出雲ロータリークラブ(RC)百年歌」があります。

二〇二〇年に創立一〇〇周年を迎える東京RCより前に、当クラブが一〇〇周年を迎えたわけではありません。これは出雲RCが創立五〇周年を迎えた時、その記念事業としてクラブの歌の歌詞を募集し、名誉会員で元出雲市長の直良光洋会員と、海田孝雄会員の歌詞を合わせ、島根大学名誉教授の米山道雄氏に曲をつけてもらって作った曲です。創立一〇〇周年を迎える時まで、出雲RCが「奉仕の理想」を大切に守り続けていくことを願った曲です。

創立六三周年を迎えた今年八月二日、残念ながら作詞者の一人、直良会員が亡くなりましたが、クラブではこの曲を歌い続けます。そして、この曲が創立一〇〇周年まで歌い継がれて



「出雲RC百年歌」を歌う会員たち

高松RC地域クリーン事業

高松ロータリークラブ
第二六七〇地区・香川県

いくことを切に願っています。

(石原一徳・記)

「瀬戸内国際芸術祭二〇一六」夏会期(七月一八日〜九月四日)の開催期間中の八月二〇日午前一〇〜一時半、芸術祭の起点の一つである高松港周辺のサンポート高松地区において、わがクラブの中核事業である「地域クリーン事業」を実施しました。

活動中は参加者全員、基本的には黙々と清掃作業を行いつつも、「海を眺めながら会話を弾み、いい汗をかけた」という声も聞きました。

一部の若手会員は「海面に浮かぶ



花火を見ながら盛り上がった暑気払いの会

てこいの天候となりました。

会場は、高橋和雄会員の自宅の屋上を開放してもらい、午後四時ごろから親睦活動委員の皆さんに準備をしてもらいました。牛肉、豚肉、羊肉、ソーセージなど、盛りだくさんで、野菜やポテト、焼きおにぎりなども豊富に。飲み物もビール、酎ハイ、ハイボール、ソフトドリンクなどを用意し、テーブルやいすを設置して、午後六時半にスタートしました。参加者は会員二十四人と夫人三人に加え、地区内のローター・アクトクラブから七人、米山学友と奨学生一四人、子ども数人と総勢五〇人ほど。浴衣姿の参加者もあり、夏本番といった風情でした。

大会が始まった七時過ぎ、花火が上がるたびに歓声が上がリ、盛んに写真を撮りましたが、そのうちに花火より

食欲が勝り、焼き肉の周りに列ができ、食べるのにもひと苦労でした。飲み物を冷やす氷もすぐに溶けてしまい、何度追加で手配する始末でした。それでも肉を焼く人、配る人、飲み物を冷やす人、おつまみを出す人など、ローター・アクトや米山奨学生も自主的に手伝い、とても和やかな雰囲気でした。普段はなかなか会えないローター・アクトや米山奨学生と交流できたことは、大きな成果ではないでしょうか。今後も機会をつくり、交流を深めていくようにしていきたいと思います。

(小林茂・記)

第一九回納涼寄席 笑顔があふれる会場

明石南ロータリークラブ

第二六八〇地区・兵庫県

八月二六日、ロータリー財団創立一〇〇周年を祝し、「ロータリーデー」と位置付けた当クラブ主催の納涼寄席を開催。一九回目となるクラブの継続事業で、落語家・林家染二師匠ほかを迎えて開きました。毎回多数の申し込みがあり、抽選をするほどの盛況ぶりです。市民に楽しんでもらえる恒例の行事として定着してきました。

開会に先立ち、尾上孝司会長からロータリークラブやロータリー財団の



落語を楽しむ市民たち

成り立ち、ロータリー財団による奨学金の提供やボロ才撲滅といった活動に来場者に紹介しました。

今回は、落語家・桂りょうば氏による演出「阿弥陀池」、染二師匠による演出「饅頭こわい」。中入り後、再び染二師匠による演出「お楽しみ」と、二時間にわたり会場で爆笑が起き、笑顔があふれました。

寄席が終わった後は来場者から「ありがとう」「楽しかった」との声。後日、礼状が届いたりして、多くの人たちに楽しい時間を提供できたと思います。

これからも「広く社会に奉仕する」というロータリーの活動理念を、市民に理解してもらえるよう、また市民に笑いと笑顔を提供すべく、全力で活動に取り組みます。

(吉元進・記)

精神科病院の夏祭り 社会奉仕

郡上八幡ロータリークラブ

第二六三〇地区・岐阜県

当クラブは八月二日夜、郡上市内の精神科病院・慈恵中央病院の夏祭りに参加しました。会員でも精神科の病院に立ち寄ったことがある人は少数です。そこで同病院の院長が会員にいます。そこから、社会奉仕活動として精神障がい者との触れ合いを目的に参加することになりました。

この夏祭りには、五〇年前から郡上おどり保存会のメンバーに来てもらっており、お囃子に合わせて患者、職員、地域の人たちが一緒に、全国的にも有名な伝統の郡上おどりを踊っています。当クラブの会員も浴衣に着替えて参加し、踊りの輪に加わりました。会員はみんな地元の出身者で、子どもの頃から踊り慣れている者ばかりなので、見事な踊りを披露しました。また参加者へのお茶のサービスも行いました。

一時間たつぷり踊って気持ちのいい汗をかきました。また、精神障がい者の皆さんとじかに触れ合うことができ、大変よい経験をさせていただきました。

ROTARY

文章編

AT WORK

ロータリークラブと地区の活動を紹介、600字以内。字数を超える場合など、編集させていただきます。関連写真があれば添付してください。



平和を願って展示された影絵の数々

広島から平和を発信 小さな祈りの影絵展を支援

広島北ロータリークラブ
第二七〇地区・広島県

「ヒロシマ小さな祈りの影絵展」は、広島市出身で、日本映画の美術監督・

部谷京子氏らによる「小さな祈りの影絵展実行委員会」が始めた展覧会です。二〇〇五年、終戦六〇年の年にスタートし、以降、毎年八月五〜六日に広島平和記念公園の入り口、原爆ドーム近くの元安橋のもとで野外展示を行っています。現在は地元の中高校生、大学生を中心に運営されており、当クラブでは青少年の活動支援を目的に、二〇一三―一四年度から協力支援を続けています。

広島にアメリカのバラク・オバマ大統領が訪問するという歴史的な年となった今年のテーマは「つなぐ」。影絵で、何気ない日常や身近な風景を描き、公園を訪れる人たちに、平和を感じ取ってほしいという思いが込められていました。当クラブはこれからも、こうした青少年の活動を支援していきたいと考えています。ぜひ八月五〜六日に広島を訪れてみてください。

(島本章生・記)

第五〇回 地区I-A年次大会に学ぶ

第二五七〇地区

埼玉県

七月三十一日、狭山ヶ丘高校で第五〇回の当地区インターアクト年次大会が



若者の意見で大いに盛り上がった年次大会

開かれました。地区内七校のインターアクトクラブ（IAC）から八〇人、前嶋修身ガバナールはじめ地区内会員三五人が集い、盛大に開催されました。テーマは「戦後七〇年を迎え改めて戦争のない時代を構築する パートII」。これは二月一日に同じテーマでインターアクト次期指導者講習会が開かれ大反響を呼んだことを受け、二回目の開催となったものです。六グループに分かれ、①難民、②戦争、③核について取り上げ、どうして難民が生まれたのか、どうして戦争が起きたのかなどを考え、ポツダム宣言の内容にまで及びました。「僕たちはもともと深く勉強し、調査しなければ意見は言えない」「大人たちが本当のことを教えてくれないと、意見を持てない」「戦争の経験者から話を聞きたい」など、凛とした発言には驚かされました。

戦争経験者である和光ロータリークラブの野々下省三会員への事前インタビューや、野々下会員がシベリアでの抑留生活を記した『温故両論』を資料として、戦争のない時代を構築するための議論もなされました。

生と死の間をさまよい生き抜いた野々下会員の経験から、戦争は人間が人間でなくなることを知り、戦争は誰もが望んでいないこと、絶対にあってはならないことを、あらためて誓いました。パートIIIでは海外のインターアクトを交えて討論できた、きつと戦争のない時代を構築する道が、より見えてくるのではないだろうか。私たち会員にとっても勉強になりました。

(和光RC 加藤洋子・記)

隅田川花火観賞会開催

東京荒川ロータリークラブ

第二五八〇地区・東京都

私たちのクラブでは七月三〇日、全国的にも有名な隅田川花火大会を観賞しながらの暑気払いの会（焼き肉パーティー）を開催しました。当日は晴天で風も適度にあり、花火観賞にはもつ

ROTARY AT WORK



若者バンドにステージを

〈東京調布むらさきRC〉

調布市せんがわ劇場で、青少年奉仕委員会とバンド同好会を中心に「第5回むらさきロックフェスティバル」を開催。中高生バンドに設備の整ったステージを用意し、プロの音楽家に審査・講評してもらったことで彼らに成長してもらいたい、との趣旨で行っている。各バンドとも若者らしく日ごろの練習成果を存分に発揮し、同好の仲間との友好を深めていた。

(7月31日 第2750地区 東京都)

ROTARY AT WORK



ライオンズクラブと慈善ダンスパーティー

〈真庭RC〉

真庭RCと真庭ライオンズクラブ共催の第8回チャリティーダンスパーティーを開催。毎年評判が高く、真庭市、津山市、岡山市、さらに岡山県外からも参加者が集まり年々増加、楽しく華麗なる夢の3時間を過ごしている。

(6月25日 第2690地区 岡山県)

ROTARY AT WORK



国名勝・宗隣寺庭園で大掃除

〈宇部西RC〉

会員、宇部フロンティア大学付属香川高校のインターアクターほか学校関係者90人が参加し「第42回国名勝・宗隣寺庭園池ざらい大掃除」を実施。途中で霧雨が降ったものの、予定より2時間も早く終わらせることができた。クラブでは参加した生徒に、自分たちの奉仕活動が人に喜ばれることに誇りを持つてほしい、と願っている。

(7月10日 第2710地区 山口県)



第1回少年野球大会

〈桶川RC〉

新事業「第1回桶川RCわんぱく少年野球大会」を開催。桶川市と近隣市町から16のクラブチーム、小学4年生以下の児童が濃紺の大優勝旗を目指し熱戦を繰り広げた。事前に協力を呼びかけたベクトルキャップの回収も大量の協力を得た。夏の暑い日差しの下、子どもたちの懸命なプレーと笑顔に、会員の苦勞も吹き飛んだ。

(7月30日 第2770地区 埼玉県)

ロータリークラブ奉仕活動をカラー写真で紹介。写真と150字程度の説明文。字数を超える場合は編集させていただきます。必ず活動日を入れてください。記念写真(集合写真)は掲載できません。

ROTARY AT WORK

ROTARY AT WORK



**寄贈した桜のメンテナンス
10年継続** 〈東松山むさしRC〉
東松山市の駒形公園に、クラブ創立10周年時に桜を100本、20周年時にベンチ7台を寄贈。以来、10年以上にわたり、年2回の草刈りを継続して行い、地区補助金を活用して草刈機の燃料代などの援助も続けている。地域のハートピアまちづくり協議会や区長会のメンバーと、7、8月を中心に、約1時間の作業を実施している。
(7月10日 第2570地区 埼玉県)

ROTARY AT WORK



猛暑下、金峯山参道を整備 〈鶴岡RC〉
金峯山参道の補修と清掃を実施。3年計画の最終年となる。観光都市を目指す鶴岡市にとり金峯山参道の早い整備が課題になっていたことから行ってきた。梅雨明け直後の猛暑の中、13人が汗を拭きつつ作業。登山者から感謝の言葉をかけられ、会員は有意義な活動と実感した。終了後の昼食会では藤川享胤PGのアイスの差し入れで暑さを忘れ、充実の一日を振り返った。
(7月31日 第2800地区 山形県)

ROTARY AT WORK

ROTARY AT WORK

薬物乱用防止キャンペーン 〈高槻RC〉
阪急電鉄高槻市駅前高架下広場で、薬物乱用防止啓発ビデオの上映と、違法薬物の標本展示を実施。地元の警察や行政関係、高槻市保健所、高槻まつり実行委員会、大阪府自動車整備振興会高槻・三島地区会ほか関係団体の協力を得た。会員は街頭でリーフレットと啓発用傷ばんそうこうを配布し、通行人に薬物乱用の恐ろしさを訴えた。
(8月6、7日 第2660地区 大阪府)



ROTARY AT WORK



地域の祭りで復興支援募金活動 〈川崎高津RC〉
高津区民祭で、熊本・大分地震の復興支援募金活動を実施。会員が提供した品によるバザー、果物販売、募金協力者へのかき氷サービスを行った。売り上げの合計金額は36万5853円となり、全額を被災地に寄付した。
(7月31日 第2590地区 神奈川県)

ROTARY AT WORK



第36回中学生野球大会

〈白根RC〉

創立54年を迎えるクラブでは、青少年奉仕委員会のメイン事業として、第36回白根RC杯中中学生野球大会を開催。7中学校から約80人が参加、合同チームを含む5チームがトーナメント方式で争った。3年生が引退し、1・2年生の新チームになって初めての大会。酷暑の中、元気いっぱいプレーが見られた。運営には白根RACや地域住民の協力を得た。

新潟県

(8月7日 第2560地区

ROTARY AT WORK

ROTARY AT WORK

親子で自然と触れ合い体験

〈旭川モーニングRC〉

ロータリー財団100周年を記念し、社会奉仕事業を実施。地域の人々と一緒に河川周辺のごみ拾いを行うなど環境問題に取り組んだ。またヤマメ2000匹の放流体験やバーベキューなどを行った。あいにくの雨だったが、親子80人が参加し、子どもたちは歓声を上げながら楽しんでいた。

北海道

(8月20日 第2500地区



地引き網で親睦

〈八日市南RC〉

琵琶湖に浮かぶ唯一、人の住む島・沖島への小旅行を実施。総勢60人(うち子ども17人)で早朝バスで琵琶湖畔へ出発、船で沖島に渡り、歩いて約20分、地引き網の浜へ。初めての体験で目を輝かせた子どもたちに、会員も加わり「ヨイショ! ヨイショ!」大漁。大きなコイも取れた。コイは洗いにし、琵琶湖産の淡水魚を使った沖島弁当とともに舌鼓。親睦を通じ皆の一体感が強まった。

滋賀県

(7月27日 第2650地区

ROTARY AT WORK



被災者支援で映画試写会を開催

〈熊本東南RC〉

熊本・大分地震復興支援プロジェクトとして、被災者を対象に、俳優・高倉健のドキュメンタリー映画「健さん」の試写会を開催。40年間、高倉健の付き人を務めた西村泰治氏とその友人の小川輝明氏(ともに京都市在住)の協力で実現したもので、被災した人々に少しでも元気になってもらいたいと、全国封切り前に開催した。

熊本

(8月10日 第2720地区 熊

ROTARY AT WORK

ROTARY AT WORK



大盛況の納涼家族会
 〈函館RC〉
 函館のベイエリア「みなとの森」で、恒例の納涼家族会を開催。あいにくの空模様で店内でのパーティーとなったが、会員・家族総勢86人が参加。親睦活動委員会が中心となり、豪華海鮮バーベキュー、函館が生んだバンド「ひのき屋」の演奏などで大盛り上がり。最後は「手に手つないで」で楽しい夏の夜を締めくくった。
 (7月28日 第2510地区 北海道)

ROTARY AT WORK



平和記念式典参加者へのおもてなし
 〈広島中央RC〉
 照りつける日差しの下、広島平和記念公園で平和記念式典(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)が執り行われ、国内外から多くの人々が参列した。クラブでは参列者へのおもてなしとして、原爆ドームを対岸に臨む本川公園に休憩場所を設け、冷たい麦茶とかき氷を提供した。今年もひとときの涼を届けられたのではと考えている。
 (8月6日 第2710地区 広島県)

ROTARY AT WORK

ROTARY AT WORK

第50回IA年次大会
 〈第2790地区〉
 清和大学で「繋(つな)がる」を広げる・深める・結ぶ」をテーマに「第50回インターアクト年次大会」を開催。年次代表校の木更津総合高等学校和太鼓部の記念演奏、NPO法人COMONBITによる東日本大震災をテーマにしたトークセッション、体を使ったワークショップなどを行い、80人のインターアクトが人とのつながりの重要性を感じる場となった。
 (8月3日 千葉県)



ROTARY AT WORK

第20回、節目の野球大会
 〈福島西RC〉

節目となる第20回福島西RC杯少年野球大会記念大会を、地区補助金を活用し開催。福島市内19の中学校から310人が参加。参加校の吹奏楽部員約70人の協力を得て入場行進を行い、県北第一分区ガバナー補佐の始球式で盛り上がった。会員もグラウンド整備やボールボーイ、スコアボードの記録などを務め、生徒と一緒に心地よい汗をかけた。
 (8月10、12、15、16日 第2530地区 福島県)





ロータリー アットワーク

ROTARY AT WORK 写真編

森で学んだ地球の歴史

逗子ロータリークラブ
第2780地区 神奈川県

「地元の子もたちに、手つかずの自然を体感しながら、地球環境を守る大切さを学んでほしい」。そんな思いを込め、8月19日に地区補助金を活用し、クラブ創立55周年記念事業（逗子市共催）として自然教室「池子の森から地球の道へ」を、池子の森自然公園で開催した。

池子の森は、逗子市池子地区の緑豊かな山あいであり、旧日本海軍が海軍用地として買収し、戦後は米軍が接収したもので、市民が長期にわたり返還を求めてきた歴史的経緯のある土地だ。過去70年もの間、一般の立ち入りが禁止され、開発の手が及ばなかったため外来種の侵入を免れ、絶滅危惧種が多く発見され、かつての日本の自然がそのまま残されている。

この貴重な自然を舞台に、脚本家・倉本聰氏が主宰する「富良野自然塾」の中島吾郎氏らを自然インストラクターとして招き、公募した小学生71人を対象に、自然に親しむ3つのプログラムを実施。「地球の道プログラム」では、地球の誕生からの46億年を460mに置き換え、森の中を歩きながら、地球の壮大な歴史をたどり、「地球は子孫から借りている宝物。みんなで大切にしてほしい」と訴えた。さらに、木々に目玉シールを貼って表情を作りながら「自然のなぜ？」を観察する「自然観察プログラム」、段ボール製の小鉢に絵やメッセージを書き入れ、富良野で苗木を植えて森を造る「工作プログラム」の体験も。

子どもたちが豊かな池子の森に触れる貴重な一日となった。この体験を生かし、自然の恵みや環境保全を大切にする気持ちを周囲に伝えてもらえればと思う。地元紙に掲載され、ロータリーの公共イメージ向上にも貢献した。（宝子山泰久・記）

今日のこと明日は思い出遠花火

大阪・堺フェニックス

米田眞理子

夏風邪や妻に甘へて桃を喰ふ

埼玉・川口中央

高橋也寸遠

炎天を戻りて誰ももの言はず

千葉・富津中央

三枝かずを

蜂蜜にレモンを漬けて逝った妻

千葉・市川

照井 親資

目覚めれば米原近き青田かな

奈良

寺田眞佐子

櫓を休め浮巢の脇をすべり過ぐ

兵庫・神戸西

村野 利昭

雷の鳴らずば淋し空仰ぐ

兵庫・神戸西

小松原景久

雨去りて雷去りて山静か

兵庫・神戸西

飯田美奈子

青春のルビに出会ひし曝書かな

徳島・脇町

片山 良樹

炎天や影ある場所が路となり

香川・高松

大平 昇

新涼の警策快くひびく

福岡城南

吉武 草徑

墓参り業者まかせの親不孝

大分中央

岩男 好員

ひぐらしや東向きなる家二軒

埼玉・日高

落合 好雄

雨止みて復習ひの笛か夏祭

埼玉・日高

松本 恭三

藤寝椅子夫ウトくと気持よく

奈良

吉田 佳代

轟音の響きて落つる滝飛沫
若葉風吹く袋田の滝

長野・佐久コスモス

中澤 道保

誠実に生きよと父がつけし名か
誠邦と云う我名思えば

埼玉・行田さくら

小澤 誠邦

嫁せし子が時に持て来る亡き妻の
味そのものの煮物うれしも

千葉・市川

照井 親資

とうもろこしの実を外しつと思ふなり
種なる物の数の多さを

千葉・富里

寒郡 政雄

芦崎寺の霽れて人無き別宮を
おろがみ向ふ立山の峰

東京ワセタ

福地桂之助

メールより葉書が好きと言う我に
律儀な嫁は筆まめとなる

愛知・碧南

杉浦 保子

飼猫は足許に来て寝入りけり
眞闇の中に軽く寝息す

岐阜長良川

井戸 豊彦

新盆にちちの畑のひまわりを
大きすぎるかと問いつつ供う

京都・宇治鳳凰

清水美榮子

コンサートマスター座れば座員ひきしまり
笑顔振りまき指揮者あらはる

奈良

寺田眞佐子

東雲のしとねの中に子らの顔
そつと見つめて温もるころ

和歌山・田辺

山路 守

仰向けになりて鳴きたるペランダの
蟬を起こせば空へまっしぐら

香川・高松

平峯 千春

夢叶ふ甲子園への夢叶ふ
母校の快挙に歓声上げぬ

島根・出雲南

小村 尚子

定年へ首輪の鍵を渡される

青森・五所川原中央

小野 順蔵

道化師の顔に見えます時計草

京都・宇治鳳凰

辻 幸男

杯の呻きか断酒促す血糖値

高知西

山岡 陸宏

来年こそ出るぞステイジオークストラ

東京日本橋東

井口 弘子

ケースバイケースで違う水の音

鳥取・倉吉中央

牧野 芳光

日が経って今来て欲しい見舞客

千葉・市川

照井 親資

病窓に飛び込む星が点滴に

愛知・豊橋南

富安 美孝

血圧も猛暑に負けて正常値

神奈川・横浜旭

吉原 則光

コースから外れたタブー楽しそう

大阪東淀ちゃやまち

小坂 克彦

ナデシコは国花 都は百合の花

群馬・伊勢崎

秋山 春海

たまには何か楽しい一人酒

長野・辰野

伊藤 隆一

動かせる喜びあつた病み上がり

兵庫・神戸中

吉井 邦弘

代議士に資格試験など如何

埼玉・行田さくら

小澤 誠邦

夢の中キラキラ星をワシ掴み

長崎・諫早

下釜 貞志

古稀近し今更いいわアモーレなど

京都・宇治鳳凰

清水美榮子

投稿規定 ◇雑詠 ◇クラブ会員、家族 ◇一か月に葉書一人
一枚に三句まで ◇締切日 二〇日必着 ◇葉書ウラにもクラ
ブ名・氏名、電話明記 ◇楷書で明確に ◇『友』俳壇係宛

投稿規定 ◇雑詠 ◇クラブ会員、家族 ◇一か月に葉書一人
一枚に三句まで ◇締切日 二〇日必着 ◇葉書ウラにもクラ
ブ名・氏名、電話明記 ◇楷書で明確に ◇『友』歌壇係宛

投稿規定 ◇雑詠 ◇クラブ会員、家族 ◇一か月に葉書一人
一枚に三句まで ◇締切日 二〇日必着 ◇葉書ウラにもクラ
ブ名・氏名、電話明記 ◇楷書で明確に ◇『友』俳壇係宛



長谷川 權



玉蜀黍ふたつに折れば湯気ふたつ

千葉・富里 寒郡 政雄

湯気に一つも二つもないはずだが、二つになったという発想がおもしろい。二つに割ったどちらも自分で食べていいが、二人で食べたときみれば世界が広がる。

山椒魚黄泉の番するかに潜む

大阪北 三宅 侃

黄泉（よみ）は死者の国。その番人でもあるかのように山椒魚（さんしょううお）が水中に潜んでいる。そういわれてみれば、あの風貌はいかにそんな感じのする生き物である。

踏みて行くわが影一つ町残暑

東京西南 菊池 恭三

誰にでも自分の影がある。そして立っていれば、必ず影を踏んでいるわけだ。その影を踏んで歩いてゆくというところに残暑のぐったり感も出ている。

踏切や練馬の暑き日の始め

東京ワセタ 福地桂之助

カンカンと鳴りつづける踏切。急（せ）かせるようなその音に「今日も暑くなるぞ」と覚悟したのだろう。練馬は東京の住宅地。「練馬の暑き日」の実感あり。

朴訥と若き語り部広島忌

愛知・名古屋北 吉田 正克

被爆も戦争も経験していない「若き語り部」。被爆者に聞いたことや自分で調べたことを語っているのだろう。戦争の悲惨はこのようにして若い世代に受け継がれてゆく。



馬場あき子



餌を拾う一羽の鳥は雨の中
言葉を探す我そこにあり

愛知・豊橋 長屋 孝美

餌を拾う鳥は何鳥を考えてもいいだろう。その切々とした姿からは小型の鳥が充分想像できる。その餌えの切実さに、作者は精神の餌えを充（み）たそうとして、表現の言葉を求める自らの姿を重ねている。上旬の現実の光景はよく見る光景だが、そこから自分の内面へと思いを馳せるところがすばらしい。「言葉を探す我そこにあり」の下句も決然と言っている力があつて強く、その時の求めの心を感じさせる。

夕暮に日傘くるりとたたむがに
ぼつりと落ちぬ白き木樨は

茨城・古河東 小山 幸子

木樨（ムクゲ）は「道のべの木樨は馬にくはれけり」の芭蕉の句もあり、目近かな夏から秋へかけての花だ。ここでは白いムクゲなので涼しげな感じがある。花を日傘にたとえ、凋（しぼ）んだかたちを「くるりと日傘たたむ」ようだとなえている。実感があつて面白い。そんな花が枝を離れる様子を「ぼつり」と擬態語で表したのもよい。「くるり」「ぼつり」と一首の中に二つも擬態語があるが煩（わずら）わしくはなく、感性的に情態がよく伝わる。

盃に夢や希望をつぎたして
若きらと飲む酒のうまさよ

秋田・能代 成田 繁穂



てじま晩秋



手作りの赤いダイヤはミニトマト

埼玉・入間南 萩野 静次

「この暑さの中、水をやり、肥料を撒き、雑草抜きですか。冬は冬で寒いし、家庭菜園は大変」とおっしゃる方々も。ですが、この作品は真に生き生きとして、爽快感を覚えました。

世が世なら大坂城は僕の家

大阪・堺清陵 物種 唯修

これはまたスケールの大きな作品ですね。物種さん、世が世なら太閤さまですか。こうして大阪の人の作品ゆえ妙に納得できてしまいます。まさに「人生いろいろ」ですね。

ポケモンGOやつてる人がモンスター

香川・高松 大平 昇

歩きスマホ・車スマホ……立ち入り禁止場所への侵入。先ごろ、米国テレビ局で、ニュース放映中の男性アナの目をスマホ片手の女性職員が堂々と通り抜けた場面には唖然（あぜん）でした。遠くなる昭和音にまあい献

富山・射水 江守 正

昭和——すっかり懐かしいフレーズになってしまいました。暖簾（のれん）横丁の「立ち呑み店」で同輩方々との乾杯も味がありました。この開放感、明日への活力は、残したいですね。

真っ赤かなトンボを連れて来た手紙

大阪西 鴨谷瑠美子

消化器疾患ではない 腹痛症について

青山内科 院長 青山 圭一

「腹痛」で始まる病気は食中毒などの急性胃腸炎から胃・十二指腸潰瘍や虫垂炎、胆石発作、消化器のがんなどさまざまです。しかし、時に「腹痛」が主訴でも消化器以外の病気であることがあります。患者も医者も、消化器の病気と決めつけていると、正しい診断がつくのが遅れたり、誤診につながることもあります。例えば、

- ①「へその横の痛みで眠れなかった。おなかを壊したのかもしれないが、排便してもジクジクした痛みは変わらない」と受診した胆石持ちの患者さん。医者による触診で腹部は異常なく、白血球数も正常で、腹部超音波検査でも胆石発作の所見なし。背中に赤い発疹のようなものが数個ありました。が、「二〜三日前から多忙で腰が痛くて湿布をしたらかぶれた」とのこと、整腸剤で様子を見ることになりました。三日後に右の背中からへその横にかけて水疱や赤い発疹が帯状に広がった状態で病院を訪れ、帯状疱疹であることがわかりました。
- ②「二日前の夜から上腹部痛が続いている

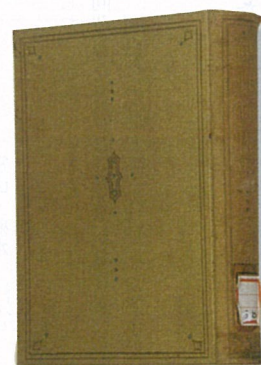
ため胃カメラを撮ってほしい」と受診した高血圧と狭心症で治療中の患者さん。「その夜に痛みが最も強かったが、今もジクジクした痛みがある。痛くなつてから腹部膨満感があつて排便がない」。医者が腹部を触診すると、拍動性の腫瘍（こぶ）があり、超音波検査で腹部大動脈瘤と確認。大動脈壁が二重に見え解離も伴っており、すぐに救急車で総合病院に搬送されました。

前記のほかにも多い病気は尿路結石です。腎臓は背中側にあるため、腹痛が始まっても左右どちらかの腰の痛みが主になつてくることが多くあります。

最も気を付けるべきことは、心筋梗塞や大動脈瘤、大動脈解離を見逃さないようにということです。みぞおちの痛みが持続していて、動脈硬化が進みやすい生活習慣病を持っていれば、四〇〜五〇歳代でもまず心電図検査や腹部超音波検査を受けるようにし、また、少しでも疑わしければ、総合病院へ紹介してもらうようにしましょう。

もう一つ大切なのは、「夜中に腹痛で目が覚めて眠れなければ、何か重い病気がある可能性が高い」ということです。そのような場合は、朝まで我慢せずにすぐに公的基幹病院の救急を受診しましょう。

（第二六一〇地区・富山県魚津R.Cにて・同R.C会員）



『銀行行餘録』表紙

支配と自家の立場とが各人の職業と相關して、其因果の偶然なるが如きものあり……」などと記され、自叙伝の一部ともなっています。書きためた随想などに後から書いたものを加えて、紀行文あり、人物論ありのかなり大きな一冊となっています。

この中には有名な「新隠居論」も入っています。一旦名を成した男子はすべからく早めの後進に道を譲り、社会事業に貢献すべしという内容で、当時とすればかなり革新的な考え方の披露でした。米山は信託会社を辞して後は三井報恩会理事長として、自らがこの新隠居論を実践していくことになりました。

公益財団法人
米山梅吉記念館

【開館時間】午前10時〜午後4時
【休館日】月曜日
12月28日〜1月4日
整理のための休館日
(5月、8月の特定日)

〒411-0941
静岡県駿東郡長泉町上土狩 346-1
TEL 055-986-2946
FAX 055-989-5101
Email yumh@ai.tnc.ne.jp



卓話



■「卓話の泉」は、クラブの会報、週報に掲載の卓話の中から、客観的内容の話題、ミニ知識となるものを主に選んで要約、掲載しています。

日本DMATの活動

南和歌山医療センター院長 中井 國雄

二〇〇五年に厚生労働省主導で「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」として日本DMAT (Disaster Medical Assistance Team) が組織されました。災害発生時の直後に活動本部を立ち上げ、被災地への支援を行います。全国の各災害拠点病院などには五〜六人からなるDMATチームが一〜二チームつくられています。二〇一五年三月の段階で全国に一四二六隊、九三二八人が登録されており、それぞれ定期的に集められて訓練を行い、災害に備えています。DMATの詳細な活動内容や方法は、当

初一九九五年の阪神・淡路大震災の経験をもとに作成され、その後改定が加えられてきました。東日本大震災での活動教訓として、災害情報は能動的に集めなければ入手できない

- ・人が集まれば必ず医療需要が存在する
- ・便りのないのは悪い便りの可能性大
- ・医療支援の地理的偏在
- ・災害が甚大であればあるほど、通常の地域の医療機関の機能が回復するまでに長時間を要する
- ・などが挙げられました。

これを受けて二〇一二年三月に「災害の規模に応じて、DMATの活動が長期間（一週間など）に及ぶ場合には、DMAT二次隊、三次隊等の追加派遣で対応することを考慮する」ことが活動要領に追加され、各都道府県に被災地域の情報統合の支援を行う統括DMATを設置しました。その結果まだ十分とは言えないものの過不足の少ない医療支援を供給することができるようになり、二〇一六年四月の熊本地震では、より効果的な医療支援が行われました。

地震、津波に耐えられるハードづくり、被災した際の体制づくりなどをあらためて意識し、定期的な災害対応訓練が重要です。

(第二六四〇地区・和歌山県・有田RCにて)

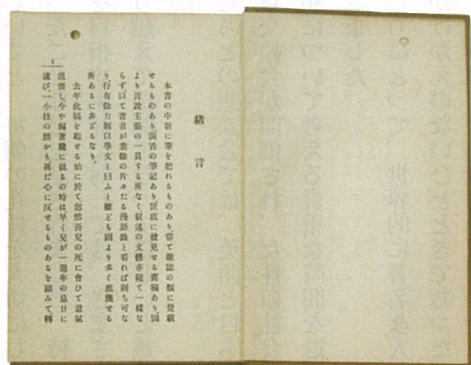
米山梅吉没後七〇年シリーズ

米山梅吉の二冊

銀行行餘録

本文四〇六ページ、昭和二年九月発行
定価二円五〇銭

米山梅吉は明治三〇（一八九七）年から大正一三（一九二四）年までの二七年間、三井銀行でとんとん拍子に出世しました。そして大正一三年、三井信託株式会社を創立、社長に就任して、以後六六歳まで一〇年間、同信託の社長でした。この『銀行行餘録』は銀行時代の回顧録で、「著者と実業界」の文章では実業界に入った動機や経緯が書かれ、「明治三十年以来銀行の業務に従うこと二十七星霜、而して尚ほ其關係を維持して在り。時勢の風潮と運命の



『銀行行餘録』

アケビは、果肉を食べるのが一般的ですが、こちらでは果肉を使わず、中に甘めの肉味噌と季節のキノコやシソの実、クルミなどを入れ、油で揚げて食します。アケビのほろ苦さと田舎味噌の甘味がなんともいえず、里山の素朴な味わいとなります。



大村 安広 (山形県・白鷹RC)

わがまちの味 白鷹 アケビの味噌揚げ

て以来、私の中に「腰骨を立てよう」という思いが宿っています。

私はたまたまロータリーに入りました。偶然とも言えます。私のでたらめな選択、と言えなくもありません。しかし、そのでたらめな選択を、先述のような経験を通して、「私はロータリーと出合っただけでよかった」と言えるようにしていくことがとても大切だと思います。偶然の出合いを必然にする、と言い換えてもいいと思います。

こんなふうに考えると、ロータリーに限らず、私の人生の中である瞬間に最も深い影響を与える出来事というのは、真に人生の根幹を成すものだけではなくて、でたらめな選択を通して偶

然起こる出来事だと言えるのかもしれませんが。その出合いがいつ起こるのかは、私たちには決してわかりません。何がきっかけとなってくれるのかは常に神秘のベールに包まれています。だからこそ、まずは出席。それこそがロータリーと思います。

(第二八四〇地区 群馬県 不動産賃貸管理)

シュバイツァー博士の 遺したもの

静岡 吉田 幸一

静岡英和女学院は、一八八七(明治二〇)年、静岡県で最初の女学校として開校し、初代校長には、カナダメソジスト教会から派遣された宣教師のM・Jカニングハム先生が就任。一九三七(昭和一二)年に来校したヘレン・ケラー氏をはじめ、著名人も数多く訪れています。

学校は、徳川家康が終の棲家とした静岡市葵区の駿府城址近隣に位置し、二〇一七年には建学一三〇周年を迎えます。一万五〇〇〇人を超える卒業生は、日本だけでなく世界中で活躍し、歴史と伝統ある女子教育の先駆的な学校として今日に至っています。

昨年の秋、クリスティアーネ・エンゲル・シュバイツァー氏が来校し、全生徒の前に、祖父のアルベルト・シュバイツァー博士が遺したもののや、医療と平和などについて講演されました。特に自身が音楽家であり医師でもあることから、挫折せず目標に向かってしっかりと学び続けてほしいこと、音楽や美術など芸術にも親し

んでほしいこと、毎朝の礼拝を大切にしていってほしいことなどを話されました。特に、医学の道を目指す生徒に対しては、さまざまな苦難を乗り越えて医師になってほしいと熱く語られました。

生徒たちとの懇談会では、英語と日本語を交えた意見交換会が開催され、女性の社会貢献と世界平和について考える貴重な時間を過ごすことができました。

生徒たちにとって、世界的に著名な人との出会いはかけがえないひとときであったことでしょう。今後、自らの進むべき道を切り開いていく際に、シュバイツァー氏の言葉を思い出し、してくれるとよいと思っています。

一三〇年近く毎朝の礼拝を欠かしたことがない本校にとって、シュバイツァー氏の来校は神からの賜物と感謝しています。

(第二八二〇地区 静岡県 私立学校)



シュバイツァー氏と執筆者

盛大なパーティーのような例会が開催されました。そこでは、双方の会長からあいさつがあり、森会長の堂々とした姿に感銘を受けました。台湾の文化にたっぷり浸った充実した時間を過ごせたと思います。

二日間の交流を通して、台湾の皆さんの朗らかさにすっかり魅了され、食文化や歴史の名残を感じる町並みにも魅せられました。鹿児島から直行便でおよそ二時間。東京へ行くのとは同じくらいのフライトです。鹿児島は九州の南の端。南の玄関口ですから、さらなる台湾との交流を盛んに行う意義は大きいと感じました。当クラブがその一端を担う役割を果たせると思いますし、今後の展開に期待したいと思っています。

(第二七三〇地区 鹿児島県 児童書専門店)

インダクションに参加して

神戸東 山野 真

外国のロータリークラブでは、七月八月にかけてインダクションと呼ばれる新年度の会長をはじめ役員の就任式が、国内外の姉妹クラブなど関係者を招いて開かれます。男性はタキシードを着用し、カップルで出席し、盛大に行われます。

今回、フィリピンのマカティ・ロータリークラブ(RC、会員数二四〇人)とその子クラブのマカティウエストRC(二〇五人)のインダクションに招かれて、出席してきました。六



厳かな雰囲気インダクションの後は華やかなパーティーに

月末から七月二日までフィリピンに滞在していたのですが、ちょうど七月二日と九日にあり、日程がうまく合ったのでゆつくり交流を深めることができました。

七月二日にマカティ市内のホテルで、マカティRCのインダクションが行われ、三四〇人の参加のもと、午後七時から始まりました。会長をはじめとするそれぞれの部門の委員長が時間をかけて熱心に新年度の事業計画などを発表、その意欲の表れに深く感動しました。

翌週の九日には、マカティウエストRCのインダクションが行われました。マカティウエストRCはマカティRCを親クラブとして誕生したクラブで、約三〇年前から、私が所属する神戸東RCの姉妹クラブとして親しく交流を深めてきたクラブです。二八〇人の参加のもと、マカティRC同様、盛大かつ厳肅な式典で、執行部が新年度からのロータリー活動に対する方

針を表明する姿に、強い息吹を感じました。

(第二六八〇地区 兵庫県 貿易商社)

出席こそロータリー

前橋東 馬場 誠

私は今年度、出席委員長です。「出席こそロータリー」。このフレーズはロータリアンに膾炙(かいしや)していると思います。なぜ、そうなのでしょう。それは、そこに出会いがあるからだだと思います。

「僕は君を応援する」。先日の例会で、ある先輩からこう言われました。私はうれしかった。一二〇割充実した気分になりました。心を揺さぶられるような出会い、と言っていると思います。

「腰骨を立てよう」。これは例会で配られた小冊子『拔萃(はつさい)のつづり その七十五』に掲載されていた横田南嶺氏(臨済宗円覚寺派管長)の文章です。

腰骨を立てているとどんな良いことがあるかという、やる気が起こる、集中力が出る、持続力がつくなど、いいことづくめなのだそうです。哲学者・森信三氏の言葉を引用し、「常に腰骨をシャンと立てること、これ性根の入った人間になる極秘伝なり」「腰骨を立てることはエネルギーの不尽の源泉を貯えることである。この一事をわが子にしつけ得たら、親としてわが子への最大の贈り物といってよい」とあります。心を揺さぶられます。この言葉に出合っ



子どもたちの笑顔に、胸が熱くなりました

年後の二〇一二年、約束通りポーサテッドナコンシーRCの会長に就任し、金沢へ。そこから金沢RCとの協同事業を模索する。

二〇一四年にはマンダローブ植樹事業を実施した。そして今年六月には、当クラブから総勢一七人で浄水器設置プロジェクトのため、タイのナコンシータマラートに向かった。バンコクから飛行機で南に約一時間、空港でポーサテッドナコンシーRCの皆と合流し、パトカーの先導によるバス移動で、五つの小学校での浄水器の贈呈式に参加した。現地では水道水をそのまま飲むことができず、ペットボトルに入れた水を購入しなくてはならない。浄水器の設置により、子どもたちは安心しておいしい水を十分に飲むことが可能となる。また、自動販売機を設置し、地域住民が五バツ（約一五円）でポリタンクいっぱいの水を購入できるようにした。この収益はフィルターなどのメンテナンス

費用に充てられ、永続的に使用可能な仕組みである。

各学校では子どもたちや教師、保護者などが贈呈式に参加し、歌あり、踊りあり、食事あり、と盛大なおもてなしを受けた。子どもたちの心の底からの笑顔や、ロータリーの国境を超えた絆や友情にこちらも胸が熱くなる。今後継続的な事業を続けていきたい。

今回は地区で初めてグローバル補助金を利用したクラブの事業であったため、わからないことも多く、先例のある第二八三〇地区（青森県）の関係者、国際ロータリー日本事務局の担当者の方々に多くのご指導をいただき、心から感謝している。

（第二六一〇地区 石川県 コーヒー原料販売）

台湾・台北草山RCを 訪問して

鹿児島サザンウインド 吉田美佐子

今年七月五日、当クラブから森妙子会長、当地区の川原篤雄ガバナノミニーをはじめ二一人が台湾に向けて出発しました。台北草山ロータリークラブ（RC）の創立六周年のお祝い、第七代会長となった王授仕さんの就任第一回例会に出席することが目的でした。

当クラブと台北草山RCは、二〇一五年一〇月二九日に友好クラブの盟約を結びました。盟約を結ぶまでに尽力いただいた台湾の土城RCの洪俊傑さんが、わざわざ空港まで出迎えてくれました。五日は、台北草山RC主催の



ウエルカムパーティーからカラオケ・ダンスパーティーに

ウエルカムパーティー。台北草山RCの皆さんは大変社交的で、特に女性のファッションがとても華やかで美しかったのが印象的でした。料理も予想を超えたおいしさでした。あちこちでお酒を酌み交わしながら会話が弾む様子が見られ、カラオケが始まるとフロアはさながらダンスパーティー会場に。日本語の演歌もとても上手で驚きました。同じアジア人でありながら、台湾の人たちは開放的で友好的な人が多く、日本人はファッションも地味だなあとつくづく感じたものです。

翌六日は合同例会。日中はそれぞれ自由行動を楽しみました。洪さんにおいしいレストランやお茶の卸元などを案内していただいたおかげで、私と数人は台湾の食文化に触れ、お茶の文化に感動しました。夜は合同例会に出席しましたが、創立六周年のお祝いもあつてか、台北草山RC以外のクラブからも参加があり、大変



これまでに多くのことを教えてくださった高橋さんに感謝

高橋会員は囲碁の名人で、ロータリーの囲碁大会にも参加して上位入賞。クラブ内にもお弟子さんがいるほどです。欧州にいるお友達とパソコンで碁の対局をしていらつしやいました。耳が遠いことと足が弱くなったこと以外は、問題なく例会に出席されていました。

そんな高橋会員ですが、一年ほど前から欠席が続き、今年六月末で退会されることになりました。

七月六日、新年度の第一回例会には、ゲストとして車椅子で出席しました。誕生日の花束を贈られ、クラブの会員に元氣な声であいさつ。その後、全会員のスタンディングオベーションで見送られて会場を出ていく姿は実に感動的でした。

「高齢のため、なんの役にも立てませんが、健康に留意し一年頑張つて来年の誕生日を迎えられるようにします」

毎年のお決まりのあいさつが耳に残ります。「なんの役にも立てない」など、とてもありません。後から続くわれわれに、その背中を見せてくださいます。

(第二七八〇地区 神奈川県 新聞発行)

あゝ上野駅

東京本郷 深澤 壽一

「どこかに故郷の香りをのせて入る列車のなつかしさ……」。皆さん一度は耳にしたことがあると思います。「あゝ上野駅」は、一九六四(昭和三九)年、歌手・井沢八郎が歌った曲で、集団就職で上京した人々の応援歌として全国的に有名になりました。

二〇〇三年七月六日、私が総括責任者を務める歌碑設立委員会で、上野駅不忍口の広場に、JR東日本の多大な協力を得て、歌碑を建てることができました。

歌碑を建てた当時から、私は全国各地にも、ロータリアンで集団就職した経験のある人がいると信じていました。あの厳しい試験を乗り越え、立派に活躍されているロータリアンに会い、お話を聞きたいと思っていました。

ロータリー活動は実践の積み重ねですが、ただ歌碑をつくれればよい、ということではなく、自己研鑽(けんさん)を続けながらあれこれと手段を求め、時には自らの実績を振り返り、ロータリー活動の基本からずれていないかなど、反省を忘れてはならないと思っています。

わがまちの味

郡山 十六雑穀米のサラダ



福島県産野菜に、シャキシャキなレンコン、雑穀米を合わせたサラダで、あっさりシソ酢で仕上げています。一品で食感、香り、彩りの3つを楽しめる、ちょっぴり欲張りなヘルシーサラダです。

片桐 栄子(福島県・郡山コスモスRC)

ぜひとも集団就職を経験されたロータリアンの皆さまからお話をいただければと思います。お待ちしております。

(第二五八〇地区 東京都 不動産賃貸)

米山奨学生がつなぐ奉仕事業

金沢 水上慎太郎

一九九三〜九五年に金沢ロータリークラブ(RC)がお世話をした、タイからの米山奨学生テムラック・チャオさんは「帰国後は両国の友好に尽力し、いつか自分も母国でロータリークラブの会長になる」と誓った。それから一七

友愛の広場



エッセー、海外のロータリークラブ訪問記、時局雑感など。1,000字以内。関連写真があれば添付してください。

ホーム例会一〇〇〇回 皆勤達成に寄せて

福岡平成 平川 猛展

昨年度の地区大会において、わがクラブの灘谷和徳会員が特別表彰を授与された。その表彰理由となったのは、ホーム例会一〇〇〇回皆勤達成というもの。福岡平成ロータリークラブ(RC)の創立会員として第一例会から約二三年かけて達成した記録である。「例会出席が日常生活のルーティンとなっっているだけのこと」とは本人の弁だが、病氣や旅行、出張が例会出席の障壁となることもあるだけに、並大抵のことではない。入院先の病院から外出許可を得て、介護タクシーで出席したり、海外出張や旅行は仕事先などの協力を得て、例会が休会となる時期に設定するなどの努力があつてのこと。「クラブの例会日が月曜日なので振替休日があること

も幸いした。今となつてはいい思い出になつてゐる」と灘谷会員は語る。

そんな灘谷会員だが、実は昨年の年初例会でハプニングがあつた。てっきり休会と思ひ込み、危うく欠席しそうなつたのだ。例会開始時刻になつても灘谷会員が到着していない。複数の会員や事務局が心配して携帯に連絡を入れ、「例会が始まっていますよ!」。灘谷会員は急いでタクシーに飛び乗り、どうにか遅刻のリスクを前に出席することができた。その際、灘谷会員の顔を見て目頭を熱くして迎えた会員もあり、灘谷会員自身、この記録は会員仲間をはじめ多くの人に支えられて成し得ていることを実感し、感謝の気持ちが込み上げてきたと語つていた。

ところで、例会出席は「義務」なのか?確かに標準ロータリークラブ定款を見れば義務的表現が用いられているし、雑誌購読の義務などと並列的に取り上げられる。しかし、灘谷会員によれば、例会出席は「権利」だという。ロータリーに入会し、それぞれの分野で活躍する会員と毎週顔を合わせて歓談することができる。多種多彩なゲストを招き、刺激的な卓話を聴く



例会 1000 回記念誌の表紙を飾つた
灘谷会員の出席票

機会を得られる。これを「義務」だと感じれば実にもつたない話ではないかというのである。ロータリアンになつたからこそ得られるチャンス。これはまさに「権利」以外の何ものでもない、と思つているとのこと。また、ホーム例会に出席できない時は、他のクラブにメンバーアップに出向くこともできる。欠席は権利放棄ではなからうかと続く。

二〇一六年の規定審議会では、例会や出席に関する制定案が採択された。ほかの事項と同様、歴史的な採択の一つともいえる。例会出席に関するこの記録も、将来は単なる珍記録であつて、レジェンドにもならないかもしれない、と灘谷会員は語るが、一〇〇〇回という偉大な努力の歴史は輝きを失うものではない。

(第二七〇〇地区 福岡県 印刷)

人生の先輩の 背中に学んだこと

厚木中 山本 道子

七三歳でロータリークラブに入会し、例会ではいつも静かに食事をし、あいさつしていた高橋孝太郎会員は、わが厚木中ロータリークラブの最長老。誕生日は一九二三(大正二二)年七月八日。会長からお祝いの花束を受け取つた後の高橋会員の誕生日スピーチが、わがクラブ恒例の年度初めの儀式でした。クラブでは傘寿、米寿、卒寿それぞれのお祝いを用意し、心から高橋会員の長寿を喜びました。米寿の際には金色のちゃんちゃんこ帽子でお祝いをしました。



米子市。米子市美術館前に展示されている。続いて立つた百寿会世話人の産婦人科クリニクス院長・長田昭夫さんは海笛の孫にあたる。海笛の足跡をたどり結城市を訪ね、ゆかりの方と対面

寺町のまちづくりを進める「会長」の肩書もある。船越家はかつて米子の船問屋の総元締めだった旧家である。

歯科医院院長の岡本日出夫さんからは、米子出身の彫刻家・戸田海笛（一八八八～一九三二）の石膏レリーフの大作「喜怒哀楽の図」の米子市里帰りのいきさつを聞いた。海笛は藤田嗣治（二八八六～一九六六）らとパリで活躍し彼の地で客死したが、渡仏前の作品が茨城県結城市の倉庫に埋もれていたことがわかり、岡本さんたち有志が募金集めに奔走して、今年の二月一四～三月一三日、里帰り展を実現させた。そのレリーフを基に新たに横七・二層あるブロンズで鑄造、今年八月末から米子市美術館前に展示されている。

続いて立つた百寿会世話人の産婦人科クリニクス院長・長田昭夫さんは海笛の孫にあたる。海笛の足跡をたどり結城市を訪ね、ゆかりの方と対面

したら、なんと「その方の襟にもロータリーのバッジが光っていた」。

百寿会幹事である鳥取大学名誉教授で日野病院名誉院長の眼科医玉井嗣彦さんは、往診のエチケットや予防医学の話。高齢化が進む過疎地医療の切実な問題だ……。

つぎつぎのスピーチにうなずいたり感心したり。舌鼓を打ちながら話題を楽しむ。

供された地酒は月山（山中鹿之助ですな）。みなさんホロ酔いながら、建築設計事務所所長の杵村優一郎さんからは「さて、『ロータリーの友』にどんな文章を書かれるか楽しみですなあ」と言われ、ドッキリ。

「歴史の米子RC」といえば、創立二年後の一九五四（昭和二九）年に米子と境港を結ぶ道路の両脇に植樹したケヤキが六〇年余りを経て亭々とした並木になっていた。そんな植樹の奉仕活動は引き継がれ、米子市街から車で一時間ほど南の日野郡日南町の旧日野産業高校演習地跡の荒地六畝に毎年植樹をしている。作業着に着替えた塚田会長に現地を案内していただいた。

県から借りた雑草（ぼうぼう）の土地を切り開き八年前から植えて続けた。ハンノキ、ナラ、オニクルミ、キレンゲツツジ、ヤマザクラ……。木々はまだ低いが、「もう数年もたてば、ここでみんなの花見ができるのではないかな」と、塚田会長が笑った。

もともと鳥取は森林資源の豊かな地帯である。山林業で知られる坂口家の坂口合名会社社長の坂口清太郎・米子商工会議所会頭と、弟で山陰放送社長の坂口吉平さんも米子RCの会員だ。

百寿会であいさつをするよう促され、とっさに鳥取県東部の山地に伝わる「きらずが肥え」なる



米子市淀江町は古代の要衝。伯耆古代の丘公園

古いことわざを思い出した。三十数年前に取材した鳥取商工会議所会頭でロータリアンでもあった故米原譲さんから教わった。米原家も林業から発展した実業家。「東の米原、西の坂口」といわれる。「きらず」とは豆腐を作る際に出るおからのこと。それと木を「切らず」を掛けている。おからは栄養価が高く肥料にすれば樹木がよく育つ（肥える）。

「……つまり『木は切らないことがいちばんの肥料なんだよ』という教えたとか。米子RCの歴史を大切に切らすことなく、未来永劫（えいこく）ますます地域に、日本に、世界に貢献され、発展されんことをお祈りします」

岩田一平（いわた いっぺい）ジャーナリスト、歴史作家。アサヒカメラ、朝日新書編集長など歴任。著書に『縄文人は飲んべえだった』『珍説奇説の邪馬台国』ほか。

熊谷武二（くまがい たけじ）写真家。公益社団法人日本写真家協会会員。人物、歴史を取材テーマに、雑誌、出版物等に発表。写真集『神戸・消滅と再生』（講談社）。



左から、山崎昭子さん、富永暁子さん、勝部芳子さん



野球チーム



百寿会

「食事を楽しみながら、一人三分間ずつ持ち寄った話題をスピーチしてもらいます」
と、百寿会幹事の船越清輔さんがいう。皆生病院薬剤部長。名刺には「旧加茂川、

「食事を楽しみながら、一人三分間ずつ持ち寄った話題をスピーチしてもらいます」
と、百寿会幹事の船越清輔さんがいう。皆生病院薬剤部長。名刺には「旧加茂川、

一〇〇人。関西のお客さんが多い。仕事をリタイアしてこちらに移り住む人もいます。海流の関係から北と南の魚両方取れる。郷土料理自慢というより食材そのものもいい。いまの時期ですか？モサエビとか、沖合底引き網漁の時期ですね。ハタハタなんか秋田で一時取れなくなったときに、こちらから運んだこともありましたよ」（中島さん）
宿の玄関に作家で僧侶の故今東光さんの書、「色即皆生」
色即是空ではない。「万物皆生きてる」だ。
その夜、市内の料理屋でモサエビやクロムツなど生きのいい海の幸を肴に一献。地酒の久米桜特別純米八郷をいただいた。すっきりした口あたり。まさに米と水のうまさだ。蔵元は久米桜酒造（伯耆町）。社長の田村源太郎さんも会員である。
会員六九人のうち、女性はいわゆる勝部芳子

さん、眼科医の富永暁子さん、元鳥取大学医学部付属病院看護部長で錦海リハビリテーション病院副院長の山崎昭子さんの計三人。
「みなさん、よくしていただいています。もつと女性会を増やしたいですね」と山崎さん。
塚田会長が掲げた今年度の目標は More Enjoy Rotaryだ。「前年が Enjoy Rotary だったので、もっとエンジョイしようと思って」だそう。
六十余年のケヤキ並木
植樹の伝統脈々と
例会前後、市内球場に米子 R C の野球チームのメンバーが仕事を終え三々五々集まった。米子・境港の五 R C でリーグ戦をしていて本日の対戦相手は第二六九〇地区の庄司尚史ガバナが所属する境港 R C。当方のユニホームはピンストライプだ。てつきり阪神と思ったら、キャプテンの杉原

範行さん（事務機器販売会社役員）が、「いえニューヨークヤンキースでしょう。今日勝てばあと一勝で優勝です」。試合前、記念撮影で氣勢をあげていただいた。結果は五―〇の快勝。
代打で出た広報委員の鑑谷弘信さんは浄土真宗大谷派西念寺住職だ。「バット振ったら転びました。気は若いからだがついていきません」というが、米子 R C の Facebook を運営している。西念寺は秀吉時代の文禄年間、石見国（島根県西部）で開山し江戸時代初期に米子に移った。古刹と I T の「取り合わせの妙」。Facebook をのぞくと、バーベキュー大会やマグロ解体ショーなど、まさに More Enjoy Rotary！
例会の夜、親睦会「百寿会」が開かれた。会場は米子市の西に接する安来市にある道の駅、その名も「あらエッサ」の料亭。月二回開催し丸四年になる。六〇歳以上の会員に入会資格があるが、この日は二一人。歴代会長経験者はじめ根っからのロータリアンたちの集まりとお見受けした。



鑑谷弘信さん

一九五二（昭和二七）年。鳥取県西部の米子・境港にある五つのロータリークラブで、もともと古い歴史をもつ。

じつは筆者のわたくし、三十数年前、新聞記者としての初任地が鳥取市の支局だった。そのころのイメージでは県庁所在地の鳥取は公務員が目立つかしこまった町、米子は開放的な商人の町。いわば「東京と大阪」、中国なら「北京と上海」ですかね。会長の塚田勝美さんにこう尋ねると、「そうですね。米子は外の者でもよく受け入れてくれる。わたしも家は隣の南部町です。場所がら転勤族の会員も少なくありません」

塚田会長は米子市内のL.Pガス販売会社社長だ。

米子城天守代台から市内を一望

大山

米子城址

ん。鳥取市にある鳥取大学農学部獣医学科に学び、やがて米子で動物クリニックを開業。二〇年がかりで犬の伝染病フィラリアを地域から駆逐した。

この日の卓話は、障がいがありながら絵や書を発表し個展や講演を続ける京都の「たけ」こと河村武明さんであった。ギター弾きだったが、一五年前、三四歳で脳梗塞に倒れ「話す・聞く・書く・読む」が不自由になったが、まだ利く左手で筆を執り、絵と書の作品を発表し続ける。紹介者は米子高島屋社長の森紳二郎さんである。転勤族のひとりだ。

「十数年前、私が京都高島屋のバイヤー時代に四条小橋の路上で絵葉書売っている彼に偶然出会いました。いいなあと思って声をかけ京都高島屋で個展をしてもらって、それ以来のつきあいです」

講演はスクリーンの前に、たけさんが身ぶり手ぶり、そこに森さんがナレーションをつける。「あつ・とー！」



松田和義幹事と愛犬ナナ



河村武明さんの卓話（写真左）、河村さんと森紳二郎さん

と、たけさんが叫んだ。それは不自由な喉からふりしぼる精いっぱい「ありがとう」だった。いま自分が生かされていることへのありがとう。米子といえば皆生温泉を思い出す人もいるだろう。会員で温泉宿「海潮園」社長の中島太郎さんは、先代である父親が作家の故野坂昭如さんと早稲田大学の同期で親交が深かった。「文人往來の宿」を掲げる。東京の出版社で執筆のため缶詰めにされていた作家が息抜きに訪れていたそう。だ。「ここは米子の奥座敷で、かつては芸者さんが



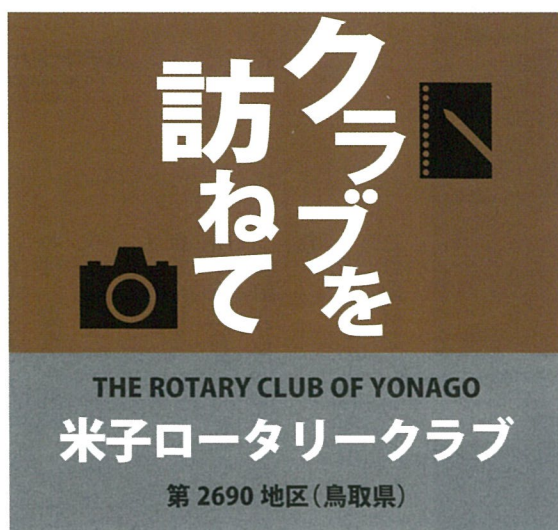
中島太郎さん

歴史の米子RCが掲げる もつと植樹も親睦も

文・岩田一平 写真・熊谷武二

開放的な商人の町
外の者を受け入れる土地柄

お城の天守台に登った。米子城である。「山陰の商都」米子市街を一望した。正面に美保湾、はるか日本海。右手(東)、伯耆富士の大山(二七二九



蔵)がかすむ。その手前、白い煙は王子製紙の煙突だ。左下、中海に開ける米子港、水運で栄えた旧加茂川、岸に白壁の土蔵がちらり。

あれはJR米子駅。山陰鉄道発祥の地、鉄道網の結び目で、山陰本線と境線、岡山に通じる伯備線が乗り

入れる。眼下に市役所や赤レンガの山陰歴史館(旧市庁舎)、鳥取大学医学部と病院……。

米子城の足もとにある米子全日空ホテルで米子ロータリークラブ(RC)第三一三〇回例会は開かれた。

「三一三〇」からおわりの通り、創立は



してしまうと、まともに外の情報を得られなくなってしまう生き物なのです。

例えば、松江にはまだ幸い、木の橋が幾つか残っています。木の橋を下駄を履いて歩いて、下駄の音を子どもたちに聞いてもらいました。最初は、下駄の履き方もわかりません。靴下のまま鼻緒に突っ込もうとしたりするのですが、子どもたちは次第に素足の感触とか、下駄の音の響きに興味を覚えて、「俺、誕生日プレゼント、下駄買ってもらうかな」。そんな子まで現れました。

二〇〇八年からは、「松江ゴーストツアー」を開いています。今はやりの着地型観光なのですが、夜のまちを二時間、怪談を聞きながら歩くというものです。最近ではうれしいことに、この日程に合わせて山陰旅行を組み立てていらつしやる方もいます。今では島根県外の方が八割を占めるようになっていきます。八雲が既に再話した怪談を、現地を訪問して語り部から聞いてもらう、というツアーです。最後に、先ほどご紹介した大雄寺の子育て幽霊の話をこの場所で聞いて終わりますが、このまま解散すると怖いので、タクシーで集合場所までお送りします。

最後に、今行っている活動の中で、オープン・マインドプロジェクトの活動について、お話をします。最初は二〇〇八年に八雲の愛好者であるタキス・エフスタシウさんが、思考の根幹はオープン・マインドだ、これこそ二一世紀に必要な思考だから広めよう、と発言されました。「オープン・マインド」は世界の人が理解できる言葉ですし、私も平和志向でポジティブな言葉だと思いました。二〇〇九年に、ギリシャのアテネのアメリカン・カレッジに会場を提供していただいて、

現代アートを通して、このオープン・マインドを紹介しようというイベントを開きました。予算ゼロで始めたのです。

どうやってスタートしたのか。ウェブ上で、世界のアーティストに、ラフカディオ・ハーンの世界を紹介しました。この八雲の精神性、オープン・マインドに共感するアーティストは造形作品をつくって、アテネにある大学に寄贈してください、と伝えたら、四七点集まりました。

それを展示し、オープニングセレモニーの日には、ギリシャ中から、予想を上回る多くの人たちが集まりました。ギリシャ出身のこんな作家がいたのだということも理解されましたし、またアート、文学に関心があった人たちが一堂に会し、新しい交流の場ができました。

二年目の会場は、松江城の天守閣。この時も「おれの作品が侍キャッスルに展示されるのなら、自費でもいいから松江という所に行ってみよう」と、世界から二〇人ほどのアーティストが、自費で来てくださいました。このように、これからはお金をかけなくても、場合によってはこういった地域振興につながるような文化創造活動ができる可能性があるのかな、と思います。

子どもたちも、こういった作品を通してオープン・マインド、あるいは異文化体験というもの大切さを学んでくれました。そのシンボルとなるモニュメントも松江とアテネに設置されました。オープン・マインド展は、次の年はニューヨークで、さらにニューヨークでも現代アートによるオープン・マインド展が開催されました。

オープン・マインドという言葉が安易にひとり歩きしてもいけませんし、しっかり検証しようと

いうことで、二〇一四年には八雲の生まれたギリシャのレフカダ島で、それを再び考える国際シンポジウムを開催しました。

さらに二〇一五年にはアイルランドでこれが行われまして、父方の国、アイルランドの八雲が一番愛した、トラモアという場所に小泉八雲庭園を地元の方が造られました。昨年一〇月には松江市からレリーフが寄贈され、首都のダブリンでは初めて、「小泉八雲里帰り展」という特別展が行われました。

オープン・マインド・プロジェクトはまだ継続中ですが、五感力とか、グローバルと同時にローカルな視野、両方を持って八雲のように見ていくと、ある程度、物事の本質が見えてくるのだと思います。まさに共生の時代を生み出す原動力になり得る可能性を持っている、と感じています。

これからは経済一辺倒の時代から、持続可能な共生社会を求める時代に変化していくと思います。むしろ価値感が移り変わっていると言った方がいいかもしれません。GDPよりもGNE (Gross National Enjoyment) と言った経済学者もいます。どれだけ知的な喜びで人生を満たすか、という価値感にシフトする時代が来るだろう。それがまさに文化資源であったり、六次産業化であったり、あるいは経済学者・藻谷浩介さんがつくった言葉ですが「里山資本主義」であったり、「創造的地域社会」という言葉であったりするのかなと思います。

そういった社会の流れの中で、小泉八雲という一人の文学者をこれからも生かしていく活動を、子孫としては継続したいと思っています。

(ホスト 横浜あさみRC)

death」(愛は死よりも強い)という一行を付け加えました。この怪談から八雲が見つけたメッセーが「愛は死よりも強い」だったのです。母の愛は死よりも強い、というのは、まさに普遍的なものだと思います。

八雲はホラーも好きだったと思いますが、ホラーの文化を紹介したいというだけではなくて、実は怪談を通して、そこにある真理というものを伝えたかった。だから『怪談』を書いたのかなと思います。もう一つ、八雲がオープン・マインドと感じられるのは、自然と人間のバランスというのをよく見ていた、ということかなと思います。神戸にいる時に、彼は「地震と国民性」という記事を書いていました。「日本は自然災害が多発する風土だ。だから変化を日本人は受け入れることができるのだ。更新の文化みたいなものがあるのではないか。西洋の文化も短期間で受け入れ、消化して日本流にちゃんと改めていく」

また、伊勢神宮、出雲大社には遷宮せんくうがあります。「まだ使えるのに遷宮をする、そのような更新の文化は日本の国民性なのではないか」と言っています。風土が人間性をつくる、というのも先駆的な考えだと思っています。

一八九六(明治二九)年、八雲が日本人になった年に、『生神様』という作品を書いています。『稲むらの火』として戦前の国語の教科書に出ている話です。八雲は、明治の三陸大津波に衝撃を受けました。

一八五四年、安政南海地震の時、紀伊国広村の庄屋の濱口梧陵はまぐちりよう(一八二〇～一八五)が、機転を利かせ津波を予知して、刈り入れたばかりの稲の束に火を放って、人々に危険を知らせ高台に避難さ

せた、という実話に基づいて再話した話です。

これが後にリライトされて国語の教科書に入りますが、その中で「津波」という言葉を八雲は世界に紹介するわけです。日本人は海水面の突然の隆起を津波と呼ぶのだと。この話は、世界に「津波」という言葉が広まっていった大きな要因の一つです。

八雲の五感力を 子どもたちに伝えたい

今日、未評価の地域文化を観光とか地域振興、まちづくりなどに活用しよう、それを専門的に考えよう、という学問分野ができました。文化資源学専攻が東京大学にできたのが、二〇〇〇年です。学会も二〇〇二年にできています。文化資源はハード、ソフト、ヒューマンからなっているということで、作家や作品もヒューマン資源やソフトの資源になり得るということだと思っています。

当然、背景になる法律も新しいものができた



小泉 凡

■ 島根県立大学短期大学部教授・小泉八雲
記念館館長・焼津小泉八雲記念館名誉館長

ということもあります。文化財を保護しようという法律は五〇年以上前に制定されていますが、二〇〇一年に文化芸術振興基本法ができて、文化は守るだけではなくて、どうやって生かすか、あるいはそれを生かすための行動にシフトしたような法律をつくっているわけです。

そのうちのひとつとして私が松江で取り組んでいるのは、子どもたちに小泉八雲をどうやって生かすか、ということです。二〇〇四年、ちょうど八雲没後一〇〇年という年に松江で何を行おうかと実行委員会が話し合った時に、あるジャーナリストの方が「未来を担う子どもたちが八雲から何か継承する必要があるならば、一過性のイベントで終わらないようなことを行いませんか」と言われました。それに共感して始めたのが「子ども塾」でした。

子どもたちに八雲の何を伝えたいかというと、私は五感力だと思いました。八雲は常に五感を研ぎ澄ませていた人で、五感を使うということは大事だと思っています。人間は五感のどこかがクローズ

一九六一年 東京生まれ。成城大学・同大学院で民俗学を専攻後、八七年 松江へ赴任。小泉八雲、妖怪、怪談を切り口に、文化資源を発掘し観光・文化創造に生かす実践研究や、子どもの五感力育成をめざすプロジェクト「子ども塾」で塾長として活動する。二〇〇一年～二〇二年 米国セントラル・ワシントン大学交換教授。主著に『民俗学者・小泉八雲』恒文社、一九九五年、『文学アルバム小泉八雲』(共著) 恒文社、二〇〇〇年、『怪談四代記―八雲のいたずら』講談社、二〇一四年(二〇一六年に文庫化) ほか。小泉八雲の直系のひ孫。日本ペンクラブ会員。

連絡がありました。

「私はずっとハーンの作品に親しんできたが、その根幹にあるのは、オープン・マインドなのではないか。すぐく思い入れの強い偏屈なところもあった人だが、常に新しいものを拒否しない。進化論も受け入れたし、日本に来て、日本の精神性もすっかりと理解した。例えば音楽の分野にしても、当時は西洋のクラシック音楽だけがミュージックで、ポピュラー音楽や東洋の音楽などはノイズと考えられていたが、それも大事なミュージックだと八雲の耳は捉えた。オープン・マインドということは、二一世紀の共生の時代を実現するためには、一番大事な精神性の一つではないか。だからもつと小泉八雲の世界を、とりあえずはアートを通して広めていくのはどうだろうか」ということを提案されました。

それでオープン・マインドプロジェクトが発足し、世界数か国で行ってきました。ここ一〇年くらいの話です。

八雲にとつて、多神教の世界を歩んできたということが、オープン・マインドにつながったのかなと思います。もちろん、キリスト教教育を受けるのですが、ちよつとそれに反発を覚えるのです。一つの神しか信じてはいけない、ということに疑問を持っていました。

同時に、ニューオーリンズやマルチニクで、黒人文化あるいはアフリカとヨーロッパの交じり合ったクレオール文化を受け入れていきます。交じり合うことによって、むしろ人間は豊かになれるのではないかと感じたのです。さらに日本文化との出会いがあり、自ら日本人になるわけですから、希望を求めた片道切符の人生だったと

言えると思います。

オープン・マインドとは何なのか。そして八雲はどんなことを思っていたのか。二〇一一年に、思想家の内田樹さんが『呪いの時代』という本を出され、その中でオープン・マインドの定義をされているので、ご紹介したいと思います。

「のっぺりした『開かれた人格』というものがごろんと単体で存在するわけではない。そうではなくて、自分の中にある高潔な部分も卑猥な部分も、勇敢な部分も臆病な部分も、寛容な部分も狭量な部分も、すべて受け容れ、それらを『折り合わせて』、とにかくにも統一的な人格を維持している人間のことを『オープン・マインド』と呼ぶのだと僕は思います」

八雲の『怪談』は日本ではよく読まれています。が、未来を予言するようなことも言っています。

例えば、熊本で一八九四年に「極東の将来」というテーマで講演をしているのですが、その中で「将来の日本人にとつて一番大事なこととは自然と共生していくことと、法外な物欲を追い求めないで、シンブルライフを維持していくことが一番大事だ。将来は政治戦争ではなく、経済戦争の時代になるだろう。そうなったら、コストが高い民族はだめだ。おそらくお隣の中国に日本は凌駕されるのではないか」。日清戦争の年に、八雲はこう予言しています。

日本に来てから八雲は教育者をしていました。旧制の中学校、高等学校、東京大学と早稲田大学で教鞭をとりましたが、そういった教育活動を通して二回、講演しています。その中で日本の教育について、危惧している点が三つほどあります。「記憶力偏重で、もつと想像力を育まなければいけない」「日本の親は学校の先生に甘え過ぎだ。家で、単なるしつけというのではなくて、簡単な予習、復習の手ほどきくらいまでしていいのではないか」「極端な詰め込み式の勉強をさせすぎる学校や家庭があるのが、気になる」と、一九〇四（明治三七）年にそういう講演をしているのですが、今も、日本の教育にはそういう課題が残されているのではないかと思います。

一番読まれている『怪談』は最晩年の作品ですが、八雲は人生の中で七〇話くらいの怖い話を再話しています。その中で、八雲は「超自然の文学には一面の真理が必ずある。だから人々のその真理に対する関心は、将来お化けが信じられない時代が来ても、決して、変わらないだろう」と言っています。

怪談の真理とは何かということですが、真理というからには、時空を超えて変わらない本当のことだと思えます。例えば、八雲がもつとも好きだった怪談の一つに、こんな話があります。

松江の大雄寺というお寺にまつわる子育て幽霊の話です。このお寺の前にあめ屋さんがあった。そのあめ屋さんに毎晩、白装束を着た青白い顔をした女性が水あめを一厘分だけ買いに来る。毎晩来るので、あめ屋の主人が不思議な気持ちであとをつけていくと、このお寺の墓地に入っていた。あるところで、忽然と姿をくらしました。しばらくすると、赤ちゃんの泣き声が地中から聞こえるので、あわてて墓を掘り返してみると、元氣な赤ちゃんがちようちんの火を見て笑っていた。そしてその隣に、毎晩水あめを買いに来たお母さんのむくろがあつたという話です。

これに八雲は最後に、「Love is stronger than



松江ゴーストツアー 代々の松江藩主の菩提寺であり、国の史跡でもある月照寺にて 写真提供：小泉 凡

カリブ海のマルティニク島にも二年間、滞在しました。一八九〇（明治二三）年、三九

す。本当にここはキリスト教の国なのかと思うくらい、森羅万象に精霊が宿するというアニミズム的な信仰が残っています。

歳の時に日本に来て、日本では最初は横浜に住み、そのあと松江、熊本、神戸、東京に移り

八雲が住んだ松江という場所は、荒神さんという神様が各地に祀（まつ）られています。これは地域の農耕を司（つかさど）るオールマイティの神で、毎年一月に御神木のしめ縄を付け替えます。八雲はこういったものに大変共感したのです。それはやはり、アイルランドのケルト民族の文化を受け入れていたからだと感じます。

住み、五四歳で片道切符の人生を終えています。まさに片道切符でして、二度と元来た道に戻ることはありませんでした。

怪談を通して そこにある真理を伝える

アイランドは今でもカトリックの国なのですが、民間信仰が残っていて、「妖精の輪」とか「妖精の道」と呼ばれるキノコ

作家や文学作品の顕彰活動は、どの作家についてもあったと思います。しかし、ここ一〇年ほど単なる顕彰活動ではなく、地域活性化とか、共生の時代を実現するための一つの切り口として、それを活用できるのではないか、というような動きが出てきたと思います。

などの菌類がリング状、あるいは道のような形状に生えている場所があります。「妖精の輪」の下には妖精たちが住んでいると思われるいま

二〇一〇年に松江市で、「ハーンの神在月 全国・小泉八雲の会&ミュージアムの未来を考えるサミット」というイベントを行いました。主に日本国内ですが、八雲に関する顕彰団体、研究団体、あるいはミュージアムが、三〇団体くらいあります。それら関係者の方々に集まっていただいて、小泉八雲を社会資源としてどう活用できるのか、ということ話をしました。その結果、教育や文化活動、観光という場面でもっと活用できるのではないかという機運が高まったのです。

同時にこのころ、長年、八雲を愛読してきたギリシャ人のタキス・エフスタシウさんから、突然

オープン・マインドを 現代に活かす 小泉八雲から考える

八雲にとって、多神教の世界を歩んできたということが、オープン・マインドにつながったのかなと思います。同時に、ニューオーリンズやマルティニクで、黒人文化あるいはアフリカとヨーロッパの交じり合ったクレオール文化を受け入れていきます。交じり合うことによって、むしろ人間は豊かになれるのではないかと感じたのです。

島根県立大学短期大学部教授・小泉八雲記念館館長・
焼津小泉八雲記念館名誉館長

小泉 凡
Bon Koizumi

さまざまな文化をとり入れた 片道切符の人生

私の曾祖父、小泉八雲（一八五〇～一九〇四）は、一八九〇年四月にアメリカから横浜にやってきました。横浜の印象が良かったので、アメリカの出版社との契約を解消して、日本に永住することを決めました。

小泉八雲は本名をラファディオ・ハーンと申します。松江に赴任した時に小泉セツという女性と出会って結婚し、四人子どもがおります。英国籍ですが、実態はギリシャ系アイルランド人です。一八五〇年にギリシャのレフカダ島という小さな島で生まれ、二歳のときにはアイルランドに移り、一九歳の時に家が破産し一文無しになって、移民としてアメリカに渡りました。

アメリカに渡った当初、アメリカ・オハイオ州シンシナティでどん底からはい上がって、自分で記事を持ち込んで新聞記者として生業（なりわい）を見つけていきます。そこで、混血女性と結婚しますが、当時、オハイオ州の法律では、有色人種と白人の結婚は認められていませんでした。八雲は、そういった肌の色や人種で区別されるのはおかしい、と思っていた人でした。法律を破って結婚したので、従ってこのまちに住めなくなってしまう、会

社はすぐに解雇されました。今度はルイジアナ州のニューオーリンズに行きます。

ニューオーリンズもまた独特のまちで、もともととはネイティブアメリカンであるチョクトー・インディアンが住んでいました。そこにフランス人が入植してまちを開いたので、「新しいオルレアン」と名づけました。英語読みではニューオーリンズとなります。綿花の栽培をするために多くの黒人奴隷を西アフリカから連れてきて、そこでアフリカの文化、フランスの文化、先住民の文化が交じり合って、いわゆるクレオール文化が花開いたまちです。ジャズという音楽がここで生まれたのは、そういった背景があります。

八雲はニューオーリンズで日本と出会います。一八八四年から八五年にかけて、ここで万国博覧会がありました。万博には、日本の工芸品や教育関係の資料が展示されていて、彼は日本という国に大きな関心を持ったのです。

ニューヨークに一度戻った八雲は、『古事記』に出会います。『古事記』は既に、一八八二（明治一五）年、イギリスの言語学者バジル・ホール・チェンバレン（一八五〇～一九三五）という語学の天才によって、英訳されています。

このチェンバレンの英訳『古事記』を読み、ますます日本に來たくなります。英訳『古事記』が面白いのは、開くと見開きに神話地圖があることです。この一番上のよく見えるところに、「出雲神話群」と書いてあります。この「出雲」という言葉に、八雲は引かれます。『Idzumi (出雲)』というところに行けば、日本文化の古層が残っているに違いないと思うのです。

八雲は二〇年間、アメリカ大陸で過ごします。

11月はロータリー財団月間です
10月31日～11月6日は世界インターアクト週間です

THE ROTARY-NO-TOMO

オープン・マインドを現代に活かす
小泉八雲から考える

■島根県立大学短期大学部教授・小泉八雲記念館館長
焼津小泉八雲記念館名誉館長
小泉 凡

4
65

シリーズ クラブを訪ねて

歴史の米子RCが掲げるもつと植樹も親睦も

米子RC・第2690地区

文・岩田 一平 写真・熊谷 武二

9
60

友愛の広場

ホーム例会一〇〇〇回皆勤達成に寄せて

人生の先輩の背中に学んだこと

あゝ上野駅

米山奨学生がつなぐ奉仕事業

台湾・台北草山RCを訪問して

インダクションに参加して

出席こそロータリー

シユバイツァー博士の遺したもの

●わがまちの味

福岡平成 平川 猛展
厚木中 山本 道子
東京本郷 深澤 壽一
金沢 水上慎太郎
鹿児島サンウインド 吉田美佐子
神戸東 山野 英
前橋東 馬場 誠
静岡 吉田 幸一

13
56

卓話の泉

日本DMATの活動

消化器疾患ではない腹痛症について

中井 國雄
魚津 青山 圭一

18
51

米山梅吉の一冊

ロータリー俳壇

ロータリー歌壇

ロータリー柳壇

◆長谷川 權 選

◆馬場あき子 選

◆てじま晩秋 選

18
51

20
49

20
49

20
49

ロータリー・アット・ワーク

森で学んだ地球の歴史

逗子ロータリークラブ

〈写真〉広島中央／函館／第2790地区／福島西／

白根／旭川モーニング／八日市南／熊本東南／

鶴岡／東松山むさし／高槻／川崎高津／真庭／

宇部西／東京調布むらさき／桶川

広島から平和を発信 小さな祈りの影絵展を支援

第五〇回地区一A年次大会に学ぶ

隅田川花火観賞会開催

第一九回納涼寄席 笑顔があふれる会場

精神科病院の夏祭りで社会奉仕

甲子園での勝利とお国自慢大賞受賞

出雲RC百年歌

高松RC地域クリーン事業

環境保全 ヤマユリの里を守って七年

親子で体験教室 削り華でフラワーアート

壬生町 親子で学ぶ地域の歴史と命の大切

『友』を読もう 『友のお供新聞』を発行

広島北

第二五七〇地区

東京荒川

明石南

郡上八幡

柳井西

出雲

高松

秦野中

高山中央

壬生

水戸



22
47

表紙レイアウト 箕牧 彰

表紙題字 加藤 光峰

●横組みの目次は、反対側の表紙を開いた41～51ページにあります。

●本文・写真などの無断転載・複製を禁じます。

一般社団法人 ロータリーの友事務所
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル4階
Tel. 03-3436-6651 Fax. 03-3436-5956
編集部メール hensyu@rotary-no-tomo.jp

ロータリーの友
Home Page
www.rotary-no-tomo.jp



ロータリー ダイナースクラブ
コーポレートカード、
ポリオのない世界をめざして。

ロータリー ダイナースクラブ コーポレートカードの導入メリット

- ダイナースクラブカードでお支払いただくと、ポリオ撲滅に貢献いただけます。
- 1年を通じて奉仕活動にかかる経費処理を各地区やクラブ口座で一元管理していただけます。
- ロータリー ダイナースクラブ コーポレートカードの年会費が無料です。



カードの種類	ご入会対象者
クラブカード	会長／副会長／幹事／会計／理事／会長エレクト／次期副会長／次期幹事／次期会計／次期理事
地区カード	ガバナー／ガバナー補佐／地区代表幹事／ガバナーエレクト／ガバナー／ミニ／直前ガバナー／次期ガバナー補佐／次期地区代表幹事／次期地区会計長
地区委員会カード	地区内の各委員会委員長／地区内の次期各委員会委員長 (現地区財団委員長、次期地区米山委員長、次期地区青少年奉仕委員長など)

お問い合わせはこちら

お電話で **0120-041-962**
受付時間：平日10:00～20:00
土・日・祝10:00～18:00

ウェブサイトで www.diners.co.jp/ja/rd/rotary

ダイナースクラブ ロータリー

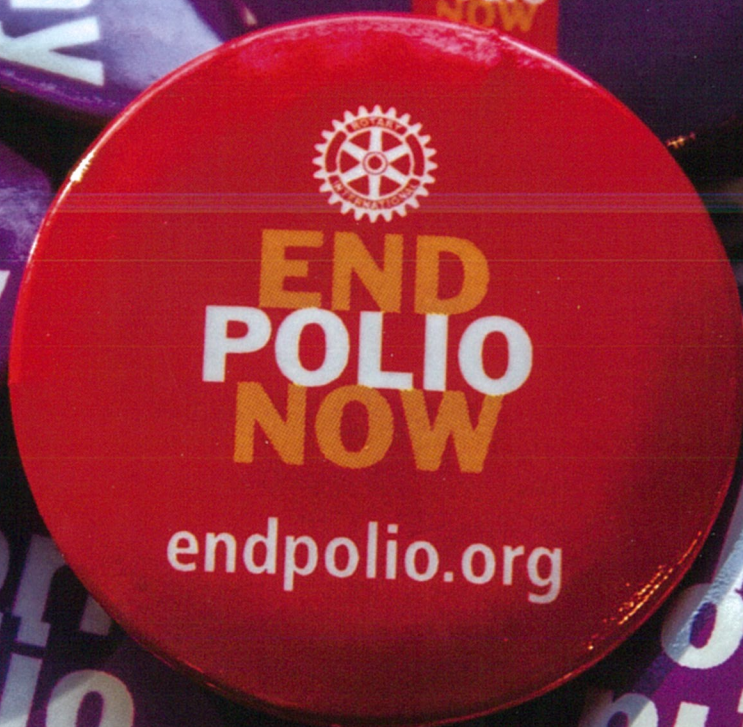
検索



THE ROTARY-NO-TOMO

ロータリーの友 11

2016
NOVEMBER
VOL.64 NO.11



SPEECH

オープン・マインドを現代に活かす

小泉 凡

クラブを訪ねて

米子ロータリークラブ

Rotary

